

令和7年度埼玉県学力・学習状況調査報告書

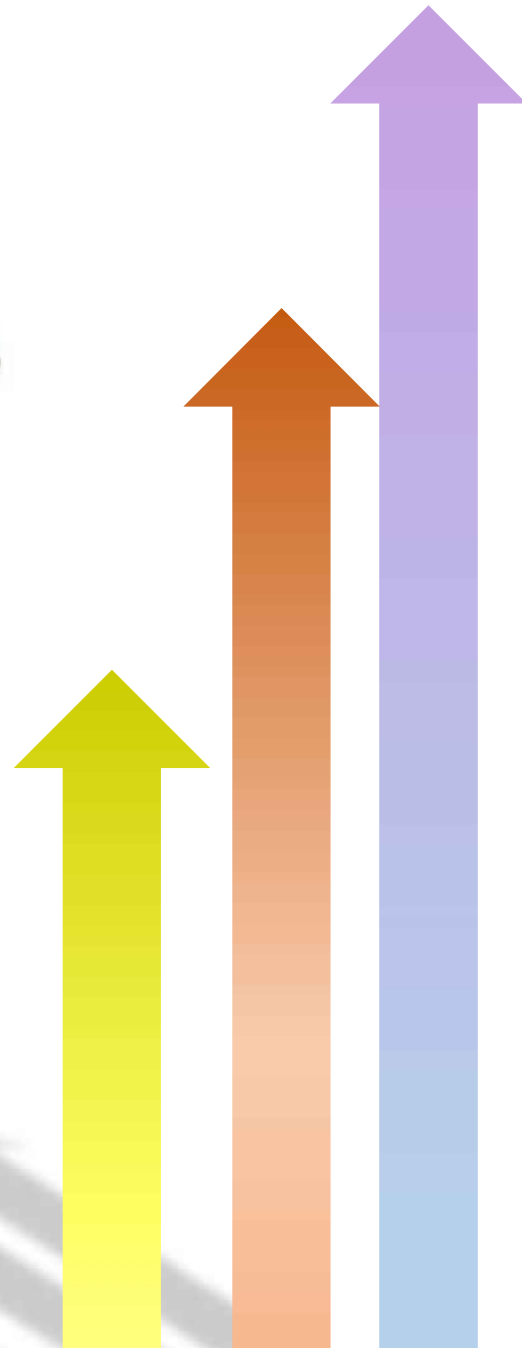
〔令和7年4、5月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～



埼玉県マスコット「コバトン」

令和7年12月
埼玉県教育委員会



はじめに

埼玉県学力・学習状況調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているか」という従来の調査の視点に、「児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という新たな視点を加えた自治体初の調査として始まり、本年度11回目を迎えました。

令和6年度からは全校CBTでの実施となり、解答時間と見直し時間といった結果（以下、解答ログと略記）が加わったことで、よりきめ細かな指導が可能になりました。

本報告書では、調査の詳細や校内での帳票の活用方法の例、これまでの実施状況から見えてきたこと、調査結果の分析による指導のポイントなどを、分かりやすくまとめています。

今回の分析では、児童生徒質問調査から主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善につながる内容が、解答ログの分析からは見直しを行う児童生徒は正答率が高いといった傾向などが分かってきました。各学校においては、児童生徒の学力の伸びと合わせて非認知能力や学習方略などの結果から一人一人のよさを見つけ認めていただくとともに、解答ログから問題に粘り強く挑戦している姿などを読み取り、日々の指導に御活用ください。

本報告書では、そのほかにも各種分析結果を紹介しています。教職員の経験や勘だけに頼らない、エビデンスに基づいた指導・支援のため、校内研修など授業改善に向けた話し合いの機会などで積極的に御活用ください。

また県では、今年度新たに、学校の分析支援の一つとして、県内327校をオンラインでつなぎ、結果帳票を活用して分析を行う「複数校一斉型ハイブリッド研修」を実施しました。今後も引き続き、各校児童生徒一人一人の学力と学習意欲を確実に伸ばす教育を引き続き推進してまいります。

今後とも、御理解・御協力をお願いいたします。

令和7年12月

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長

山 川 喜 葉

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

【 県教育委員会の取組 】

これまでの成果

- ・「主体的・対話的で深い学び」は学習方略、非認知能力の向上を通じて学力を向上させる相関があること
- ・学級経営が、主体的・対話的で深い学びの実現や学習方略、非認知能力の向上に重要であること



- ・「よいところを」認められた児童生徒は自己効力感が向上し、どの学年・教科でも学力が高い傾向があること
- ・解答ログからきめ細かな支援・指導に向けた授業改善につなげていくこと



埼玉県学力・学習状況調査の実施・結果返却

総合的な支援

- ・全ての小・中学校等、児童生徒への支援
- ・各市町村・学校における取組の共有を促進
- ・調査データの分析結果の普及
- ・効果的な取組を県内で広く共有

主な取組

- ・学力向上推進協議会の実施
- ・県学調結果の分析や効果的な活用のための支援
- ・優れた指導技術の共有・普及
(映像・アクションリサーチ)

重点的な支援

- ・特に支援が必要な市町村・学校への対応
- ・特に学習のつまずきが見られる学年・教科等への対応
- ・各市町村・学校の実態に応じた課題に対する支援

主な取組

- ・県学調結果に基づく市町村や学校に対する支援
- ・「未来を生き抜く人材育成」学力保障スクラム事業
- ・学力向上研究校指定事業
- ・学力向上プロジェクト教員の配置

結果分析・活用の支援

- ・複数校一斉型ハイブリッド研修
- ・分析支援プログラム
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査等

調査から見えてくる！

- ・学力・学習の伸び
- ・非認知能力・学習方略の状況
- ・学習に対する意欲・態度の状況

【 市町村教育委員会・学校の取組 】

- ・調査データに基づき、児童生徒の実態を多角的・多面的に分析・把握
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善PDCAサイクルの確実な実施
- ・校内研修等で学力を伸ばした取組の共有

児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす

【 児童生徒・家庭の取組 】

- ・自分自身の成長(伸び)を実感し、自己効力感を高めながら次の学びへの挑戦(児童生徒)
- ・「よいところ」「努力が必要なところ」を把握し、一緒に具体的な目標の設定(保護者)

目 次

はじめに

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

第1章 調査の概要

1 調査の概要	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象	2
(3) 調査の内容・方法	2
(4) 調査実施日等	3
2 CBT化と解答ログ	3

第2章 調査結果の概要

1 「学力の伸び」の状況（令和2年度～令和7年度）	5
(1) 学力のレベルの経年変化（令和2年度～令和7年度の6年間）	5
(2) 学力が伸びた児童生徒の割合	5
2 調査からみられた傾向	7
(1) 授業の見通しと学びの自覚	7
(2) 話合いと考えの変容・深まり	8
(3) CBT化による解答ログを用いた分析	8
(4) 「授業の内容がわかる」と「自己効力感」	9
(5) 「主体的・対話的で深い学び」と「学校生活へのやる気」	11
【参考資料】学習方略や非認知能力の質問事項	13

第3章 調査結果の活用

1 個人結果票、結果帳票の活用	16
(1) 個人結果票（教科に関する調査結果）の見方	16
(2) 個人結果票（質問調査の結果～規律ある態度の達成目標～）の見方	17
(3) 家庭での活用の仕方	17
(4) 学級担任の活用の仕方	18
(5) 学級担任・教科担当者の帳票結果の分析・活用（例）	19
(6) 学校担当者の帳票結果の分析・活用（例）	20
(7) 市町村教育委員会担当者の帳票結果の分析・活用（例）	22
(8) 帳票48（解答ログの帳票）の活用について	23
2 授業改善への活用	24
(1) 教科別授業改善の視点	24
(2) 学習指導のポイント	26

第4章 特徴的な取組の紹介

1 川口市立芝西小学校の取組	55
2 東松山市立松山第一小学校の取組	57
3 神川町立丹荘小学校の取組	59
4 蓮田市立蓮田中央小学校の取組	61
5 朝霞市立朝霞第五中学校の取組	63
6 鶴ヶ島市立富士見中学校の取組	65
7 寄居町立男衾中学校の取組	67
8 宮代町立百間中学校の取組	69

第5章	その他		
1	学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計	72
2	調査に関するQ&A	76
3	「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査	79
4	学級経営リーフレット～よりよい学級経営を目指して～	82

第1章

調査の概要

本調査の目的や調査の内容等について掲載しています。

さらに、令和6年度からCBT全面実施に伴い、問題の正誤の状況に加えて解答時間等も把握することができるようになり、各学校での児童生徒の状況について、分析の幅が広がりました。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

(2) 調査の対象

県内市町村教育委員会、小・中学校及び義務教育学校並びに小・中学校及び義務教育学校に在籍する児童生徒（教育委員会、小・中学校ともにさいたま市を除く）

【実施校数（実施人数）】

- ・小学校 673校（136, 264人）
- ・中学校 347校（127, 636人）
- ・義務教育学校 4校（689人）
- ・県立中学校 1校（233人）

(3) 調査の内容・方法

ア 調査の内容

(ア) 児童生徒に対する調査

a 教科に関する調査

(a) 対象学年及び対象教科

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

義務教育学校第4学年から第9学年まで（小・中学校の該当学年に準ずる）

(b) 出題範囲

学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前学年までの内容

b 質問調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

(イ) 学校及び市町村教育委員会に対する調査

学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項

イ 調査の方法

C B T（Computer Based Testing）

(4) 調査実施日等

ア 実施日

令和7年4月23日（水）～5月21日（水）

イ 調査時間

(ア) 教科に関する調査は各教科1単位時間

(小学校1教科40分、中学校1教科45分)

(イ) 質問調査は小学校、中学校とも20～30分程度

2 CBT化と解答ログ

令和6年度調査から、パソコンやタブレットを使用したCBTを全校で実施しています。動画で授業場面を再現した出題が可能となり、児童生徒の日頃の学習に即した出題が可能となりました。また、児童生徒の見直しの状況を把握できるようになったため、学習支援が必要な児童生徒の早期発見につながります。

児童生徒一人一人の学習意欲や学力のさらなる向上に向け、CBTの特長を十分に生かして取り組むことが期待されます。

【参考例】映像を活用した問題

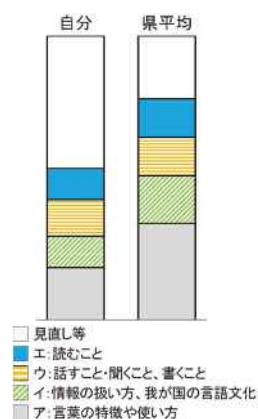


○動画で授業場面を再現した出題が可能

【参考例】個人結果票の一部

	あなたの 正答数	問題数	あなたの 正答率(%)	埼玉県 平均正答率(%)	あなたの かけた時間	県平均 かけた時間
ア	14	17	82.4	68.0	07分24秒	13分39秒
イ	5	6	83.3	64.2	04分25秒	06分40秒
ウ	2	5	40.0	51.3	05分07秒	05分26秒
エ	2	3	66.7	57.5	04分24秒	05分27秒
全体	23	31	74.2	63.6	21分20秒	31分12秒

未解答の問題	表示していない問題	あなたの 見直し等の 時間	埼玉県の 見直し等の 時間の平均
なし	なし	18分40秒	08分48秒



領域等	言葉の特徴や使い方
問題の概要	適切な接続語を選択する
見直し回数	1 正誤 正 県正答率 89.3%
かけた時間	00分23秒 かけた時間 県平均 00分22秒

○正誤の状況に加えて解答時間等を分析することで、より細かく児童生徒のつまづきを把握した指導改善が可能

例えば、【参考例】個人結果票の一部にある「ア：言葉の特徴や使い方」では、「埼玉県平均正答率(%)」よりも「あなたの正答率(%)」は高く、「県平均かけた時間」よりも「あなたのかけた時間」は短いことから、発展的な内容の学習を行うことなどが考えられます。

第2章

調査結果の概要

令和2年度から令和7年度の6年間の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況についての分析や、今後の対応策等について掲載しました。

また、参考資料として、児童生徒質問調査の質問項目、学習方略や非認知能力の質問項目について掲載しています。

1 「学力の伸び」の状況（令和2年度～令和7年度）

(1) 「学力のレベル」の経年変化（令和2年度から令和7年度の6年間）

- どの学年も過去の同学年と同等のレベルに達している。
- 多くの学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。



※表の数値は、各学年の「学力のレベルの平均値」を表している。

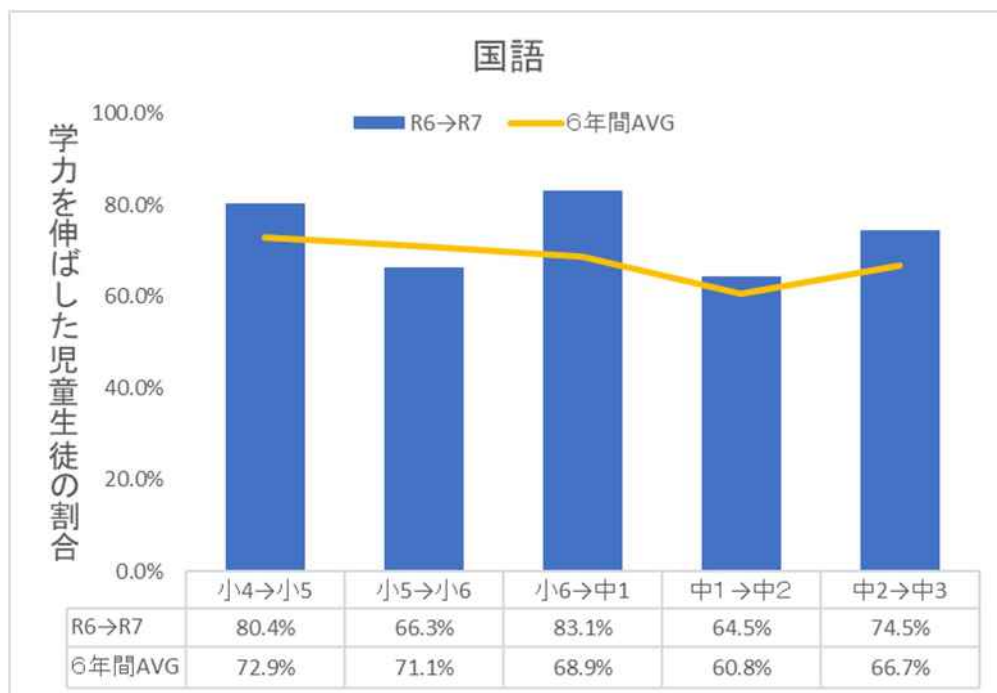
※各学年の学力のレベルは下記の範囲内【36段階（12レベル×3層）】で設定している。

小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
1～21	4～24	7～27	10～30	13～33	16～36

(2) 学力が伸びた児童生徒の割合

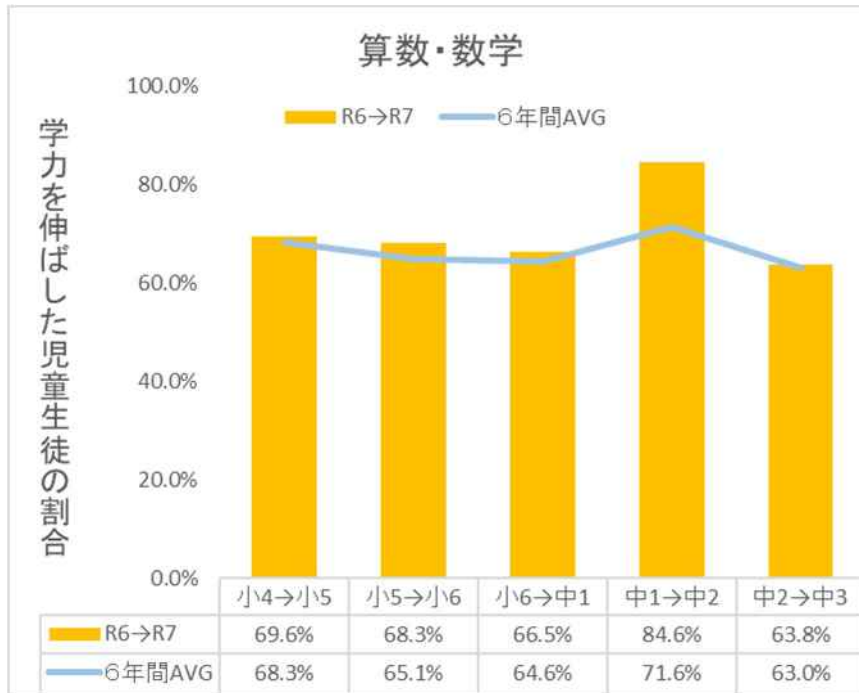
【国語】

- 令和6年度と比較すると、概ね6割5分から8割5分の児童生徒が学力を伸ばしている。
- 過去6年間の、前年度からの学力の伸びの平均値と比較すると、ほとんどの学年（小学校第6学年以外）で、学力を伸ばした児童生徒との割合が増加している。



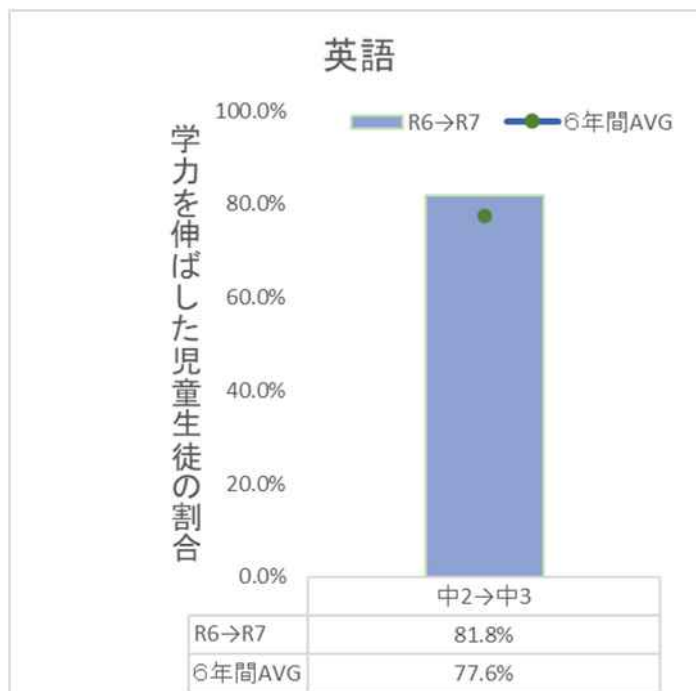
【数学】

- 令和6年度と比較すると、概ね6割5分から8割5分の児童生徒が学力を伸ばしている。
- 過去6年間の、前年度からの学力の伸びの平均値と比較すると、すべての学年で、学力を伸ばした児童生徒の割合が増加している。



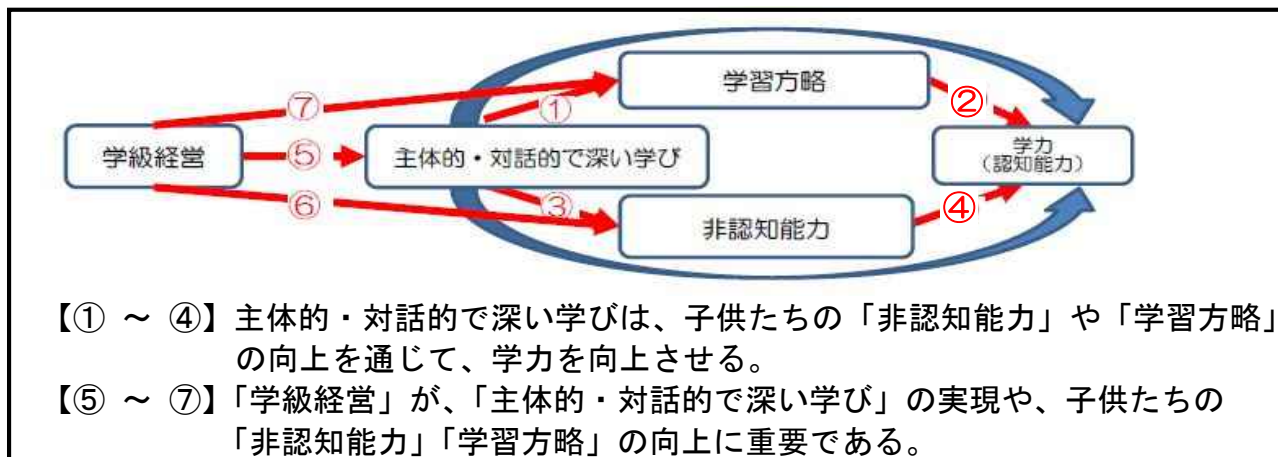
【英語】

- 令和6年度と比較すると、8割以上の生徒が学力を伸ばしている。
- 過去6年間の、前年度からの学力の伸びの平均値よりも、学力を伸ばした児童生徒の割合が増加している。



2 調査からみられた傾向

県学力・学習状況調査のこれまでの分析から、次の図のとおり「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながるということがわかっています。



令和7年の調査からは、主体的・対話的で深い学びに関する児童生徒質問調査の質問項目を分析した結果、次のことがわかりました。

(1) 授業の見通しと学びの自覚

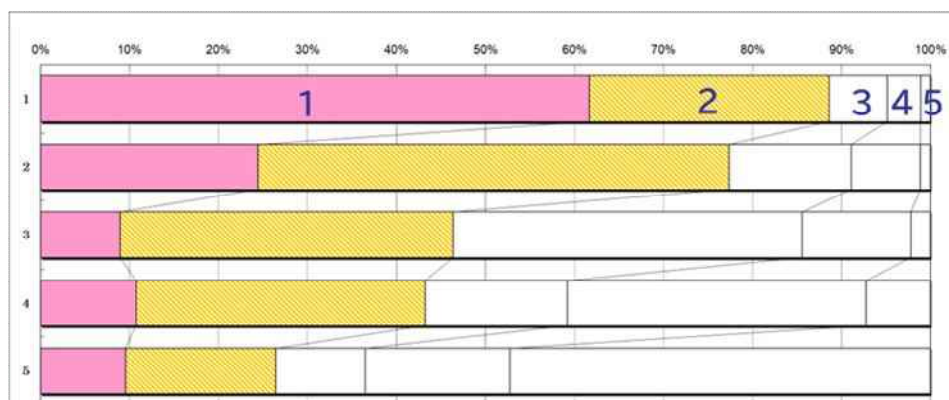
R7分析結果

- 授業のはじめに、「その授業でどんな学習をするか」(ねらい)をつかんだ児童生徒ほど、授業の終わりに学んだことを振り返り、「自分がわかったこと・わからなかったこと」を理解する傾向がある。

中3

「自分がわかったこと・わからなかったこと」の理解

授業の「ねらい」をつかんだ
 よくあった
 ↑
 なかった



1:よくあった 2:ときどきあった 3 どちらともいえない
 4:あまりなかった 5:ほとんどまたは全くなかった

※他の学年においても同様の傾向が見られました。

(2) 話し合いと考えの変容・深まり

- グループ等で話し合い課題解決した経験のある児童生徒ほど、話し合いの結果、「自分の考え方が変わったり、深まったりした」と回答した割合が高い傾向がある。

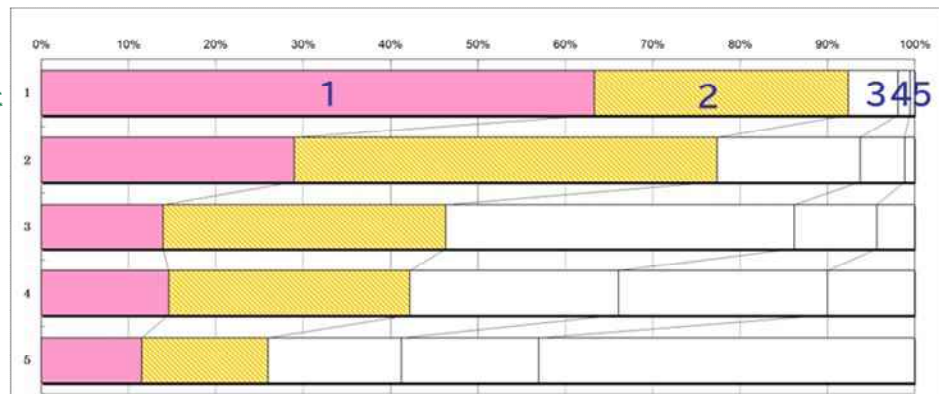
小4

「自分の考え方が変わったり、深まったりした」

グループ等で話し合い課題解決

よくあった

なかった



1:よくあった 2:ときどきあった 3 どちらともいえない
4:あまりなかった 5:ほとんどまたは全くなかった

※他の学年においても同様の傾向が見られました。

(3) CBT化による解答ログを用いた分析

令和6年度のCBT化全面実施により解答ログの取得ができるようになりました。解答ログ、非認知能力・学習方略及び正答率の関係について分析を行った結果、次のことがわかりました。

I **見直しを行う児童生徒は、正答率が高い。**



さらに児童生徒質問調査との関係について分析した結果



II ○**作業方略の数値が高い児童生徒ほど、見直しを行っている。**
○**自己効力感の数値が高い児童生徒ほど、見直しを行っている。**

【作業方略】

学習方略の一つ。ノートに書く、声を出すといった、作業を中心に学習を進める活動

【自己効力感】

非認知能力の一つ。自分はそれが実行できるという期待や自信

見直しを習慣化させるために、作業方略や自己効力感を高める取組が重要

(4)「授業の内容がわかる」と「自己効力感」

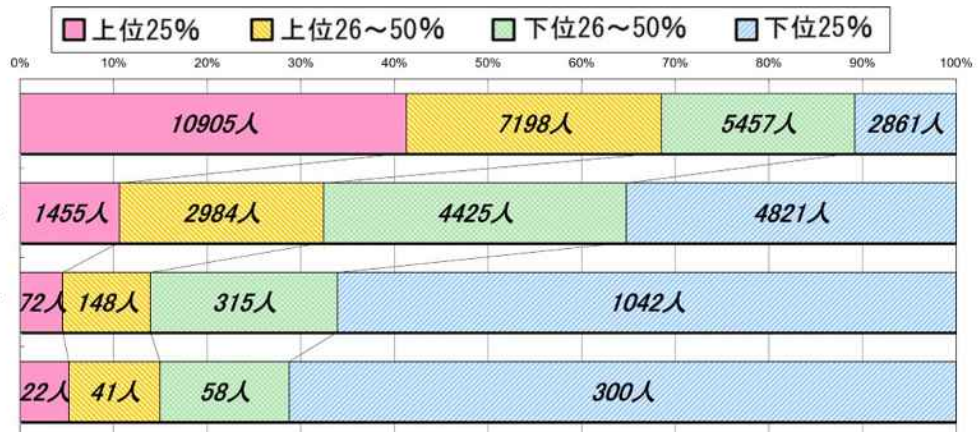
○ 授業の内容がわかったと回答している児童生徒ほど、自己効力感が高い傾向がある。

【先生方へのメッセージ】
 これまでの調査結果から、自己効力感が高い児童生徒ほど、学力が高いこと、学習方略や他の非認知能力を向上させることがわかっています。今回の調査結果から、授業の内容がわかるという経験そのものが、児童生徒の自己効力感を高めることにつながるが見えてきました。
 児童生徒一人一人が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを積み重ねていくことが大切です。
 ○ 学習のねらいと見通しを共有し、児童生徒が主体的に学習に取り組めるようにしましょう。
 ○ 児童生徒の理解の状況を丁寧に把握し、個別のつまずきに応じた支援を行きましょう。
 ○ 児童生徒の実態に応じた無理のない課題設定や段階的な活動を通して、児童生徒が達成感や学びの手応えを積み重ねられるようにしましょう。

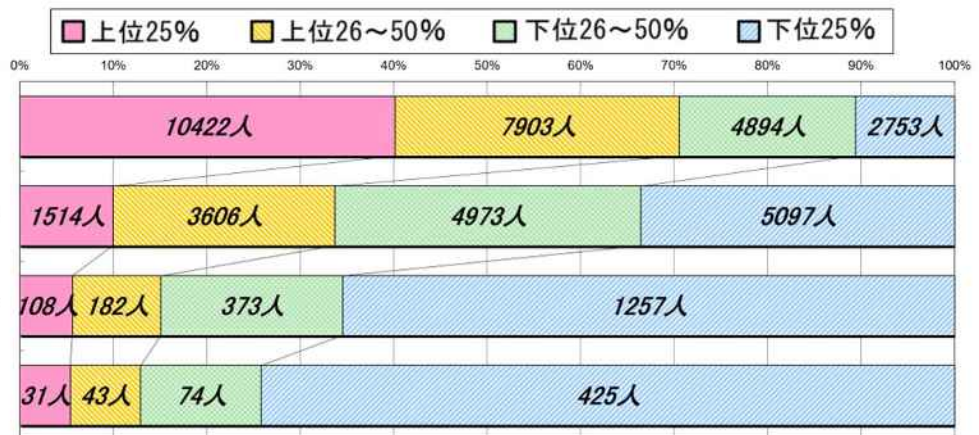
縦軸カテゴリ⇒ 授業の内容はわかりましたか

横軸カテゴリ⇒ 自己効力感の階層

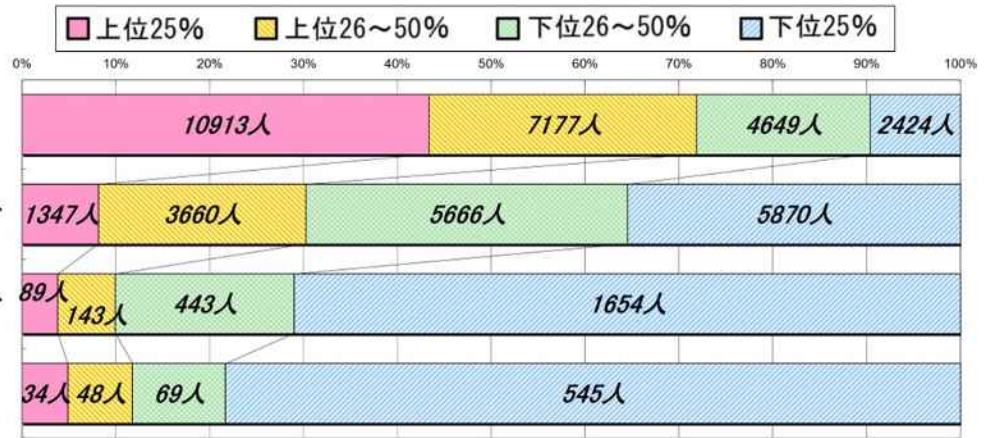
小学校4年生



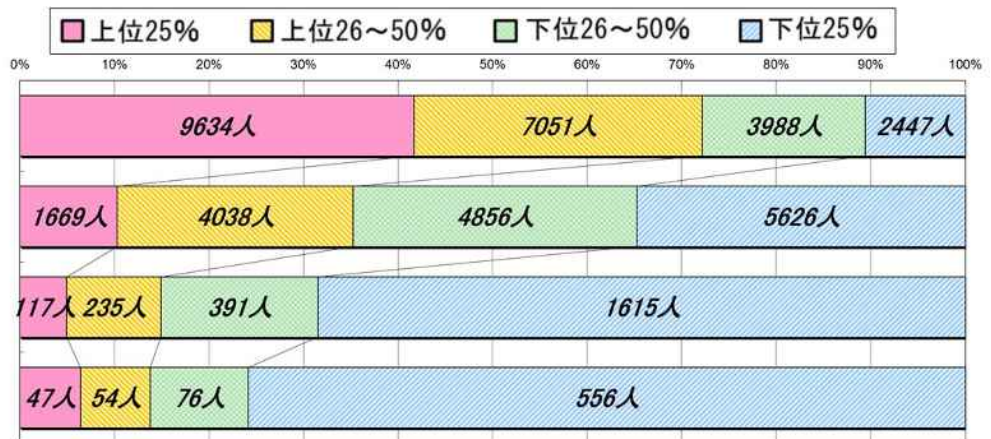
小学校5年生



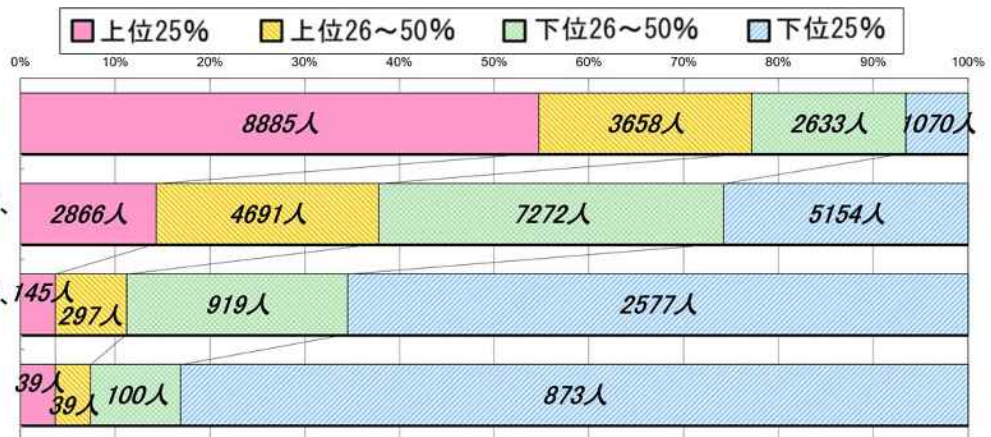
小学校6年生



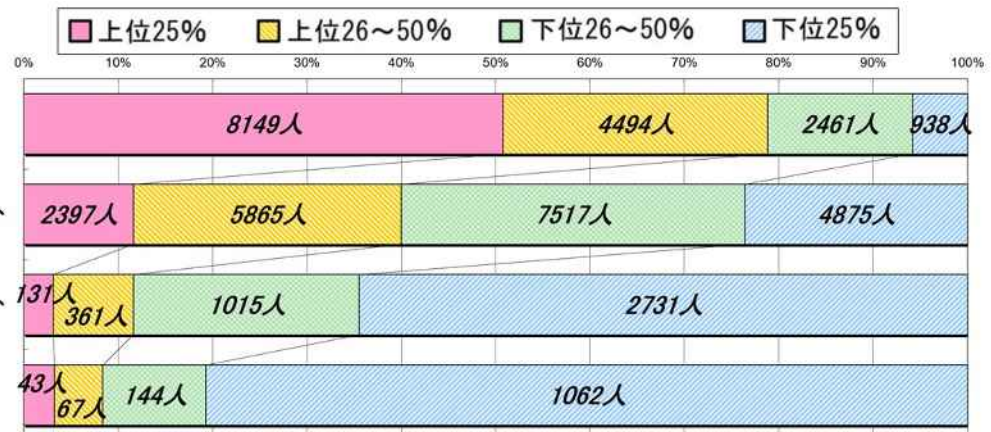
中学校1年生



中学校2年生



中学校3年生



(5) 「主体的・対話的で深い学び」と「学校生活へのやる気」

R 7分析結果

○ 主体的・対話的で深い学びを実現しているほど、児童生徒の学校生活に対するやる気がある傾向がある。

【先生方へのメッセージ】

これまでの調査結果から、主体的・対話的で深い学びを実現しているほど、学力が高くなることがわかっています。今回の調査結果から、主体的・対話的で深い学びの実現が、児童生徒の学校生活に対するやる気につながるが見えてきました。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善は、学力の向上だけでなく、児童生徒の学校生活への意欲や前向きな気持ちを引き出す上でも重要です。

○ 興味や関心を引き出す問いや導入を工夫し、児童生徒の学びに向かう気持ちを高めていきましょう。

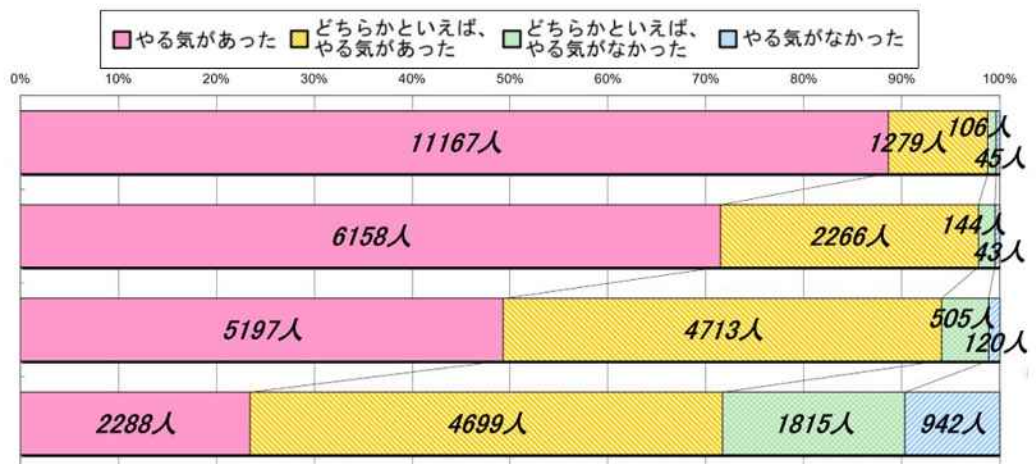
○ 対話を通して考えを広げたり深めたりできる場面を意図的に取り入れましょう。

○ 学んだ知識や考えを関連付けて整理したり、既習事項とつなげたりする活動を取り入れ、理解の深まりを促しましょう。

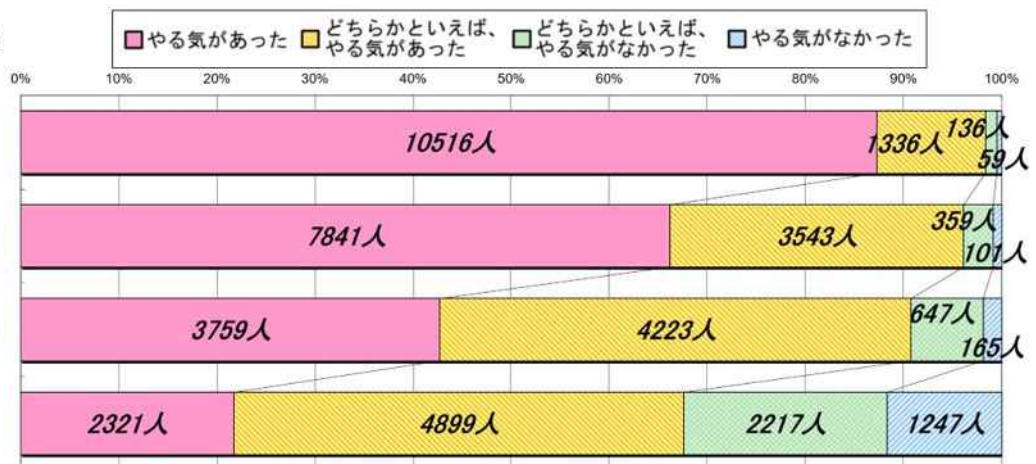
縦軸カテゴリ⇒ 主体的・対話的で深い学びの実施の階層

横軸カテゴリ⇒ 学校生活に対してやる気がありましたか

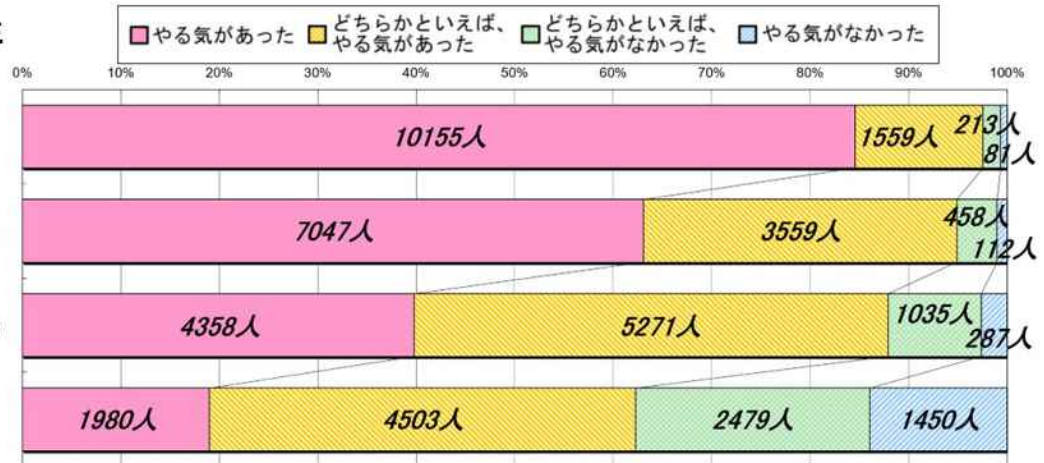
小学校4年生



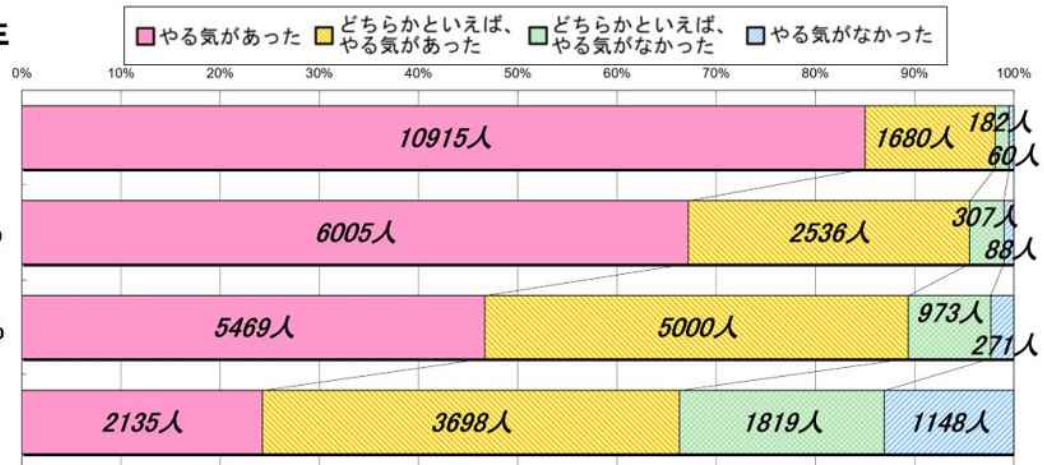
小学校5年生



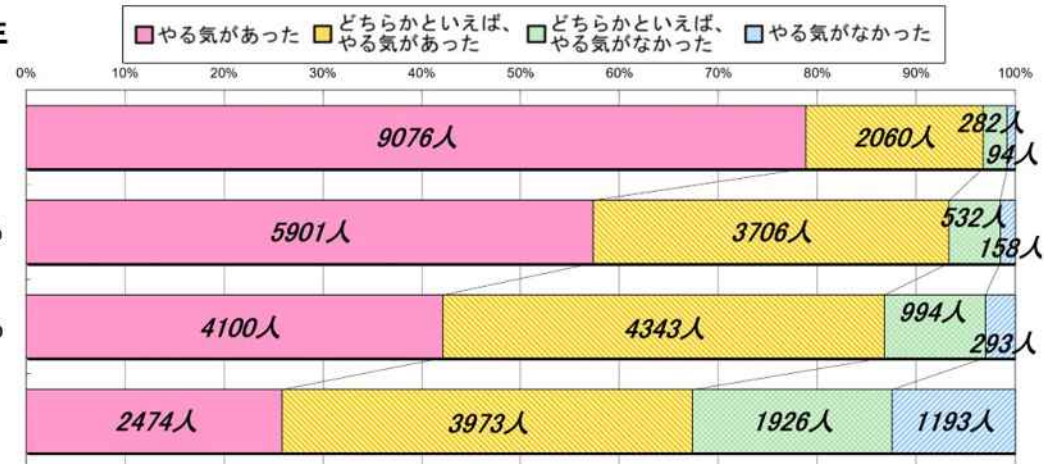
小学校6年生



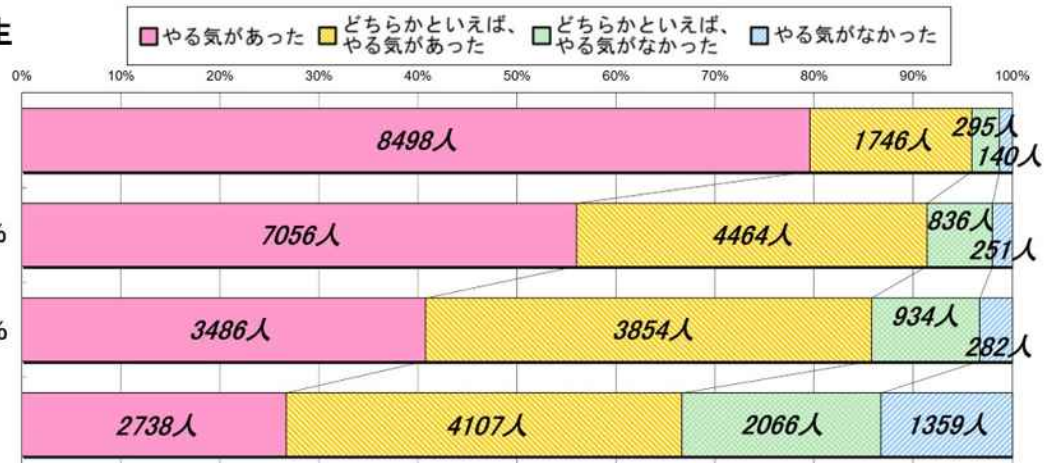
中学校1年生



中学校2年生



中学校3年生



【参考資料】学習方略や非認知能力の質問事項

項 目	説 明
学習方略	<p>子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑤に分類される。</p> <p>① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など</p> <p>② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p> <p>③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など</p> <p>④ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p> <p>⑤ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など</p>
【児童生徒質問の項目】	
柔軟的方略	勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
プランニング方略	勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす
作業方略	勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる
認知的方略	勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないところがあったら、先生にきく 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
努力調整方略	学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単なお題だけ勉強する 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつけられるように努力する
出典：心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉(2007)、心理測定尺度集/堀洋道監修/サイエンス社	
項 目	説 明
非認知能力	<p>テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の5種類について質問を行っている。</p> <p>① 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p>
【児童生徒質問の項目】 令和7年度の全学年に質問	
自己効力感	授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができるだろうと思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば自分はこの授業でよくやっている方だと思う。
	出典： P. Pintrich, et al.(1991) A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire(MSLQ)

<p>② 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和7年度の小学4年生、小学6年生に質問</p> <p>自制心</p>	<p>授業で必要なものを忘れた</p> <p>他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした</p> <p>何か乱暴なことを言った</p> <p>机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものが見つかることができなかった</p> <p>家や学校で頭に来て人や物にあたった</p> <p>先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった</p> <p>きちんと話を聞かないといけないときに、ぼんやりしていた</p> <p>イライラしてるときに、先生や家の人(兄弟姉妹を除きます)に口答えをした</p> <p>出典： Tsukayama, E., Duckworth, A. L., & Kim, B. (2013). Domain-specific impulsivity in school-age children. <i>Developmental Science</i>, 16, 879-893.</p>
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやることができる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和7年度の中学3年生に質問</p> <p>勤勉性</p>	<p>うっかりまちがえたりミスしないように、やるべきことをやります</p> <p>ものごとは楽しみながらがんばってやります</p> <p>自分がやるべきことにほきちんと関わります</p> <p>授業中は自分がやっていることに集中します</p> <p>宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします</p> <p>ルールや順番は守ります</p> <p>だれかと約束をしたら、それを守ります</p> <p>自分の部屋や机の周りをはらかっています</p> <p>何かを始めたら、絶対に終わらせなければいけません</p> <p>学校で使うものはきちんと整理しておくほうです</p> <p>宿題を終わらせてから、遊びます</p> <p>気が散ってしまうことはあまりありません</p> <p>やらないといけないことはきちんとやります</p> <p>出典： Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C. (2003). A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood. <i>Personality and Individual Differences</i>, 34(4), 645-664.</p>
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和7年度の中学1年生に質問</p> <p>やりぬく力</p>	<p>大きな課題をやり遂げるために、しっばいをのりこえてきました</p> <p>新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります</p> <p>きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります</p> <p>しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません</p> <p>少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます</p> <p>何事にもよくがんばるほうです</p> <p>いったん目ひようを決めてから、その後べつ目ひようにかえることがよくあります</p> <p>終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができません</p> <p>始めたことは何でもさい後まで終わらせません</p> <p>何年もかかるような目ひようをやりとげてきました</p> <p>歳が月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます</p> <p>まじめにコツコツとやるタイプです</p> <p>出典： Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., & Kelly, D. R. (2007). Grit: Perseverance and passion for long-term goals. <i>Journal of Personality and Social Psychology</i>, 92(6), 1087-1101.</p>
<p>⑤ 向社会性 … 外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力 (例) 相手の気持ちを考える、親切にする など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和7年度の小学5年生、中学2年生に質問</p> <p>向社会性</p>	<p>私は、誰に対しても親切にしようとしている</p> <p>私は、その人の気持ちをよく考える</p> <p>私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する</p> <p>私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける</p> <p>私は、年下の子供たちに対して、優しくしている</p> <p>私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする</p> <p>出典： Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note. <i>Journal of Child Psychology and Psychiatry</i>, 38, 581-586. Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version. <i>European Child and Adolescent Psychiatry</i>, 7, 125-130.</p>

第3章

調査結果の活用

学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。

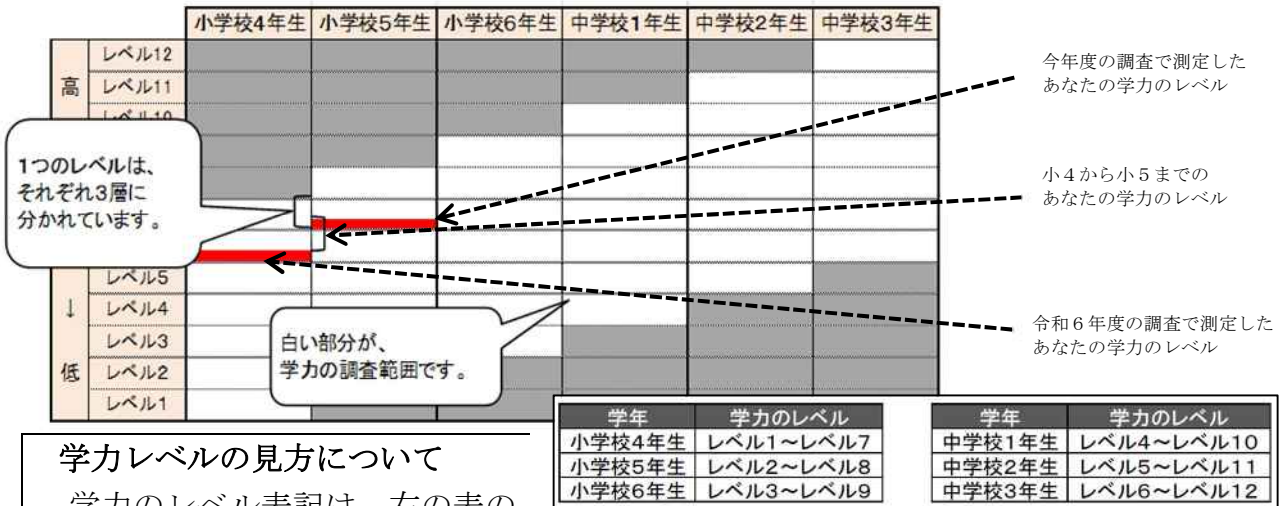
- ① 各学校の実態を把握する
- ② 分析を行う
- ③ 仮説を設定する
- ④ 検証を行う

調査結果から、各学校の実態を把握し、分析を行うことで課題等を踏まえた仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって検証を行うといったP D C Aサイクルの確立につなげてください。

1 個人結果票、結果帳票の活用

(1) 個人結果票（教科に関する調査結果）の見方

例：小学校5年生の教科に関する調査結果の見方



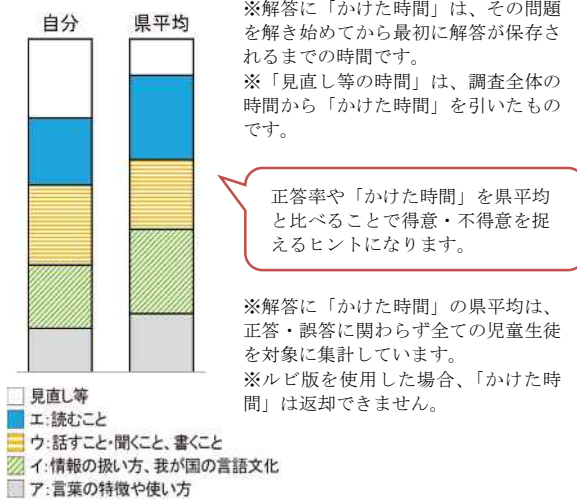
学力レベルの見方について
 学力のレベル表記は、右の表のとおり12段階となっております。例示している小学校5年生ではレベル2からレベル8までの間で、学力のレベルが赤いバーの位置で表されています。

教科の領域等別正答率など

	あなたの正答数	問題数	あなたの正答率(%)	埼玉県平均正答率(%)	あなたのかけた時間	県平均かけた時間
ア	14	17	82.4	68.0	07分24秒	13分39秒
イ	5	6	83.3	64.2	04分25秒	06分40秒
ウ	2	5	40.0	51.3	05分07秒	05分26秒
エ	2	3	66.7	57.5	04分24秒	05分27秒
全体	23	31	74.2	63.6	21分20秒	31分12秒
未解答の問題	表示していない問題		あなたの見直し等の時間	埼玉県の見直し等の時間の平均		
なし	なし		18分40秒	08分48秒		

未解答の問題「あり」＝解答を入力していない問題がある
 表示していない問題「あり」＝最後の問題まで表示していない

領域別の解答時間分布



県平均と比べて時間をかけた問題

領域等	話すこと・聞くこと、書くこと	領域等	言葉の特徴や使い方
問題の概要	相手にわかりやすくなる順番に話の内容を並べ替える	問題の概要	反対の意味の言葉を答える
見直し回数	7	正誤	正 誤
正誤	正	県正答率	57.9%
かけた時間	05分12秒	かけた時間 県平均	01分06秒
見直し回数	2	正誤	誤
正誤	誤	県正答率	67.8%
かけた時間	02分23秒	かけた時間 県平均	01分06秒

※全問正解や全問不正解や県平均ほど時間をかけていない場合には、「-」となって返却されます。
 ※見直し回数は、初めて解答が入力・保存された後に、その問題を再表示した回数です。

学習に関するアドバイス

今回の学力の状況や、今後どのような学習をすれば、お子さんの学力が上がるのかを記載しています。

※ 上記で示す学力は、この調査で測定したものであり、お子さんの学力のすべてではありません。

(2) 個人結果票（質問調査の結果～規律ある態度の達成目標～）の見方

達成目標とその達成状況

達成目標			R7
けじめのある生活 ができる	1 時刻を守る	通学班の集合時刻や登校時刻を守ることができますか	☆
		授業や活動の始まる時刻を守ることができますか	☆
	2 身の回りの整理 整頓をする	脱いだはき物をそろえることができますか	
		机やロッカーの中の整理整頓ができますか	☆
礼儀正しく人と 接することができる	3 進んであいさつ や返事をする	自分から挨拶ができますか	☆
		名前を呼ばれたら「はい」と返事することができますか	☆
	4 ていねいな言葉 づかいを身に付ける	時と場に応じた正しい言葉遣いができますか	☆
		相手の気持ちを考え、優しい言葉遣いができますか	☆
約束やきまりを 守ることができる	5 学習のきまりを 守る	学習の準備を整え、授業に臨むことができますか	☆
		先生の話や友達の発表を聞き、自分の考えを伝えることができますか(グループの中で行うものやパソコン・タブレットを使ったものも入ります)	
	6 生活のきまりを 守る	人の集まる場所では静かにし、姿勢を正すことができますか	☆
		進んで掃除をし、学校をきれいにすることができますか	

☆は選択肢の「よくできる」、「だいたいできる」、「あまりできない」、「できない」の中から、「よくできる」、「だいたいできる」を選択したことを表しています。

(3) 家庭での活用の仕方

①「よいところ」「努力が必要なところ」を把握

調査では、学習した内容が「どれだけ身に付いているのか」がわかります。毎年調査を受けることで「学力の伸び」も見ることができます。結果を見て、お子さんの現在の学力を知り、それをどれだけ伸ばしていくかということが大切です。学校の先生と話し合いながら、お子さんのよさを伸ばしていきましょう。

②一人一人にあった「目標の設定」

「よいところ」「努力が必要なところ」を把握したら、お子さんに合った目標を立てていきましょう。

③家庭学習の習慣化

目標に向けて学力を伸ばしていくためには、学校の授業の予習・復習を中心とした家庭学習を習慣化していくことが必要です。家庭学習を習慣化するためのルール作りも一つの方法です。

(県学調の復習シート <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyoubu/images/fukusyuusi-to2.html> も御活用ください。)

(4) 学級担任の活用の仕方

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。一人一人のつまずきを早期に発見し、その解消を図ることができるよう御活用ください。

返却前

個人結果票に、各学校で保管している個人番号票をもとに名前を記入してください。
※児童生徒に誤った結果が返却されないよう十分に確認の上、返却してください。

返却時

○児童生徒への声かけ

- ・一人一人の1年間の伸びに注目し、認め、ほめてください。
- ・その後に苦手領域を中心に家庭学習をするよう言葉かけをしてください。
- ・解答ログに着目して、県の平均と比較して時間をかけている領域や問題について、適切に声かけをしてください。
- ・今後の学習計画についてアドバイスを行ってください。

○保護者への伝達

- ・可能な限り時間をかけて、お子さんのよさや課題を伝えてください。
- ・伸びたところをほめるとともに、苦手領域を中心に家庭学習を行うよう伝えてください。
- ・家庭学習には、県のホームページから本調査の「復習シート」をダウンロードして活用できることを伝えてください。

(5) 学級担任・教科担当者の帳票結果の分析・活用（例）

1 活用方法(解説動画:県学調の特長3つ!知っていますか?編)

- (1)児童生徒の学力や学習に関する事項等の結果を把握し、つまずき等を早期発見する。
- (2)早期解消のため、PDCA サイクルを確立し、組織的に分析・検証等を行い、指導の工夫改善を進める。
- (3)児童生徒の1年間の伸びに注目し、認め、ほめるとともに、児童生徒、その保護者へ家庭学習を促す。

2 具体的な活用の流れ(解説動画:どうやって学校全体で分析するの?)



埼玉県学力・学習状況調査の結果(PDCA サイクルの CHECK)

○調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④ACTION(改善)を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

○県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析・活用の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

内容	学級の 学力の伸びの状況	指導の工夫改善の 成果	各教科の 実態の把握
帳票の 分析例	帳票40 児童生徒一人一人の学力のレベル・伸び・学習方略・非認知能力の数値から気になる児童生徒の把握・分析	帳票04 学校の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較 帳票10 児童生徒の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較 帳票04と帳票10 2つを比較することで、教職員と児童生徒の意識の差の分析	帳票09 各教科の領域ごと・設問ごとの正答率、無解答率や難易度を県平均との比較・分析 帳票33 学力を伸ばした児童生徒の割合、学力のレベルの伸びの平均の把握 帳票48 県平均と領域ごと・設問ごとの解答ログの比較
活用例	・気になる児童生徒に対する具体的な手立てと方策の検討	・教職員と児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を振り返り、調査結果を授業改善に活用	・既習事項と結び付けた導入の工夫 ・授業改善に向けた具体的な取組の検討
検討者、 検討場面例	・担任、学年職員 ・学年会	・校内研修 ・学年会	・教科部会 ・校内研修
参考資料	総合教育センター義務教育指導課研修用サイトに、R7 版帳票40色分けツール及び説明動画をリニューアルして掲載	「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査について	帳票09解説動画

(6) 学校担当者の帳票結果の分析・活用 (例)

①実態把握

②分析

③仮説

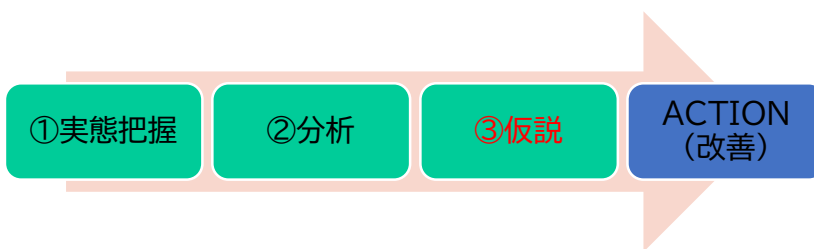
ACTION (改善)

分析	学年全体の学力の伸びの状況	学級の学力の伸びの状況	各教科の実態の把握	指導の工夫改善の成果	学力を伸ばした教員・よい取組の発掘
帳票の分析例	<p>帳票28</p> <p>1 平均学力のレベルの状況の把握・分析</p> <p>①学力の伸び幅の違い</p> <p>②学力のレベルの違い</p> <p>2 学力層別の伸びの状況の把握・分析</p> <p>①学力層別の学力の伸びの状況</p> <p>②埼玉県グラフの傾きとの比較</p> <p>③各学力層の学力のレベルの把握</p>	<p>帳票40</p> <p>児童生徒一人一人の学力のレベル・伸び・学習方略・非認知の数値から気になる児童生徒の把握・分析</p>	<p>帳票09</p> <p>各教科の領域ごと・設問ごとの正答率、無解答率や難易度を県平均との比較・分析</p> <p>帳票33</p> <p>学力を伸ばした児童生徒の割合、学力のレベルの伸びの平均の把握</p> <p>帳票48</p> <p>県平均と領域ごと・設問ごとの解答ログの比較</p>	<p>帳票04</p> <p>学校の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較</p> <p>帳票10</p> <p>児童生徒の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較</p> <p>帳票04と帳票10</p> <p>2つを比較することで、教職員と児童生徒の意識の差の分析</p>	<p>帳票42</p> <p>帳票を前学年の学級ごとに並べ替え、「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」を計算することを分析</p>
活用例	<ul style="list-style-type: none"> ・学力を伸ばした先生が行っている効果的な取組を学校全体で共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる児童生徒に対する具体的な手立てと方策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と結び付けた導入の工夫 ・授業改善に向けた具体的な取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を振り返り、調査結果を授業改善に活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力を伸ばした先生が行っている効果的な取組を学校全体で共有
検討者、検討場面例	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・学年会 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年職員 ・学年会 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会 ・校内研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・学年会 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校担当者
参考資料	<p>帳票28解説動画</p>	<p>総合教育センター義務教育指導課研修用サイトに、R7版帳票40色分けツール及び説明動画をリニューアルして掲載</p>	<p>帳票09解説動画</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査について</p>	<p>R5報告書(§3 調査結果の活用)</p> <p>R6報告書(§3 調査結果の活用)</p>

さらに分析を進める方法

- コバトンのびのびシート(学力に課題のある児童生徒について学力や学習の状況把握等)
- 分析支援プログラム(「学力の伸び」の階層と児童生徒質問調査項目のクロス集計)
- R7 から追加となった、**帳票48**(解答ログの帳票)の活用例

仮説を設定するまでのプロセス例



協議、意見交換を経て、仮説を設定し、それに基づいた改善を行っていきます。

なお、校内研修で、教科部会と学年会でそれぞれ検討したものをとりまとめ、協議し、全校の取組にすることなども考えられます。

協議例1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
 - 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
 - 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。
- (例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例2 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

仮説の設定

- 学年(学校)、教員独自の仮説を設定し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増えるだろう。」

<重点項目> (学年(学校)の実態及び協議・意見交換から設定)

- 例① 学力が低い子供へのきめ細かな指導を行う。
- ② 授業規律を大切にする。

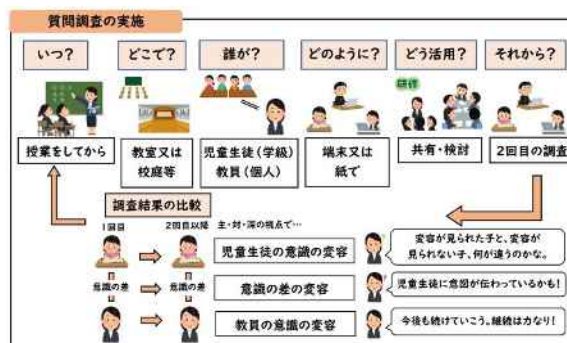
こちらもおススメ

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

教員と児童生徒が授業の振り返りを行うための質問調査で、授業の良さの共有や、改善点とその改善方法を検討するきっかけとすることができます。

《特長》

- 県学調の主体的・対話的で深い学びに関連する質問事項をピックアップ
 - 学年・教科に関わらず使用可能
 - 端末を活用した実施・集計も可能
 - 義務教育指導課研修用資料サイトからダウンロードしてすぐ使える
- [「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査について](#)



(7) 市町村教育委員会担当者の帳票結果の分析・活用（例）

内容	市町村全体の 学力の伸びの状況	指導の工夫改善の成果	学力を伸ばした教員・ 学力を伸ばしたよい取組の発掘
帳票の 分析例	<p>帳票28</p> <p>1 平均学力のレベルの状況の把握・分析</p> <p>①学力の伸び幅の違い</p> <p>②学力のレベルの違い</p> <p>2 学力層別の伸びの状況の把握・分析</p> <p>①学力別の学力の伸びの状況</p> <p>②埼玉県グラフの傾きとの比較</p> <p>③各学力層の学力のレベルの把握</p>	<p>帳票04</p> <p>学校の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較</p> <p>帳票10</p> <p>児童生徒の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較</p> <p>帳票04と帳票10</p> <p>2つを比較することで、教職員と児童生徒の意識の差を分析</p>	<p>帳票42</p> <p>前学年の学級ごとの「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」を分析*</p> <p>*前年度の学級担任や授業担当者を明らかにすることで学力を伸ばした教員を発掘できる。</p>
活用例	<p>学校訪問時の活用方法例</p> <p>【前日まで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問前日までに、訪問する教育委員会関係者で共有し、学校の状況を把握する。 <p>【当日(支援例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組に対する指導・助言 	<p>学校訪問時の活用方法例</p> <p>【前日まで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校質問調査と児童生徒質問調査の意識の差の有無の確認。 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差があれば、それを埋めるための「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善への指導・助言内容の検討。 	<p>学校訪問時の活用方法例</p> <p>【前日まで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の指導案と帳票42を確認し、児童観、指導観に差異がないかを確認。 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差異があれば、指導・助言。 ・学校訪問の分科会で、学力を伸ばした先生が授業で行っていた具体的な指導場面(児童生徒とのやりとりや褒めている様子)を取り上げる。 ・よい取組を収集し、管内へ広げる。
参考資料	<p>帳票28解説動画</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査について</p>	<p>令和5年度県学調報告書(§3 調査結果の活用)</p> <p>令和6年度県学調報告書(§3 調査結果の活用)</p>

(8) 帳票48 (解答ログの帳票) の活用について

NEW

1 帳票48の見方

領域別の平均正答率 (県・市町村・学校)
// 平均解答時間 (県・学校)

問題ごとの自校の正答率と解答時間が、県と比較してどうかを、
4象限で表現 【縦軸：正答率の差、横軸：解答時間の差】



問題ごとに正答率と解答時間を、県・市町村・学校を比較した表及びグラフ
※問題が非公開となっているため、「出題の趣旨」を掲載 (趣旨だけでイメージしづらい場合には、帳票09の「問題の概要」も参照)

2 帳票48の活用例

4象限に注目すると、次のように考えることができます。

	集団の傾向	授業改善の考え方	具体的な対応
A	解答時間が長く、 正答率が高い	思考を整理するための 授業改善	既習事項を振り返る際に、児童生徒の考えを整理しながら、授業を展開し、新たな学習内容を展開していく。 繰り返し振り返る機会を設けて、できたことを称賛しながら定着を図る。
B	解答時間が長く、 正答率が低い	基礎・基本を徹底するための 授業改善	既習事項を丁寧に振り返り、取り組ませる。どこでつまづいているかを教師が見取り、できていることをほめながら自覚させ、基礎・基本を定着した上で、新たな学習内容を展開していく。
C	解答時間が短く、 正答率が高い	既習内容を精選した 授業改善	既習事項の復習に充てる時間を短くし、新たな学習内容に取り組む時間を増やしたり、発展的な内容に挑戦させたりしていく。
D	解答時間が短く、 正答率が低い	粘り強さを実感させる 授業改善	粘り強く取り組ませる重要性を実感させる。既習事項と新たな学習のつながりを実感させながら学習を進めたり、繰り返し振り返る機会を設けたりすることで、できたことを称賛し、自己効力感を高め、定着を図る。

児童生徒の実態によって、授業改善の方法は異なります。どこで既習事項の時間をかけるか、どこで既習内容を精選し発展的な内容に挑戦させるかなど、検討する一つの材料にしてください。

2 授業改善への活用

(1) 教科別授業改善の視点

国語科

【今年度の調査からみられた課題（傾向）】

- 小学校では、各学年で「言葉の特徴や使い方」の領域で正答率が高い傾向がある。「話すこと・聞くこと、書くこと」の領域では各学年で平均正答率が低い傾向があり、課題が見られた。
- 中学校では、前年度と比べて第1学年で全体的に伸びが見られた。「読むこと」（第2・3学年）では平均正答率が低く、課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

授業や単元で身に付けさせるべき言語能力を明確にすることで、児童生徒が学習に見通しをもち、自らの学習を調整しながら主体的に学習に取り組むことができるようにしましょう。

○「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

言語活動を通して、児童生徒が課題の解決に向けて他者と話し合ったり交流したりする場面を意図的に設けましょう。そして、その際には児童生徒が解決すべき課題を明確にすることや他者との意見や考えの比較がしやすくなるように工夫することなどが大切です。

○「深い学び」の実現に向けた授業改善

児童生徒が、既習事項を活用しながら、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高められるようにし、「言葉による見方・考え方」を働かせられるようにしましょう。

算数、数学科

【今年度の調査からみられた課題（傾向）】

- 小学校では、「数と計算」の領域は正答率が高い傾向がある。「思考・判断・表現」（第4学年）、「変化と関係」（第5学年）において課題が見られた。
- 中学校では、「数と式」（第2学年）「データの活用」（第3学年）の正答率が高い傾向にあるが、「思考・判断・表現」を問う問題で課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

授業準備の際に、自校の児童生徒の領域の正答率、解答ログ等の状況と県平均との差異を確認し、授業では児童生徒に既習事項との系統性を意識させる工夫を検討しましょう。

導入では、学習のねらいに迫る課題を児童生徒とのやり取りから設定したり、新たな問いを見いだしたりしましょう。授業の振り返りの場面では、児童生徒と対話をし、児童生徒の言葉を使いながら振り返りを行い、まとめは児童生徒一人一人にノート等に行わせましょう。

○「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

本時のねらいに迫る発問や適切な切り返しを通して、児童生徒一人一人が考えをもつための支援をしましょう。また、問題を焦点化し他者との考えを比較検討するなどして、考えを広げ深めることができるようにしましょう。

○「深い学び」の実現に向けた授業改善

児童生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、既習事項との共通点などを見いだすことにより、統合的・発展的に思考するなどの機会を設定しましょう。

英語科

【今年度の調査からみられた課題（傾向）】

- 中学校2年生・3年生共に情報を正確に聞き取る問題は正答率が高い傾向にある。コミュニケーションにおいて必要となる、基本的な語彙や文法・語法についての知識が身に付いているかどうかを問う問題や、やり取りの場面において考えとその理由を述べ合うことには課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○ 「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

場面や状況に応じて正確に英文を書くために、より場面が分かるように文脈から適切な形式や時制を判断する活動を行いましょう。その上で、意味内容の伝達のみではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気付き、修正を加えながら正確性を高めていくように継続して指導を行いましょう。

○ 「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

既習の文法事項と新しく学んだ文法事項とを比較し、共通点や相違点を考える活動を行いましょう。また、身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていることについて、即興で相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合いながら、会話を継続・発展させる活動を行いましょう。

○ 「深い学び」の実現に向けた授業改善

授業において、設定したコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた適切な内容や構成、表現となっているかという観点からペアやグループで文章を読み直したり、教師がモデル文を提示するなどして、生徒が目的に応じた内容や構成、表現となっているか考えられるようにしましょう。

【参考資料】 主体的・対話的で深い学びの実現 6則

埼玉県の子どもたちを「人財」として輝かせるために！

埼玉県教育委員会

主体的・対話的で深い学びの実現 6則

毎日の授業では、子供たちが「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性等」など、これからの時代に求められる**資質・能力**を身に付けられるよう、教員が**変容(伸び)**を見取ることが大切です。そのためには、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**が有効です。…あなたの授業を見直してみませんか？

変容によって…

- ・ 機械的に記憶するよりも意義や意味を考えることで、より一層、知識や技能の定着を図ることができる。→**知識・技能の習得**
- ・ 自分で課題を見付け、自ら学び、考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題解決する資質や能力が向上する。→**思考力・判断力・表現力等の育成**
- ・ 主体性に加えて、チームワークや優しさなど、人間性が向上する。→**学びに向かう力・人間性等の涵養**

1. 【主体的・対話的で深い学びって何？】

- ・ **主体的な学び**: 学習活動を**見渡し**、**振り返り**、課題を解決していくこと
- ・ **対話的な学び**: **学び合い**等、他者と協働すること等によって、**自己の考えを広げ深めること**
- ・ **深い学び**: **見方・考え方を働かせて**、より**深く理解**したり**考えを形成**したりすること

2. 【何のために、主体的・対話的で深い学びの実現を？】

「何ができるようになるか」という子供たちに必要な**資質・能力**を育成するため。そのためには、「何を学ぶか」という**学習内容**と、「どのように学ぶか」という**学びの過程**を組み立てていく**授業改善**が重要である。

- ・ 目指すのは、「何ができるようになるか」(変容すること)である。
- ・ 一言指導やグループ学習等の手法や技術等の改善、型の実践の必要性を考えると「何ができるようになるか」(変容すること)ではない。
- ・ 子供たちに**資質・能力**を育成するために、**学習内容**(「何を学ぶか」)を明確にし、目の前にいる子供たちに、**どんな学びの過程**(「どのように学ぶか」)がふさわしいかを見極めることが大切である。



3. 【「どのように学ぶか」をいま一度見直す】

子供たちが学習内容を深く理解し、**資質・能力**を身に付けるために、特に、「**どのように学ぶか**」という**学びの過程**に着目して、**授業の質**を高めること。

- ・ 資質・能力の育成に向けて、子供たち一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出していく上で、特に、**主体的・対話的で深い学び**の視点を踏まえた「**どのように学ぶか**」という**学びの過程**について着目し、**授業の工夫・改善**に取り組むことが重要である。

4. 【変容を見取ること】

「**何ができるようになるか**」という視点で、教員は子供たちの**変容(伸び)**を見取ること。

- ・ 子供たち一人一人が**資質・能力**を身に付けて、何ができるようになったかという**変容(伸び)**を子供たち自ら実感し、教員もその**変容(伸び)**を見取れるようにすることが大切である。

5. 【信頼関係に基づく学級づくりを】

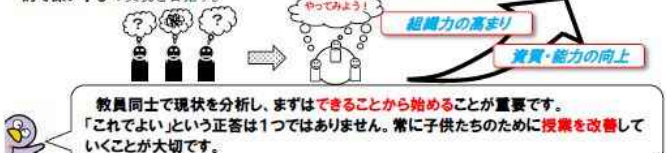
主体的・対話的で深い学びを目指した授業と、信頼関係に基づく学級づくりを「車の両輪」として進めていくこと。

- ・ 学級は、子供たちが日々の生活を共にする基礎的な集団であり、学習活動や学校生活の基盤となることから、担任をはじめとした全教員と子供たちの信頼関係及び子供たち相互の好ましい人間関係づくりが重要である。
- ・ 子供たち一人一人の発達を踏まえた上で、学級での人間関係を豊かにし、コミュニケーション能力を高めることで、各教科等の授業において**主体的・対話的で深い学びの実現**につながり、さらに学級づくりが充実する。

6. 【学び続ける教員集団であるために】

授業改善を目指して、**教員同士**で、**深く考え**、**学び**を通じて**変容**すること。

- ・ 教員が子供たちに求められる**資質・能力**を育むために、必要な**学び**の在り方を絶えず考え、**教員同士**で学び合うことで、様々な観点から**授業の工夫・改善**について議論を重ね、**主体的・対話的で深い学びの実現**を目指す。



(2) 学習指導のポイント

小学校 第4学年 国語 8

問題の学力のレベル
レベル7-A

○ 調査問題

<解答らん>

- 友だちが
- わすれた
- 本を
- とどけに
- 行った

友だちが わすれた 本を **急いで** とどけに 行った。

まるものを、あとの解答らんの中から一つ選びましょう。

次の文の **線部**がくわしくしている言葉としてあては

【8】

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 被修飾語を選択する。

【出題の趣旨】 修飾・被修飾の関係を理解する。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 「行った」 を選択して いるもの	2 「とどけに」 を選択して いるもの	3 「本を」 を選択して いるもの	4 「わすれた」 を選択して いるもの	5 「友達が」 を選択して いるもの	0 無解答
反応率	15.6%	32.0%	28.0%	12.3%	11.2%	0.9%

○ 正答率は、15.6%であった。

○ 主な誤答は、「とどけに」や「本を」であった。理由としては、文脈を考えずに前後にある語句を選択していることから、修飾と被修飾の関係を捉えることができていないことが考えられる。

○ 修飾・被修飾の関係を捉える際には、修飾語と被修飾語の意味が整合しているかを考えることが大切である。整合しているかどうかを判断できるようにするために、たくさんの文に触れ、語感を磨いていく必要がある。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R6 復習シート

【学年・単元】 小学校4年生 言葉

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198914/r6s4kokuq.pdf>

○ 指導上のポイント

場面の説明を考えることで、修飾・被修飾の関係を理解することにつながる指導

(1) 自分で撮影した写真を、修飾語を使って説明する活動

写真で撮った場面の様子がよく分かるように、修飾語を使った短い言葉を考えましょう。



この写真の場面を友達に伝えたいな。
・黄色い花 ・小さい花 …
ほかに、どのような言葉を使えば詳しくできるかな。

「どのような」のほかにも、「何の」「どこに」「どれくらい」などを表す言葉も修飾語ですよ！

・ミニトマトの花 ・茎の先に ・一つの花
・ミニトマトの実 ・たくさんの葉っぱ
も考えられたよ！

では、考えた言葉をつなげて、場面を詳しく説明する文を作りましょう。
このとき、何を詳しくするのかに気を付けましょうね。

(2) 友達の写真について修飾語を使って説明し、共通点や相違点を交流する活動

友達の写真を詳しく説明して、気付いたことを話し合しましょう。



Aくんは、とても速くボールを投げている。

Aくんは、とても速いボールを投げている。

似ている説明だけど、「速い」と「速く」のところが違うね。

本当だ。わたしはボールを詳しくしたのだけだ。

あれ、ぼくはAくんの投げ方を詳しくしたよ。

友達の写真を詳しく説明して交流する活動を通して、いろいろな人が考えた文に触れ、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりすることができます。また、語感が磨かれ、生活の中で活用することも期待されます。



コバトン

修飾語がどの言葉を詳しくしているのかに気を付けて、話したり、書いたりすることが大切です。

中学校では表現の幅も広がるため、小学校のうちから読む単元や書く単元と関連付けるとよいでしょう。



○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



写真に直接書き込むことで、直感的に語句を考え、集めることができる。そのため苦手な児童も取り組みやすい。

写真だけではなく、動画を撮影して場面を言葉で説明させてもよい。プレゼンテーションソフトを活用し、共同作業することで、より多くの考えに触れることができる。

○ 調査問題

【17】

山野さんの学級では、埼玉県の伝統的な料理について調べて、おたがいに伝え合う学習をしています。次の解答らんにある4つのカードには、それぞれ山野さんが調べたことをもとに書いた文章の段落が1つずつ書かれています。4つの段落を、話が続くようにならべかえましょう。

<解答らん>

このように小麦がたくさんとれたことから、小麦から作られるうどんがよく食べられるようになったようです。

埼玉県の伝統的な料理の1つにうどんがあります。それでは、どうしてうどんがよく食べられるようになったのでしょうか。

また、同じように小麦から作られるまんじゅうも、埼玉県の伝統的な料理として今でも食べられています。

埼玉県は小麦を作るのにむいた土地が多く、昔から小麦作りがさかんでした。さらに、米を育てていない時期の田んぼでも、小麦作りが行われていました。

<解答方法はこちら>

- ・左の選択しをクリックまたはタップすると、右の解答らんにならべかえができます。
- ・右の解答らんの中で、上下を入れかえることもできます。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】前後の関係から、段落の順番を並べ替える。

【出題の趣旨】文章を書く上での文の構成を理解する。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 埼玉県の伝統⇒埼玉県は小麦⇒このように⇒また	9 その他の解答	0 無解答
反応率	18.5%	80.8%	0.7%

- 正答率は18.5%であった
- その他の解答の中では「埼玉県の伝統」⇒「埼玉県は小麦」⇒「また」⇒「このように」との解答が最も多く54.3%であった。他の誤答にも、「このように」を最後にしたものが目立った。
- 文章を丁寧に読まないまま、「このように」から始まる文章はまとめであると判断した児童が多かったと考えられるため、「このように」や「また」などを手掛かりとすることは必要だと指導しつつ、それだけに頼らずに、文章の内容や構成を正しく理解させることが大切である。

○ 復習シートとの関連

【出典】R7 復習シート

【学年・単元】小学校5年生 書くこと

【参考 URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198914/r7s5kokuq.pdf>

○ 指導上のポイント

文章の構成とつなぎ言葉を意識した書くことの指導

段落相互の関係に注意して文章の構成を考える学習 「工芸品のみりよくを伝えるリーフレットを作ろう」

まず、初め、中、終わりのそれぞれが、どのような内容になるのかをおさえましょう。

(例) 選んだ工芸品のみりよくを伝える文章を書くときの初め、中、終わりの内容

初め	伝統工芸品の説明（地域・作り方など）
中	みりよく（使いやすさ・美しさなど）
終わり	まとめ（もう一度伝えたいみりよく、すすめるところなど）



次に、初め、中、終わりに何を書くのかを、中心となる語や文を使って短い言葉で書きましょう。



(例) 博多おりのみりよくを伝える文章を書くときの初め、中、終わりの内容

初め	・福岡県 ・きぬおりもの（かいこのまゆの糸、全国で作られている）
中	・みりよく1 使いやすさ（ゆるみにくい、ほどこやすい） ・みりよく2 美しさ（きかがくもよう）
終わり	・博多おりにはみりよくがある ・みんなにたしかめてほしい



選んだ工芸品について書かれた文章を読んだときに、中心となる語や文にサイドラインを引いておくのもいいね。



主眼的、附随的で、深い学びの視点

コバトン

最後に、文と文の間や段落の初めに使うつなぎ言葉を選び、工芸品のみりよくについて伝える文章を書きましょう



文章の構成とつなぎ言葉のはたらきは関係が深いね。

(例) つなぎ言葉とはたらきについての一覧表

つなぎ言葉	はたらき
だから・それで・そのため・このようなことから など	前の文を理由とする文や、前の文から予想される文が、次に来ることを表す。
つまり・要するに・例えば・なぜかというなど	前の文についての説明を表す。

説明的文章を読むときにも内容を意識して読ませることが大切です。

段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫することが指導事項です。小学校のうちから伝えたいことが伝わるよう内容に合わせて接続詞を選べるといいですね。

小中連携の視点



○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

文章の構成を考える際の活用

段落ごとのおおまかな内容を付箋に書き、付箋を並べかえて段落を構成する。

ICT活用のメリット

- ・文章を修正しやすいので校正等の時間を増やすことができる。
- ・画面を共有することで、相手の文章のよさに気づいたり、助言し合ったりする機会をより多く設定することができる。



○ 調査問題

A

母は真剣な表情で本を読む妹に話しかけた。

【19】
「真剣な表情」をしているのが「母」であるという意味になるように、Aの文の「(読点)」を打つところをクリック、またはタップしましょう。クリック、またはタップしたところは色が変わります。選び直すときは、一度選んだところをもう一度クリック、またはタップすると、消すことができます。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 特定の意味になるように読点を打つべき位置を選択する。

【出題の趣旨】 文の意味が明確になるように推敲する。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 「表情で」 のあと	2 「母は」 のあと	3 「真剣な」 のあと	4 「読む」 のあと	5 「妹に」 のあと	6 「本を」 のあと	0 無解答
反応率	55.0%	28.8%	5.8%	4.9%	3.3%	2.0%	0.2%

○ 正答率は、55.0%であった。

○ 主な誤答は、「母は」のあとに読点を打つであった。理由としては、問題文の『「真剣な表情」をしているのが「母」であるという意味になるように』の「母」を読んで、「母は」のあとに読点を打ったと見られる。

○ 読点を打つ際、読点の打つ位置によって意味が変わってしまうことに気をつけなければならぬ。誤答の「母は」のあとに読点を打つと、「真剣な表情で本を読んでいるのは妹」になってしまう。読点を打ったあとにもう一度読み返し、自分の伝えたいことが伝わっているかを確認する。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R6 復習シート

【学年・単元】 小学校6年生 国語（書くこと）

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198914/r6s6kokuq.pdf>

○ 指導上のポイント

読みやすく分かりやすい文章を書くために読点の位置を確認する指導

【読点の位置によって意味が変わることに気付く学習】



次の例文に読点の一つ入れて、意味を考えましょう。

例) わたしは全速力で逃げるおにを追いかけました。

A わたしは、全速力で逃げるおにを追いかけました。

B わたしは全速力で、逃げるおにを追いかけました。



AとBの文を読んでみてどう感じますか？

Aは、全速力なのはおにになり、Bだとわたしが全速力になると思います。

意味が違ってしまいます。



作文や授業中の自分の考えを書くときに気をつけて、読点の打ち方マスターになりましょう。

小学校学習指導要領（平成29年告示）

第1学年及び第2学年

読点については、①文頭の接続語などの後、②主語の後、③従属節の後、④並列する語の後など必要な個所に打つことを理解することが重要である。

第3学年及び第4学年

第1学年及び第2学年に加え、文を読みやすく、また、分かりやすくするために、文脈に合わせて読点を適切に打つことができるようにする。その際、⑤主語と述語の関係、⑥修飾と被修飾の関係、について理解することと関連付けて指導することが有効である。

小中連携
の視点

【読点の位置と読点を打つ練習】

①文頭の接続語の後

例) だから、試合に勝った。

②主語の後

例) 母は、買い物に出かけた。

③従属節の後

例) 大雪が降ったので、学校は休みです。

④並列する語の後

例) 国語、算数、社会の順に学習をします。

⑤主語と述語の関係

例) おばあさんは川へ洗濯に行き、おじいさんは山へ芝刈りに行きました。

⑥修飾と被修飾の関係

例) 私は全速力で、にげるおにを追いかけました。

⑦平がなが続くところ

例) ここではきものをぬいでください。(読点の打つ位置によって意味が変わります)

※読点を打つ学習は、年度初めの国語の授業開きで行うと、年間通して意識させることができます。また、推敲の学習の際にも活用することができます。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

読点「、」の打ち方マスターになろう！

※つぎのページから読点を打つ練習があります。どこに打てばよいでしょうか。全問正解できるかな？

※例文の読点を打つ練習が終わったら、自分で問題を作りましょう。

※問題を作り終えたら、友達と問題の出し合いをしましょう。

①～④までは、低学年で習った問題です。

読点の位置 ①文の最初のつなぎ言葉の後

読点を打つところに○を動かそう。

例文) だから、試合に勝った。



クイズ

①～⑦の例文があります。どこに読点を打つか考えます。青色のところを動かすと答えが出てきます。終わった人は、クイズの問題を作りみんなで解き合しましょう。



三津野市、阿蘇町で
国語の授業
コバトン

○ 調査問題

【20】
山本さんのクラスでは、町内で働く様々な職業の方にインタビューし、その内容をまとめて発表することになりました。山本さんの班は町内の和菓子屋で働く和菓子職人の水井さんにインタビューをすることになり、事前準備の話し合いをしています。

(2)
山本さんたちは【話し合いの様子】の内容をふまえて質問内容を整理しています。話し合いの内容にしたがって次の【質問内容の整理表】の空らん、あとの選択肢から言葉を選んであてはめなさい。

【話し合いの様子】(スクロールできます)

山本：水井さんに聞きたいことを、みなさんに挙げてもらいました。もちろん全て聞きたいのですが、インタビューの時間には限りがありますし、より良いインタビューにするために、質問を分類して整理し、不要なものは削りましょう。

月原：質問案は、主に「仕事に関する質問」と「和菓子に関する質問」に分かれますね。今回は仕事に関するインタビューですので、和菓子そのものに関する質問は減らしてもいいのではないでしょうか。

奥田：そうですね。「今1番人気の和菓子」や「和菓子の魅力」については、実際に和菓子屋で働いている水井さんから聞いてみたいのですが、「和菓子と洋菓子のち

<解答方法はこちら>

- カードをクリックまたはタップしたあとに、空らんをクリックまたはタップするとカードが移動します。
- 解答を選び直すときは、移動したカードをもう一度クリックまたはタップしてください。

【質問内容の整理表】

質問の種類	質問案
仕事の内容に関する質問	・具体的な仕事の内容 ・1日の仕事の流れ
に関する質問	・仕事をやるうえで大切に思っていること ・仕事のやりがいを感じる瞬間
和菓子に関する質問	・今1番人気の和菓子
に関する質問	・どんな中学生だったか ・和菓子職人になろうと思ったきっかけ
しない質問	・

【選択肢】

和菓子と洋菓子のちがい	苦労することや大変だなと思うこと
仕事を感得ること	和菓子の魅力
仕事に対する思い	

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】インタビューで質問したいこととして挙げられたものを整理するための表に選択肢を当てはめる。

【出題の趣旨】インタビューの流れをイメージしながら質問を分類したり取捨選択したりする。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 すべての空欄に、正しい選択肢を当てはめているもの	2 誤答 左記以外の解答	0 無解答
反応率	45.2%	52.1%	2.6%

○ 正答率は、45.2%であった。5つの空欄のすべてに正しい選択肢を当てはめなければならないため、正答率が50%を切っているのではないかと考えられる。

○ 主な誤答は、【しない質問】の【質問案】に「和菓子の魅力」や「仕事を選ぶこと」、「苦労することや大変だなと思うこと」を入れてしまっている。理由としては【話し合いの様子】の中では「わざわざ質問しなくてよいでしょう」と表現されているのを【質問内容の整理表】では【しない質問】としている。そのため、これらが同じ意味(同義)であると捉えられなかったと考えられる。

○ 【質問案】(具体的な質問)をまとめたもの(抽象化)が【質問の種類】であることが捉えられていない。具体的な質問(文章、言葉)を分類する、まとめる、選ぶという学習を行う必要がある。

○ 復習シートとの関連

【出典】R2 復習シート

【学年・単元】 中学校1年生 話すこと・聞くこと

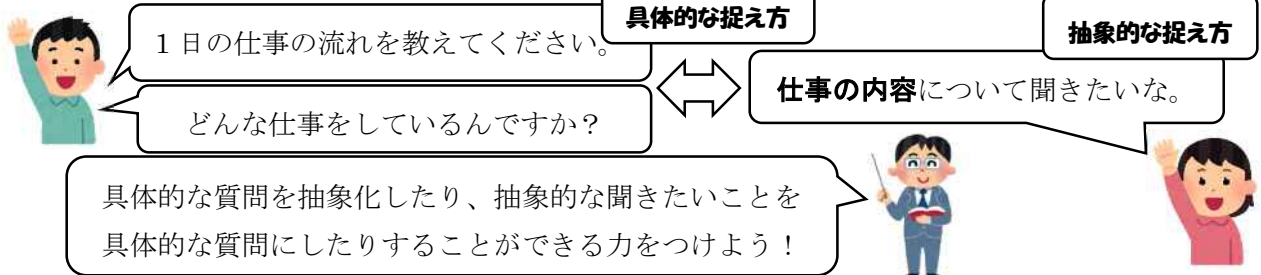
【参考URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198939/r2c1koku-hanasukiku-all1.pdf>

○ 指導上のポイント

インタビューメモを作る過程で「言葉の力」を身につけさせる指導

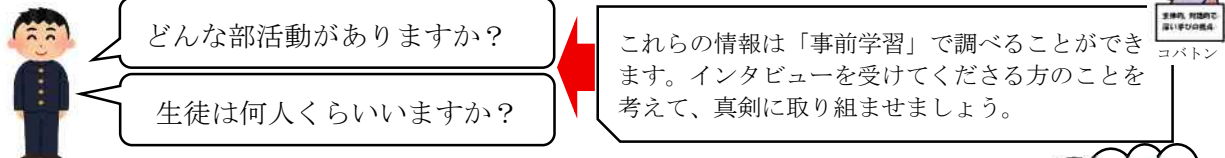
○インタビューで質問したいことを整理する学習

- (1) インタビューでは、相手がどう答えるかによって、次の質問を考えなければならないため具体的な質問だけでなく、どんなことを聞き出したいのか抽象的に捉えておく必要もある。

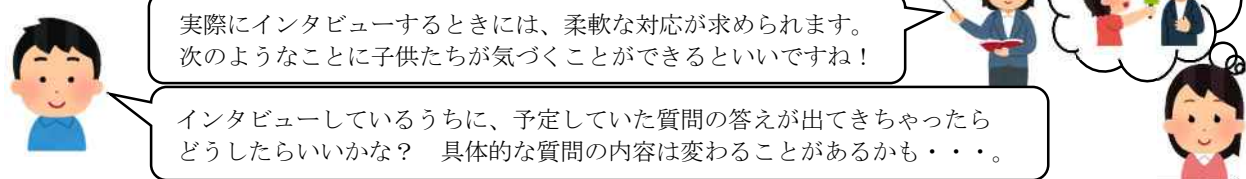


小中連携の視点 小学校低学年でも「上位語」「下位語」の学習をしています。また、説明的文章の学習でも「具体例」や「まとめ」を使って「具体」と「抽象」についても触れておくといいですね。

- (2) 質問を取捨選択する。 → 事前学習、インタビューする相手のことを考える必要性



- (3) 実際にインタビューすることを想定する。



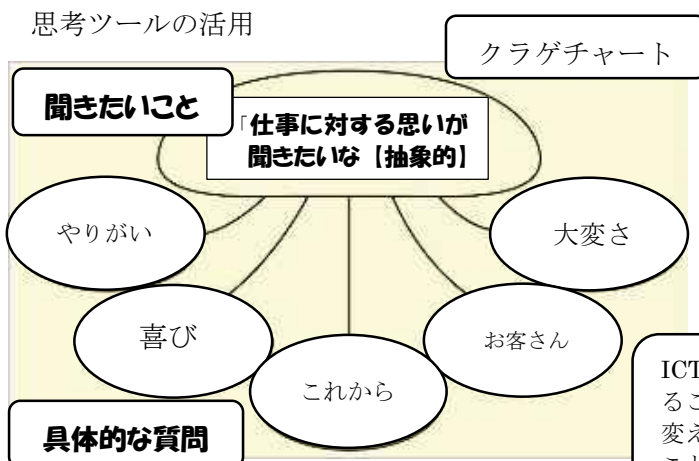
インタビューに答えてくれる方には、「敬語」を使わないといけないね。「言葉」の使い方にも気をつけよう。

国語の時間だけでは、「取材の手段」としてのインタビューを十分に経験させることはできません。「生活科」や「総合的な学習の時間」に、数多くの生きた取材活動の経験をさせたいですね。

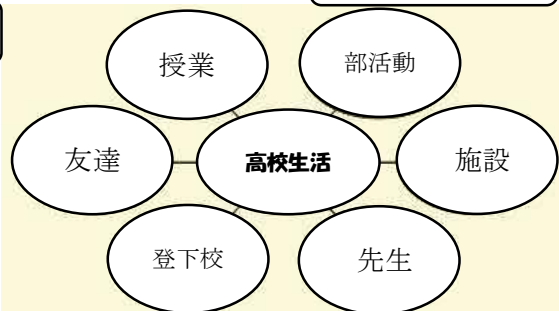
小中連携の視点

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

思考ツールの活用



イメージマップ



ICT 端末を活用することにより、質問の取捨選択をすることや質問と質問を関連付けること、質問の順序を変えることなどが容易にできる。また、共同編集を行うことにより、他者の意見も聞くことができる。

○ 調査問題

【21】

次のホームページを見て、あとの問いに答えなさい（ホームページの画面はスクロールできます）。

第5回 あさひ町 クリーンアップ大作戦

イベント概要
あさひ町をみんなできれいにしよう！
・4人1組でチームを作り、ゴミを拾いながら町を歩こう！
・集めたゴミの種類や量に応じて点数をつけるよ！
・点数が高かったチームには、素敵な賞品をプレゼント！

日時：令和7年5月18日（日）
13時～14時半
集合場所：あさひ町中央公園・円形広場
参加資格：あさひ町に在住であること
(小学生以下は保護者同伴)

主催者挨拶 西永美知恵（NPO法人・環境アクションユニオン代表）
今の世界は、多くの問題を抱えています。地球温暖化・自然破壊・異常気象などのいびゆる環境問題は、その筆頭と云えるでしょう。
「環境問題」というあまりにも大きなものを前にすると、小さな個人である私たちは、どうしても無力感を覚えてしまいがちですが、こんな言葉をご存じでしょうか、「Think globally, act locally.」。日本語に訳すと「地球規模で考え、地域で行動する」となります。
私はこの言葉、この考えこそが、行動のための大きなヒントになると考えています。たとえば、このクリーンアップ大作戦です。あさひ町のゴミを、みんなで拾う。このイベントの内容は、高ければそれだけです。環境問題に対する取り組みとして、それは一見、あまりにも小さいな、取るに足りないことのように感じられるかもしれませんが、
ですが、本当にそうでしょうか。
このイベントを通して、私たちはまず、同じ問題意識を持つ仲間と出会えます。その仲間はみんな、

年齢も性別もバラバラですが、同じあさひ町に住む人たちです。町内に仲間が増えれば、自然とこの町にも愛着が湧いてくることでしょう。
ゴミを拾うために町を歩けば、いろいろなことにも気がつきます。普段は行かないようなところに行けば、「こんなお店があったのか」「ここは景色がいいな」のような発見もあれば、「ここはちょっと歩きづらいな」「車が多くて危ないよ」といった気づきもあるでしょう。そのどれもが、この町についての理解を深めてくれます。
やがてあなたは、この町をもっとよくするためにできることはないか、と考えるかもしれません。そのときあなたは一人ではありません。仲間たちがいるからです。だから、いっしょに考えましょう。どんな小さなことでもいいから、実行に移しましょう。問題意識は大きく、実践は身近から。そう、まさにこのゴミ拾いのようなことを。
そして、どうせやるなら、楽しくやりましょう。いくら良い目的があっても、つまらないことを続けていくのは大変ですから。
そんな行動を積み重ね、仲間が増えれば増えるほど、やりたいこと、できることは増えていくでしょう。その思いはやがて、この町を飛び出すかもしれません。町の次は市、市の次は県、国、そしていつかは世界というように。
そのとき、「Think globally, act locally.」は反転します。そう、「地域で考え、地球規模で行動する」となるのです。
さあ、一緒にこの町をきれいにしましょう！

(1)

地球規模で考え、地域で行動する とありますが、本文中で同じ内容を書いている部分を16字（句読点を含む）で探し、その部分の最初の5字を抜き出して入力しなさい。

<解答欄>

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 キーワードとなる言葉を言い換えている部分を抜き出して入力する。

【出題の趣旨】 文章中のキーワードとなる言葉の意味を正しく理解する。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答	2	3
	問題意識は	その他の解答	無解答
反応率	22.5%	68.4%	9.1%

○ 正答率は22.5%だった。

○ 主な誤答は、「地域で考え」と解答したものや、「あさひ町の」と解答したものであった。設問の下線部が「」でくくられているため、同じように「」でくくられているからと判断して解答したり、下線部付近にある16字のまとまり部分を解答したりと、内容で判断したのではなく、表現の仕方から判断したと考えられる。

○ 主な誤答で挙げたもの以外の誤答は47.1%と解答全体の半数近く、その誤答は多岐に渡っている。「地球規模で考え、地域で行動する」とはどういうことなのか内容を把握しながら、文章の役割（意見、根拠、具体例など）を考える指導を取り入れていく必要がある。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R3 復習シート

【学年・単元】 中学2年 読むこと

【参考URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198939/r3c2koku-yomu-all.pdf>

○ 指導上のポイント

叙述を基に、文章の内容を捉える指導

第5回
あさひ町 クリーンアップ大作戦

イベント概要
あさひ町をみんなできれいにしよう！

- ・4人1組でチームを作り、ゴミを拾いながら町を歩こう！
- ・集めたゴミの種類や量に応じて点数をつけるよ！
- ・点数が高かったチームには、素敵な賞品をプレゼント！

日時：令和7年5月18日（日）
13時～14時半

集合場所：あさひ町中央公園・円形広場
参加資格：あさひ町在住であること
(小学生以下は保護者同伴)

主催者挨拶 吉永美知恵（NPO法人・環境アクションユニオン代表）

今この世界は、多くの問題を抱えています。地球温暖化・自然破壊・異常気象などのいわゆる環境問題は、その筆頭と言えるでしょう。

「環境問題」というあまりにも大きなものを前にすると、小さな個人である私たちは、どうしても無力感を覚えてしまいがちですが、こんな言葉をご存じでしょうか。「Think globally, act locally.」、日本語に訳すと「地球規模で考え、地域で行動する」となります。

私はこの言葉、この考え方がこそ、行動のための大きなヒントになると考えています。たとえば、このクリーンアップ大作戦です。あさひ町のゴミを、みんなで拾う。このイベントの内容は、言ってしまうとそれだけです。環境問題に対する取り組みとして、それは一見、あまりにもささいな、取るに足りないことのように感じられるかもしれません。

ですが、本当にそうでしょうか。

このイベントを通して、私たちはまず、同じ問題意識を持つ仲間と出会えます。その仲間はみんな、年齢も性別もバラバラですが、同じあさひ町に住む人達です。町内に仲間が増えれば、自然とこの町にも愛着が湧いてくることでしょう。

ゴミを拾うために町を歩けば、いろいろなお店や施設にも気がつきます。普段は行かないようなところに行けば、「こんなお店があったのか」「ここは景色がいいな」といった発見もあれば、「ここはちょっと歩きづらいな」「車がなくて危ないよ」といった気づきもあるでしょう。そのどれもが、この町についての理解を深めてくれます。

やがてあなたは、この町をもっとよくするためにできることはないか、と考えるかもしれません。そのときあなたは一人ではありません。仲間たちがいるからです。だから、いっしょに考えましょう。どんな小さなことでもいいから、実行に移しましょう。問題意識は大きく、愛着は身近から、そう、まさにこのゴミ拾いのようなことを。

そして、どうせやるなら、楽しくやりましょう。いくら良い目的があっても、つまらないことを続けるのは大変ですから。

そんな行動を積み重ね、仲間が増えれば増えるほど、やりたいこと、できることは増えていくでしょう。その思いはやがて、この町を飛び出すかもしれません。町の次は市、市の次は県、国、そしていつかは世界というように。

そのとき、「Think globally, act locally.」は反転します。そう、「地域で考え、地球規模で行動する」となるのです。

さあ、一緒にこの町をきれいにしましょう！



文全体を読んで、段落の役割や段落相互の関係を考えてみましょう。

① 文の構成についての理解

基本的構成（序論・本論・結論）を明示し、それぞれの役割を把握することが大切です。



序論には「～でしょうか」「～を知っていますか」など問いかけがあるね。

本論には「たとえば～」「一方で～」「理由は～」など事例や理由を示す言葉があるね。



これをまとめると、序論は話題の提示や問題提起をしていて、本論は対比させながら具体的な説明や理由を述べる役割があると言えるね。



② 文と文のつながりについての理解

「接続詞」「指示語」がつながりを示すサインになることを意識させることが大切です。



「そのどれも」とあるけど、何を指しているのかな。

この指示語は、「こんなお店があったのか」という発見や、「車がなくて危ないよ」という気づきを示しているね。



小中連携の視点

中学校では専門的な学習用語が使われ始めますが、決して初めて習うものばかりではありません。例えば、小学校で学ぶ「初め・中・終わり」という言葉を「序論・本論・結論」のように、同じ概念を更新する指導が必要になります。小学校での学びを足場にしつつ、専門的な概念へと意識的に橋渡ししていくことが大切です。「言葉の学びの更新」は、思考の枠組みの更新でもあります。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

文章を共同編集し、他者の考えを1枚のシートにまとめる。



今この世界は、多くの問題を抱えています。地球温暖化・自然破壊・異常気象などのいわゆる環境問題は、その筆頭と言えるでしょう。

「環境問題」というあまりにも大きなものを前にすると、小さな個人である私たちは、どうしても無力感を覚えてしまいがちですが、「こんな言葉をご存じでしょうか。」「Think globally, act locally.」、日本語に訳すと「地球規模で考え、地域で行動する」となります。

私はこの言葉、この考え方がこそ、行動のための大きなヒントになると考えています。たとえば、このクリーンアップ大作戦です。あさひ町のゴミを、みんなで拾う。このイベントの内容は、言ってしまうとそれだけです。環境問題に対する取り組みとして、それは一見、あまりにもささいな、取るに足りないことのように感じられるかもしれません。

ですが、本当にそうでしょうか。

このイベントを通して、私たちはまず、同じ問題意識を持つ仲間と出会えます。その仲間はみんな、年齢も性別もバラバラですが、同じあさひ町に住む人達です。町内に仲間が増えれば、自然とこの町にも愛着が湧いてくることでしょう。

共同編集することにより、例えば、指示語に色を付け、その言葉が何を指しているかを明らかにしたり、接続詞に色を付けたりと、どこに視点を置いているかを共有することができる。また、根拠となった語尾や考えを言語化しながら読むことで、感覚的な読みを防ぐことができる。さらに、2画面にすることで別の班との比較も容易にできるため、多くの考えに触れることができる。

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル1 1—A

【20】
第一中学校では、今年、地域に住む外国人の方々と交流する「国際交流プログラム」を行うことになりました。

(3)
山田さんは、「和食の魅力を紹介する」を担当します。紹介の補助資料として、来場した人にプリントを作成して配布することになりました。まずは、日本語がわかる人に向けたプリントを作成します。次の【プリントの下書き】と【資料】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【プリントの下書き】

【資料】

問い

山田さんは、【プリントの下書き】の空欄アに、【プリントの下書き】の他の部分や【資料】を参考にして、和食の栄養バランスの良さを説明する文章をいれようと考えています。あなたなら、どのような文章を書きますか。次の条件1・2にしたがって解答欄に入力しなさい。

条件1 80字以上、120字以内で入力すること。

条件2 【プリントの下書き】に書かれている和食の特徴と、【資料】の内容とを相互に関連づけながら、具体的に説明すること。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】和食の栄養バランスの良さを説明する文章を、資料を参照しながら書く。

【出題の趣旨】複数の情報を適切に関連付けながら、説得力のある文章を書く。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答	2 条件2を満たしているが条件1を満たしていないもの	3 条件1を満たしているが条件2を一部満たしていないもの	4 条件1を満たしておらず、条件2も一部満たしていないもの	9 その他の解答	0 無解答
反応率	28.3%	1.3%	27.5%	4.5%	20.9%	17.6%

- 正答率は28.3%であった。条件を全て達成する必要があるため難易度が高かった。
- 主な誤答は、複数の資料の情報を関連付けられなかったことにより、条件を満たすことができなかったことによるものである。資料が複数あるにも関わらず、いずれかの内容しか引用できていない解答が多かった。問題文を適切に読み取れていないことも考えられる。
- グラフや表、資料などを読み取り、複数の情報を関連づける力が必要である。「読むこと」や「話すこと」の単元でも意識的に取り上げ、指導することが重要である。

○ 復習シートとの関連

【出典】R7復習シート

【学年・単元】中学校3年生 書くこと

【参考URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198939/r7c3kokuq.pdf>

○ 指導上のポイント

複数の情報を適切に関連付けながら、説得力のある文章を書く指導



今日は、「読書週間」に向けて、ポスターを作成したいと思います。学校に掲示しますので、情報を関連付け、整理して後輩に向けて、わかりやすいポスターを作成していきましょう。



二つの資料があるので、それを関連付けて、資料Aの「読書の魅力」を伝える文章をポスター案のところに作成してほしいと思います。
資料のどの部分を使うと良いかグループで考えましょう。



コバトン

資料Aに書かれている読書の魅力で何を取り上げると良いかな。



資料Bの「読書をする理由」に、資料Aと似ている内容もあるね。資料Aには「読書の効果」として「視野が広がる」とあるけれど、これは資料Bの「新しいことを学びたいから」に繋がるよね。



複数の資料を関連付けるときには、小学校でも「似ているところ」や「違うところ」など分類してきたね。どのようにすると魅力が伝わるか、みんなで話し合いながら考えてみよう！



資料 A

「読書の魅力」

○読書における効果

○様々なジャンル

- 1 知識力UP!
・語彙力アップ:
・読解力・思考力向上
・視野が広がる!
- 2 想像力UP!
・集中力があがる
・アイデアを生み出す力
- 3 共感力UP!
・将来のヒント

- ・ミステリー
- ・ファンタジー
- ・歴史小説
- ・科学、実用書
- ・伝記

資料 B

「〇〇中学校読書アンケート」

1 好きな本のジャンルはなんですか。

- 第1位 恋愛小説
- 第2位 ファンタジー小説
- 第3位 ミステリー小説、ホラー小説

2 読書をする理由はなんですか。

- ・その本を楽しみたいから。
- ・新しいことを学びたいから。
- ・語彙力が高まるから。

<ポスター案>

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

話し合いの際にICTを使用し、共同編集でグループの話し合いの様子を可視化する方法が考えられる。また、クラス内で、互いにその画面を共有することができると、自分たちだけでなく、複数の考えを取り入れることができるため、考えの深まりが期待できる。

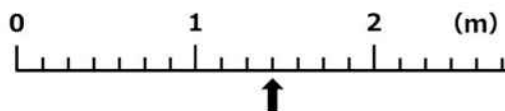
判別し方 2つ以上の例を1文の中に入れて詳しくするとともに読者を引き込んでいる	説明の工夫 「なぜ」「である」を使って、疑問や答えの形で説明をしている。
資料 本文に關係する絵などを使ってどこに關係するかをわかりやすくしている	表現の仕方 「だろうか」「だろう」を使って読み手の人を引き込んでいる。
文章構成 序論と本論の最後に関し言葉をいれることでより筆者の意見を強調している	説明の仕方 比喩表現などを使っていてわかりやすい
相対整理 例えを多く上げることで理解しやすくしている	言語の使いかた 体言止め、倒置法などを使っている
	その他 (ここに入力できます)

○ 調査問題

【3】 次の問題に答えましょう。

(2)

次の数直線の「↑」の目もりが表す長さは何mですか。下の解答らんの中から1つ選びましょう。



<解答らん>

- $\frac{10}{7}$ m
 1.3m
 $\frac{10}{19}$ m
 $\frac{3}{7}$ m

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 数直線の目盛りが表す長さとして適切なものを選ぶ

【出題の趣旨】 数直線に表した分数を読むことができる

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 $\frac{10}{7}$ m	2 1.3m	3 $\frac{10}{19}$ m	4 $\frac{3}{7}$ m	9 その他の回答	0 無解答
反応率	13.8%	72.4%	2.8%	10.1%	0%	0.9%

- 正答率は13.8%であった。
- 主な誤答は、1.3m であった。理由としては、↑が示している部分が1mから右に3目盛り目にあることから、1目盛りが表す長さを0.1mと捉え、「1.3m」と答えたと考えられる。
- 1目盛りが表す大きさを十分に考察できていないことや単位分数がいくつ分かという見方が十分に理解できていないことが原因として考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R7 復習シート 【学年・単元】 小学4年生 数と計算

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198937/r7s4sanq.pdf>

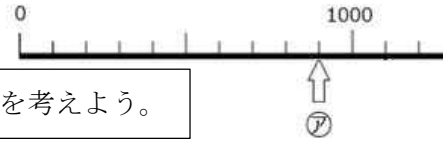
○ 指導上のポイント

「単位分数」の考えを基盤とし、系統性を意識した指導

1. 「1目盛りが表す大きさがいくつか」という問いを他学年の単元でも大切に指導する。

第2学年「100より大きい数」

問題 ㉞のめもりが表す数はいくつですか。



いちばん小さい1目盛りがいくつを表しているかを考えよう。



0と1000の間が10等分されているから…

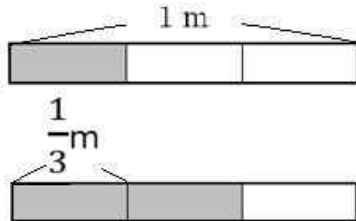


「単位のいくつ分」という視点を生かし、児童が統合・発展的に考える声掛けをしましょう。

2. 「単位分数をもとにした考え」を大切に指導する。

第3学年「分数」

○単位分数のいくつ分かを考えられるようにする。



もとにする長さは1m
1mを3等分した1つ分の長さは $\frac{1}{3}$ mです。

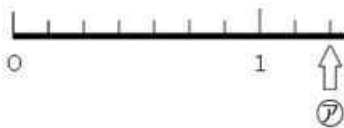


$\frac{1}{3}$ mの2つ分なので、 $\frac{2}{3}$ mです。

もとにする長さは $\frac{1}{3}$ m

○分母より分子の方が大きい場合も正しく分数で表せるようにする。

問題 ㉞のめもりが表す数はいくつですか。



いちばん小さい1目盛りは…



分母より分子の方が大きくても、 $\frac{1}{7}$ の9つ分で $\frac{9}{7}$ と表すことができます。

小中連携
の視点



数学で、文字式や係数を表す際にも分数が頻繁に用いられます。小学校段階では、分数のさまざまな表し方について考えられる機会を作りましょう。

$$\frac{x}{40} - \frac{y}{50} = 2$$

$$\frac{3}{2}a + b$$

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

算数は、系統性を生かせる教科です。それ故に、その単元で働かせた見方・考え方を、他の単元でも生かすことが重要です。大切な数学的な見方・考え方やこれまでの板書などをまとめて、クラウド上に記録しておくことで、児童が既習内容を振り返る際に便利です。

例えば、3年生の「分数」の単元で同分母分数の計算を指導する際には、以前学習した「大きな数」や「小数」などの内容を振り返られるようにしておくことでよいでしょう。

11 大きい数のわり算、分数とわり算

12 円と球

13 小数

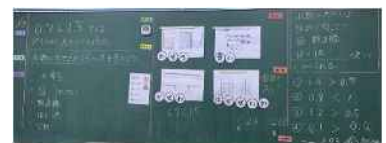
14 重さのたんいとはかり方

15 分数

クラウド上にフォルダを作る

13 小数

・10等分した1つ分を0.1という
・1Lより少ない場合は、0.1Lをもとにして0.1Lが何こ分あるかで表せる
・今までcmとmmのように2つのたんいを使っていた長さも小数を使えば、1つのたんいで表せる。
・ $0.2 + 0.3$ は、0.1をもとにすると、 $2 + 3$ で考えられる。



フォルダ内にはその単元で働かせた見方・考え方をまとめたものや授業の板書などを記録して児童がいつでも振り返られるようにしておく。

○ 調査問題

【7】 次の問題に答えましょう。

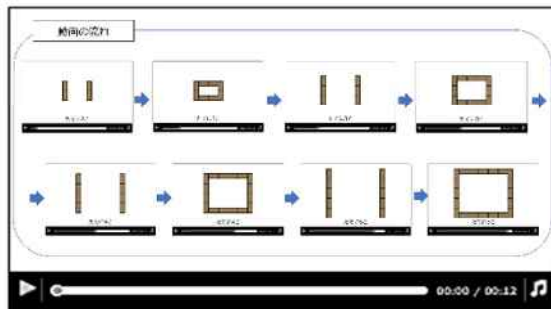
(1)

Aさんの学校で、同じ形のレンガを長方形にならべて花だんを作ることになりました。図1のように、レンガをたてに2つならべたとき、横向きのレンガを2つならべて長方形を作ります。また、図2のように、レンガをたてに3つならべたときは、横向きのレンガを3つならべて長方形を作ります。



動画のようにたてのレンガの数を増やして、いろいろな大きさの長方形の花だんを作ります。たてにならぶレンガの数と全体のレンガの数の関係を表に表すと次のようになります。

たてにならぶレンガの数(個)	2	3	4	5	
全体のレンガの数(個)	8	12	16	20	



たてにならぶレンガの数が14個のとき、全体のレンガの数は何個ですか。答えを入力しましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の概要】レンガでつくった花壇について、レンガの縦に並ぶ個数から全体のレンガの個数を求める。動画を使用
- 【出題の趣旨】伴って変わる2つの数量の関係から数量を求めることができる

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 56(こ)と解答	9 上記以外の解答	0 無解答
反応率	53.2%	38.0%	8.8%

- 正答率は53.2%であった。
- 主な誤答は、①112、②28、③196であった。理由としては、①表の最初に書いてある「全体のレンガの数」である8を14倍した、②表の最初に書いてある「たてにならぶレンガの数」である2を14倍した、③周りの長さや面積とを混同して考えており、花だんを正方形として捉えて14×14をしたということ考えられる。
- 伴って変わる二つの数量の間関係が正しく読み取れていないことが原因として考えられる。

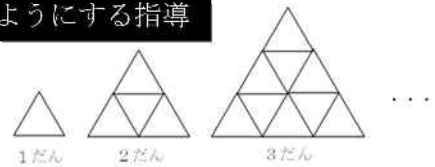
○ 復習シートとの関連

【出典】R5 復習シート 【学年・単元】小学校5年生 変化と関係
【参考URL】 https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198937/r5s5sansuu_q_3henka.pdf

○ 指導上のポイント

伴って変わる二つの量の関係に着目し、きまりを見つけられるようにする指導

問題 1辺が1 cmの正三角形をならべて、次のような形を作ります。20 だんのときのまわりの長さは何 cmですか。



①伴って変わる二つの数量は何かを確認し、変化の様子を捉えやすくするためには表で表すとよいことを確認する。



20 だんまで正三角形を並べてかくのは大変だな。

1 段の時の周りの長さは 3 cm、2 段の時は 6 cm…、何かきまりがありそうだね。段の数と、周りの長さの変わり方にはどんな関係があるのか調べたいな。



変わり方の関係やきまりを見つけやすくするには、何を使って考えるとよいですか。



表に整理すると見つけやすくなると思います。

②表の数値を、横や縦に関連付けてみようとする態度を育てる。



だんの数□(だん)	1	2	3	4	5	6	…
まわりの長さ○(cm)	3	6	9	12	15	18	…

+1 +1 +1 +1 +1

周りの長さが、段の数が 1 段増えるごとに、3 cm ずつ増えています。



だんの数□(だん)	1	2	3	4	5	6	…
まわりの長さ○(cm)	3	6	9	12	15	18	…

+3 +3 +3 +3 +3
×3 ×3 ×3 ×3 ×3 ×3

周りの長さが、段の数の 3 倍になっています。



3 ずつ増える理由を表と図とつなげて考えさせることで、5 年生の比例につなげていきましょう。

それぞれ、表をどのようにみたら変わり方の関係やきまりが見つけられましたか。



表を横に見ると、周りの長さは 3 cm ずつ増えていることが分かります。



表を縦に見ると、段の数を 3 倍したら周りの長さになっていることが分かりました。



矢印などを使って「+3」や「×3」を書きこんでいくと、関係が分かりやすくなるね。



このきまりを使ったら、20 段の時の周りの長さも簡単に求められそう。



きまりを使って周りの長さを求められるよう、段の数と周りの長さの関係を式に表してみましょう。

③単元を通して和・差・商が一定となる事象を取り上げ、表のいろいろな見方ができるようにしていく。

小中連携
の視点

変化の特徴を見いだすために、表の様々な見方を経験させることや式等を用いるとよいことを学習し、中学校の比例、反比例の学習の素地を養うことへとつなげていきましょう。

○ 指導上のポイントにおける ICT 端末の活用について

表に、見つけた関係性を書き込ませ、それを共有することで、表の様々な見方を広める。

だんの数□(だん)	1	2	3	4	5	6	…
まわりの長さ○(cm)	3	6	9	12	15	18	…
		+3	+3	+3	+3	+3	

○ 調査問題

【8】次の問題に答えましょう

(2) 3個の植木ばちにさいた、あさがおの花の数をそれぞれ調べたところ、9個、7個、5個でした。10個の植木ばちに、同じようにあさがおの花がさいたとすると、10個の植木ばちには、全部でおよそ何個あさがおの花がさくと考えられますか。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】平均を求めることで、花の個数を予想する

【出題の趣旨】平均を求めることで、全体の量を予測できることを理解している

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 70個と解答	2 72個と解答	3 7個と解答	4 左記以外の解答	0 無解答
反応率	25.4%	3.4%	10.3%	42.0%	18.8%

- 正答率は25.4%だった。誤答を分析すると、求めた平均を活用することに課題が見られた。求めた平均の活用の仕方を授業で取り扱う必要がある。
- 72個と解答した児童は、問題文に提示された(9+7+5)が4鉢目～9鉢目も続くと考えた。式にすると、 $(9+7+5) \times 3$ となる。しかし、これでは9鉢目までしか考えていないこととなるので、最初にでてきた植木鉢に咲いたあさがお9個をたした、 $(9+7+5) \times 3 + 9$ と考えたと思われる。7個と解答した児童は、問題文に提示された(9+7+5)から植木鉢3個の平均7を求めそのまま平均値を解答したと思われる。
- 上記以外の解答として、①210個 ②21個 ③30個 ④63個といったものが見られた。①は問題文に提示された(9+7+5)で求められた21を10倍したものと考えられる。また、②はその21をそのまま解答したものと思われる。③は問題文に提示された植木の数3個と10個に注目し、 3×10 をしたと思われる。④の63個は問題文に提示された(9+7+5)が4鉢目～9鉢目も続くと考えた。この組み合わせを崩せないため、10鉢目を考えず $(9+7+5) \times 3$ の答えを解答したと考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】R6 復習シート 【学年・単元】小学校6年生 算数(データの活用)

【参考URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198937/r6s6sanq.pdf>

○ 指導上のポイント

平均を求め活用するための指導

問題 ひかるさんが3日間に飲んだ牛乳の量を調べたら、月曜日 420mL、火曜日 350mL、水曜日 520mLでした。1週間同じように飲むとすると、1週間で何mL牛乳を飲むことになりますか。



①問題文で気になることはありますか。

自力解決での困りごとや考えていることを問う

②そもそも月曜日、火曜日、水曜日で同じ量を飲んでいないのに、同じように飲むってどういうことですか。



③確かに、同じ量を飲んでいないのに、同じように飲むってどういうことでしょうか。そこも考えながら問題を解いてみましょう。

④これが1週間でなく6日間だったらよかったですと思いました。6日間なら、月、火、水と同じように木、金、土も飲んだと考えて、 $(420 + 350 + 520) \times 2$ で求められるからです。



⑤では、日曜日は何 mL 飲んだと考えるのがいいですか。

⑥350～520mLの間だと思います。



⑦3日間の平均の値にするのが一番いいんじゃないかな。



⑧どうして、平均の値がいいと思ったのですか。



主体的、対話的で深い学びの視点

コバトン

⑨同じように飲んだというのが、毎日同じ量飲んだって考えるのがいいのかなと思いました。350mLだと少なすぎるし、520mLだと多すぎるので、平均がいいと思いました。



⑩3日間の平均を求めると、1日の平均が430mLです。430mLを7日間毎日飲んだと考えると、同じように飲んだと言えると思います。



小中連携
の視点

平均やこの後学習していく、単位量あたりや割合などは比例が内在していることが前提となっています。これらの単元を理解していくうえで、比例を明らかにすることが重要です。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

液量の問題なので、児童に右のようなマス図を1人1台端末に配信し、自由に活用できるようにすることで、図を活用して、問題を解決したり、説明したりする力を高める。



○ 調査問題

【1】 次の問いに答えなさい。

(11)

バニラ、チョコ、イチゴ、キャラメル の4種類のアイスがあります。この中から3種類を選んで1つのカップにのせます。アイスの種類の組み合わせが全部で何通りあるかを、次の解答らんの中から1つ選びなさい。

<解答らん>

- 3通り 4通り 12通り 24通り

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 場合の数の組み合わせとして適切なものを選ぶ

【出題の趣旨】 起こり得る場合を順序よく整理して調べることができる

○ 誤答分析

解答類型	1 3通りと 解答	2 正答 4通りと 解答	3 12通りと 解答	4 24通りと 解答	9 上記以外 の解答	0 無解答
反応率	7.1%	28.7%	43.4%	20.3%	0.0%	0.5%

- 正答率は28.7%であった。この問題について、コーンで頼んだ時とカップで頼んだ時の違いに触れながら、「落ち」や「重なり」がないように順序よく筋道を立てて調べる力を育成したい。必要に応じて「4種類から3種類を選ぶ」は「4種類から1種類を選ばない」という考え方も指導する事もできる。
- 主な誤答は12通りで、半数弱がこの解答をしたことになる。理由としては、2つ考えられる。1つ目は4種類のアイスの「4」と3種類選ぶの「3」という数字をかけ算し、 4×3 で導き出したと考える。2つ目はバニラを先頭にした組合せが3通り、先頭が4通りあるので、 3×4 で導き出したと考えられる。
- 24通りの誤答の生徒は、樹形図等を用いて起こり得る全ての場合を明らかにできたが、「重なり」を見落としてしまったと考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R6復習シート

【学年・単元】 中学校1学年 数学 データの活用

【参考URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198940/r6c1suuq.pdf>

○ 指導上のポイント

起こり得る全ての場合を明らかにし、「落ち」や「重なり」がないかに着目させる指導

問題 A、B、C、Dの4つのチームでサッカーの試合をします。どのチームも、他のチームと1回ずつ試合をするとき、対戦は全部で何通りですか。また、全ての対戦を書きましよう。

どんな対戦がありますか？

A対B D対C・・・

バラバラに考えていくと、落ちがありそうですね。どうしますか？

まず、Aの相手を考えるとよさそうです。

Aの相手、次はBの相手と順番に考えていくと落ちがなく、考えられそうですね。では、それぞれのチームの対戦を全て書き出してみましよう。

私は、樹形図で書き出しました。

小中連携の視点

```

    A --- B
     \  /
      C
     /  \
    D    A
         / \
        B  C
         / \
        D  A
           / \
          B  C
            / \
           D  A
              / \
             B  C
  
```

私はアルファベット順で書き出しました。

```

A-B B-A C-A D-A
A-C B-C C-B D-B
A-D B-D C-D D-C
  
```

私は表で書き出しました。

	A	B	C	D
A		○	○	○
B			○	○
C				○
D				

何かちがいがありませんか。話し合ってみましよう。

他のチームと1回ずつの対戦だからA対BとB対Aは重なるね。

A対BとB対Aは、どちらか1つ消す必要があるよ。

対戦は、①A対B ②A対C
③A対D ④B対C ⑤B対D
⑥C対Dの6通りだ。

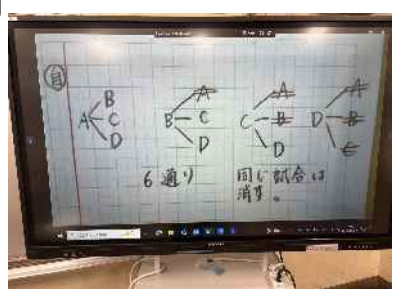
今日考えたように「落ち」や「重なり」がないかに注意することが大切です。

主体的、対話的で深い学びの視点

コバトン

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

- ・ 樹形図や図・表などを用いて生徒がまとめた方法を全体で共有する。
- ・ ノートを拡大することで、全体に説明するときも、見やすく、説明も容易である。
- ・ 大型画面を見ながら、友達の考えをノートに書くこともできる。



○ 調査問題

【5】

大縄跳びの練習をするにあたり、並び方を2列にするか3列にするか検討することにしました。

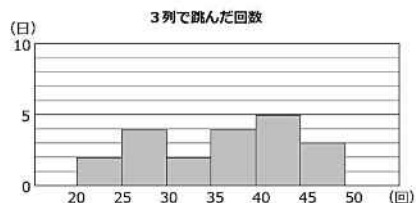
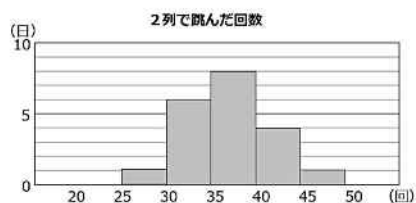
どちらの並びの方がより多く連続で跳べるかを調べるために、それぞれの並び方で20日間練習し、1日の最高記録を右のヒストグラムにまとめました。

ヒストグラムの特徴をもとに、より多く跳べそうな並び方を選ぶとすると、あなたならどちらの並び方を選びますか。どちらか1つの並び方を選び、選んだ理由を、2つのヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。

<解答欄>

2列 3列

※説明入力欄省略



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】ヒストグラムをもとに、どちらの並び方がより多く跳べるかを選び、選んだ理由について説明する。

【出題の趣旨】データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

○ 誤答分析

<正答の条件> 2つのヒストグラムを比較して、次のことについて記述しているもの。(一部省略)

【2列を選択した場合】2列について、次の(a)、(b)、(c)のいずれかを記述しているもの。

- (a) 最小値が大きいこと
- (b) 35回(30回、25回)未満の度数の合計が小さいこと
- (c) 平均値が大きいこと

【3列を選択した場合】3列について、次の(d)、(e)のいずれかを記述しているもの。

- (d) 40回(45回)以上の度数の合計が大きいこと
- (e) 最頻値の階級が大きいこと

解答類型	1正答	2正答	3正答	4正答	5	6	9	0
	2列を選択		3列を選択		2列または3列を選択		左記以外の解答	無解答
	a、b、cのいずれかを記述	a、b、cのいずれかを記述しているが、2つのヒストグラムを比較する記述が不十分	dかeを記述	dかeを記述しているが、2つのヒストグラムをする記述が不十分	左記1～4以外でヒストグラムから読み取れることを記述	ヒストグラムについての読み取りの誤って記述		
反応率	3.8%	1.9%	11.2%	1.4%	41.4%	2.2%	30.8%	7.3%

- 正答率は18.3%であった。
- 主な誤答は、ヒストグラムを根拠にした説明が適切でないものや、読み取りの誤りであった。理由としては、説明の根拠として代表値の特徴を正しく扱えていないことや、ヒストグラムから代表値を正しく求められていないことが考えられる。
- 解答類型9は、ヒストグラムについての記述がないものや、解答方法の誤りによるものであった。

○ 復習シートとの関連

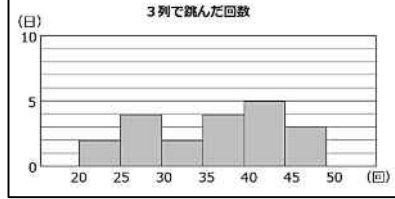
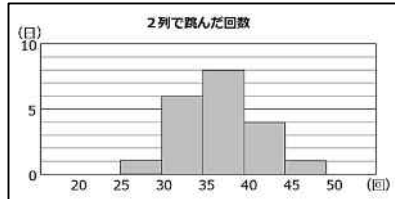
【出典】R4 復習シート 【学年・単元】中学校2年生・データの活用

【参考URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198940/r4c2suu-data-all.pdf>

○ 指導上のポイント

データの傾向を読み取って考察し、判断した理由を説明できるようにする指導

問題 大縄跳びの練習で、並び方を2列にするか3列にするか検討しています。それぞれの並び方で20日間練習し、1日の最高記録を右のヒストグラムにまとめました。より多く跳ぶために、あなたならどちらの並び方を選びますか。



(1) 現時点での考えを確認する。



今の考えをタブレットで回答しましょう。



ヒストグラムが右に寄っているから、2列にしよう。

(2) 個人 → 2列・3列各々の小グループで考察する。



選んだ理由について詳しく調べて、説明してみましょう。

【個人】



平均値を求めてみると…



最頻値の階級は3列の方が大きいから…



調べてみて、はじめの考えを変えてもいいですよ。

【グループ】

最小値も、平均値も、3列より2列の方が大きいね。



40回以上跳んだ日数は、2列より3列の方が3日も多いよ。

(3) グループ間で説明し合う。



【2列】

平均値を比べると、3列よりも2列の方が大きいので、2列を選びました。



【3列】

最頻値の階級を見てみると、2列よりも3列の方が大きいから、3列を選びました。

2列の方にも納得できる理由があるから、どちらを選んでもいいのかもしれない！



主目的、対話的で深い学びの視点
コバトン

日常の場面を課題として設定することで、課題解決の必要感が出てきます。

また、グループ活動で個人の考えを共有・比較することで、根拠をもとに考えを分かりやすく伝える力が育まれます。

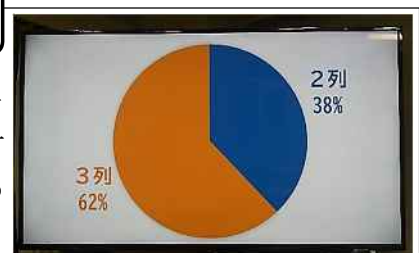
小中連携の視点

小学校では、平均値、中央値、最頻値などの代表値やドットプロットを用いて、データを統計的に考察・表現しています。

中学校では、目的に応じて合理的・能率的にデータの収集・処理をするために、ヒストグラムや相対度数を活用します。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

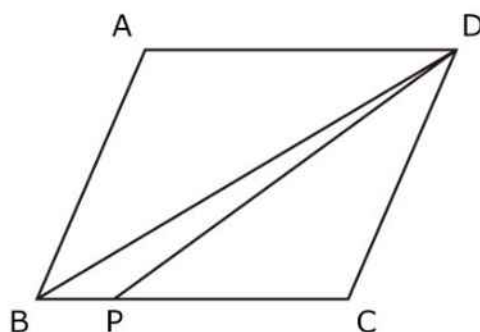
授業の導入時に、2列、3列のどちらを選ぶかを回答・集計することで、全体の考えをつかむ。また、どちらを選んだかとその理由を一覧にすることで、説明の根拠となるさまざまな数学的表現を共有することができる。



○ 調査問題

3 次の問いに答えなさい。

(2) 下の図のように、平行四辺形 ABCD の辺 BC 上に $BP : PC = 1 : 3$ となるような点 P をとります。平行四辺形 ABCD の面積が 120cm^2 であるとき、 $\triangle BPD$ の面積を求めなさい。



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 平行四辺形の性質を利用して、三角形の面積を求める

【出題の趣旨】 平行四辺形の性質を用いて、面積を求めることができる

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 15cm^2	2 20cm^2	3 30cm^2	4 45cm^2	9 その他の解答	0 無解答
反応率	19.3%	11.9%	10.9%	0.7%	33.4%	23.7%

- 正答率は 19.3% であった。
- 主な誤答のうち、解答類型 2 は、 20cm^2 と解答しているものである。これは三角形 DBC の面積 60cm^2 を、底辺比 $1 : 3$ であることを勘違いして $1/3$ にしたものであると考えられる。また、解答類型 3 の 30cm^2 と解答したものについては、 $BP : PC = 1 : 3$ であることのみを考えて、全体の面積 120cm^2 を $1/4$ にしたものと考えられる。
- 無解答が 23.7% もあり、これは平行四辺形の性質を覚えていない、もしくは、高さの等しい三角形の面積の比はその底辺の比に等しいことをわかっていないことが考えられる。解答類型 9 では、 40cm^2 と解答しているものが最も多かった。これは $BP : PC = 1 : 3$ であることのみを考えて、全体の面積 120cm^2 を $1/3$ にしたものと考えられる。

○ 復習シートとの関連

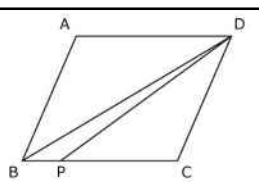
【出典】 R1 復習シート 【学年・単元】 中学校 3 年生 図形

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198940/h31c3suu-zukei-all.pdf>

○ 指導上のポイント

数学的な見方・考え方を働かせる指導

問題 右の図のように、平行四辺形 $ABCD$ の辺 BC 上に $BP : PC = 1 : 3$ となるような点 P をとります。
 平行四辺形 $ABCD$ の面積が 120cm^2 であるとき、
 $\triangle BPD$ の面積を求めなさい。



課題 辺の長さがわからない図形の面積は、どのように考えたら求めることができるだろうか。



先生がまずは問題を解きます。1 : 3 だから 120cm^2 を 4 で割って 20cm^2 でよいですか。

先生と同じ！ 20cm^2 になりました。
 $120 \div 2 = 60$ 、 $60 \div 3 = 20$ になるから！



いや、 20cm^2 じゃないと思う。
 やってみよう。



いろんな解答がでてきたからグループで相談してみよう。

平行四辺形は対角線で面積が半分になるから

三角形の面積は底辺と高さがわかれば求められるけど、底辺がわからないから・・・

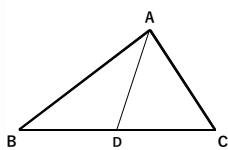
うーん、わからないからわかって
 いることを図にかいてみよう。



三角形の底辺の比が 1 : 3 であることを使ってみたらどうだろう・・・

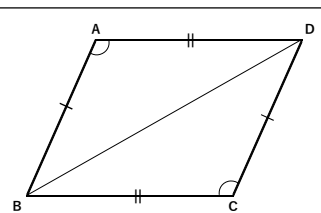
○学級や個々の進捗状況を見ながら、必要に応じて以下の例を提示する。

底辺比 1 : 1 の場合



$BD : DC = 1 : 1$
 ならば、
 $\triangle ABD : \triangle ADC = 1 : 1$

平行四辺形を対角線で 2 つの三角形に分けると合同な三角形になる



答えは何でしたか？先生は合っていたかな。理由つきで説明しよう。

先生は間違っています。面積の比を
 考えるときに勘違いしています。



答えは 15cm^2 ! 底辺の比が面積の
 比に等しいところがポイントです。



まとめ 図形の性質を利用することで、直接求められない面積を求められることがある。



主体的、対話的で
 深い学びの視点

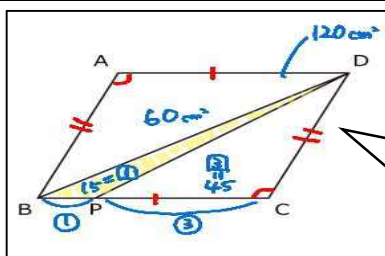
コバトン

話し合いの中で、既習の知識と関連
 付けることで、理解が深まります。

小中連携
 の視点

小学校で学んだ三角形の面積の求め方を発展させ、長さがわからなくても比で求められる良さを感じることができます。

○ 指導上のポイントにおける ICT 端末の活用について



あらかじめ問題の図形を生徒一人一人の端末に配布しておき、自己解決の時間やまとめの時間に等しいところに生徒が色をつけたり、全体発表で表示させたりする。

○ 調査問題

【10】

あなたは、英語の授業で、クラスの友達と先生に自身のことを知ってもらうために自分の趣味についてのスピーチをすることになりました。

聞き手に分かりやすい展開や構成となるように、下の5つの英文を適切な順序に並べて、スピーチ原稿を完成させなさい。

<解答欄>

①	I can read a lot of books there. I like adventure books*. They are very exciting.	>	
②	I like science books*, too. I love nature*. I want to be a scientist* in the future.		
③	Do you know any interesting books? Please tell me about them. Thank you.		
④	I always go to the library. The library is my favorite place*.		
⑤	Hello, everyone. Today, I talk about my hobby. I like books.		

(注)* adventure books: 冒険小説 science books: 科学書
nature: 自然 scientist: 科学者 place: 場所

<解答方法はこちら>

- ・ 左の選択肢をクリックまたはタップすると、右の解答欄に並べ替えができます。
- ・ 右の解答欄の中で、上下を入れ替えることもできます。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 クラスの友達と先生に向けた自分の趣味についてのスピーチ原稿を読み、スピーチ原稿の段落を適切な順番に並び替える。

【出題の趣旨】 日常的な話題について、話し手として伝えたい順番や聞き手に分かりやすい展開や構成を考えてスピーチをすることができるかどうかをみる。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 ⑤④①②③	9 その他の解答 ⑤②①④③ (22.0%) / ⑤①②④③ (20.9%) / ⑤②④①③ (9.8%)	0 無解答
反応率	25.6%	1.5%	72.9%

- 正答率は 25.6%であった。誤答をした生徒のうち、約7割は⑤”Hello, everyone.”から始まり、③”Thank you.”でスピーチを締めくくるということに気づくことができたが、①②④の並べ替えで誤ってしまった。
- 誤答の原因としては、⑤の段落であいさつをした後、②”I like ~.”や①”I can ~.”といった文法を用いて自分自身の話題を分かりやすく提示している文を選んだことが考えられる。
- この設問に正答するためのポイントは、①there が何を指しているか、②too は何を受けて「～もまた」と言っているのかといった代名詞や副詞の指導を充実させることや、文の構成に意識を向けさせることが大切だと考えられる。

○ 指導上のポイント

他者と協働する活動を通して、情報を整理して英文の構成について理解を深めさせる指導

教員が3～4つ程度の課題を設定し、生徒たちがその特定の課題を分担し、課題解決に向かって話し合いを進めていく学習である。自分に与えられた課題の理解や、他者と協働する場面で話し合いの内容をより深めるために、この活動は日本語で行うことが望ましいと考える。以下、①②の手順で行う。

①ある人物の自己紹介文を段落ごとに分割（A～D）し、生徒は自分に割り当てられた段落の内容の理解を、同じ段落を割り当てられている他の生徒との会話や協働を通して深める。



どんな内容や言葉に注目すれば、話し手として伝えたい内容が聞き手にとって分かりやすい展開になるでしょうか。

(A) この文は”Hello～”とあいさつから始まっているから最初の段落かな？



(C) ”I like science books, too.”って書いてあるね。 ”too”はポイントになりそう。



(C) ”too” 「～も」 ってことは、他に好きなものの話をしているのかな。

(B) ”there”は場所のはずだね。



②A～Dまでの分割された段落担当の生徒が1人ずつ集まり、他の生徒との対話や協働を通して正しい順番に並べ替える。必要に応じて教員が中間指導を入れる。

(C) 「理科の本 “も” 好き」 って書いてあるんだけど、他に好きなものの話をしている文はある？

(B) 冒険の本が好きって書いてあるよ。



文の順序をあらわす単語や、代名詞の言葉の働きについて考えてみよう。

(B) ”there”はどんな場所の話をしているのかな？

(D) 図書館の話をしているよ！

以上のような活動を行うことで、スピーチ原稿の構成の理解を深めるとともに、この設問の誤答の要因となった副詞や代名詞の言語の働きへ意識を向ける指導につなげることができる。

小中連携
の視点

小学校での話すこと〔発表〕の目標（小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 P.23）に書かれているように、話し手は聞き手（第三者）の前で発表することを踏まえ、話し手本人が話す内容を想起し、発表内容を明らかにする必要があります。聞き手にとって分かりやすい情報を伝えられる文の構成ができるように、小学校から継続して指導していくことが必要です。



英語を読んで理解した内容を自分の言葉で表現し、お互いの情報を持ち合いながら論理的に話し合いを進めます。グループの中でコミュニケーションを取りながら活動を行うことで、一人では気づくことのできなかつたことにも気づくなど、視野を広げることができます。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

- 1 グループ（ペア）の共有ドキュメントに自分のスピーチ原稿を打ち込む。
- 2 お互いの原稿を読み合う。
- 3 客観的に理解が難しかった部分などをアドバイスし合う。文法や入力ミスなどについてもアドバイスして修正する。



聞き手にとって分かりやすい展開や構成にするために、事実と自分の考えを分け、整理しながらスピーチ内容の見通しを立てる必要がある（中学校学習指導要領解説 外国語編 P.25）。

スピーチ原稿を作成するときには、文の順序や内容の一貫性に注意を払うことが大切である。自分の原稿に他者の視点を入れる機会（協働的な学びの機会）を作ることで、聞き手の立場になって原稿を再構築することが効果的であると考えられる。

この活動をICTを通して行う利点

- ・ドキュメント共有をすることで情報がシェアしやすくなる。
- ・PCが間違いのある箇所について波線などで指摘してくれる。
- ・英語のタイピング練習になる。

○ 調査問題

【14】

次の英文は、英語の授業でロバーツ先生が生徒に向けて、デジタルディバイド（情報格差）について書いたものです。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Digital Divide

The internet* is an important part of our everyday lives. Some people can easily use the internet, but others cannot. This difference* in internet access* is the "digital divide".

Graph* 1 shows that in 2010, only 30% of people in the world used the internet. In 2020, this number reached* 60%, but 40% of people in the world still couldn't use the internet.

Graph 1

What percentage* of people in the world used the internet?

2010 2015 2020

■ Did not use the internet
■ Used the internet

The digital divide is big in some countries. Graph 2 shows that a lot of people use the internet in South Korea* and the United States*. The percentage in South Korea is higher* than that in the United States. India* has the lowest percentage among the three countries.

Graph 2

In my opinion*, reducing* the digital divide is important. People all over the world should get the benefit* of the internet. Do you agree with me? Why or why not?

(注) * internet: インターネット difference: 違い、差異 access: 利用、アクセス
digital divide: 情報格差 graph: グラフ reach: 届く、達する
percentage: パーセント、割合 South Korea: 韓国 the United States: アメリカ合衆国
India: インド in my opinion: 私の意見では reduce: 減らす benefit: 利益、恩恵

(2)

下線部①のロバーツ先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に入力しなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 情報格差に関する文章を読み、その内容に対する自分の考えと理由を書く。

【出題の趣旨】 社会的な話題に関する説明を読み、その内容に対する自分の考えや理由を述べることができるかどうかをみる。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答	2 準正答	9 正答以外の解答	0 無解答
反応率	0.2%	2.5%	53.6%	43.7%

- 正答率は2.7%であった。主な誤答は、「自分の考えとして賛否の記述がないもの」や「自分の考えに対する理由がないもの」で、解答の条件を満たしていないことが原因と考えられる。また、理由を伝えるための語句（because等）を正しく使うことができず、自分の考えに対する理由を正確に伝えることができていないことが原因として考えられる。
- 無解答率は43.7%であった。普段、考える機会の少ない社会的な話題が問題として取り上げられ、話題に関する自分の考えとその理由を構築することに課題があったことが推測される。
- この設問に正答するためには、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を設定し、普段考える機会の少ない社会的な話題を自分事として考えさせ、その話題に関する自分の考え等を理由とともに正確に伝えさせる指導が求められる。その際、自分の考えを話す活動から書く活動へと段階的につなげ、書く活動の際には語句の正しい使い方を意識させる指導が求められる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R1 復習シート

【学年・単元】 中学校3年生・書くこと

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198941/h31c3eigo-kaku-q.pdf>

○ 指導上のポイント

領域間の統合を図った活動を通して、段階的に自分の考えと理由を伝える指導

領域間の統合とは、外国語科における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の5つの領域を複数で関連付けたり、組み合わせたりすることである。ここでは、「話すこと」と「書くこと」の領域を統合して活動を行うことで、普段考える機会の少ない社会的な話題について、自分の考えやその理由を構築し、英語で書く力を高めることができると考える。

① 社会的な話題について、ALTとJTEの会話を聞かせ、生徒に質問を投げかける。

Yesterday, I was surprised at the news about Australia.

What's the news about?

About the new law of SNS. In Australia, the people under 16 years old will not be able to use SNS next year.

Wow, really? It's very strict. Do you agree with the law?

Yes, I do. I think the law is good for the people under 16 years old because they will have few chances to have troubles.

That's true. But I don't think the young agree with the law. How about everyone? Do you agree with the law? Let's talk about your opinions with reasons.

② 生徒同士で自分の考えと理由を話し合わせる。

I think we need SNS to get information.

I agree with the law. We can make many chances to talk with more people face to face.

Good talking, everyone. 今会話を聞いているとこんな生徒がいました。「I think we need SNS to ~」と話していました。内容はすごく良さそうに聞こえますね。でも…何か大事なものを忘れていませんか?

自分の考え、つまり、賛否を述べること!

その通りです。まずは自分の考えである賛否を述べるのが大切です。その上で、自分の考えとその理由が言えるといいですね。

※中間指導の際は、生徒に問題点を考えさせる。

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を設定し、自分の考えや理由を伝えることに必然性をもたせ、話す活動から書く活動へとつなげることで、深い学びを実現することができます。

コバトン

③ 発話した内容を英文で書かせる。

Look at this. Some SNS companies need young SNS users' real voices about the law in the world. So today, let's send your voices to companies.

※英文を書く目的・場面・状況を明確にする。

先程、先生は会話活動の際に、「自分の考えである賛否を述べるのが大切です。」とお話しましたが…実際に賛否は、どんな英語で表現できますか?

賛成なら、Yes, I do. / I agree with the law.
反対なら、No, I don't. / I don't agree with the law.

そうですね。これらの表現を使って実際に書いてみましょう。

I agree with the law. We can make many chances to talk with more people face to face.

Yes, I do. The law is very good.

今書いた英文を見ているとこんな生徒がいました。「I agree with the law. We can~」と書いていました。内容はすごく良さそうですね。この英文を自分の考えと理由が明確に伝わる英文にするには、どうしたらよいでしょう?

We can~の前に理由を伝える表現の「because」を置く。

素晴らしい。理由を伝える表現があると明確になりますね。他に「Yes, I do. The law is very good.」と書いた生徒がいました。この英文を読んでみて、何か気付く人はいますか?

「Yes, I do.」という自分の賛否の意見に対して、具体的な理由がないため、例えば、The law can decrease the number of problems about the rights of privacy.など、その法律があることの利点等を書くといいと思います。

よい意見ですね。自分の考えを裏付ける具体的な理由があると、自分の意見に説得力をもたせることができますね。

小中連携の視点

身近な話題から社会的な話題まで、発達段階に応じて自分の考えや気持ちを伝えるコミュニケーションが大切です。そのため、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等の設定された言語活動を、小学校から継続的に行うことが効果的です。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

実際のメール画面を想定したスライドを各生徒のICT機器に配付し、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を意識させた学習活動（メール文作成）を行う。

To: Mr. Saitama, Manager
Marketing Department
TALK MORE inc.

Give us your voices about the new law. The people under 16 will not be able to use SNS due to the law. Do you agree with the law? Why or why not?

<Your Voice>

Sincerely
From ○○

To: Mr. Saitama, Manager
Marketing Department
TALK MORE inc.

Give us your voices about the new law. The people under 16 will not be able to use SNS due to the law. Do you agree with the law? Why or why not?

<Your Voice>

I agree with the law because the number of younger's troubles about SNS will decrease.

Sincerely
From ○○

To: Mr. Saitama, Manager
Marketing Department
TALK MORE inc.

Give us your voices about the new law. The people under 16 will not be able to use SNS due to the law. Do you agree with the law? Why or why not?

<Your Voice>

I don't agree with the law because phone companies will not be able to get many customers if young people can't use SNS.

Sincerely
From ○○

実際に生徒が作成したいくつかのメール文を教室の大型提示装置に映し出し、内容や英文を比較することができる。また、1つのメール文を抽出し、個人やペア、グループ、全体で英文の良いところや改善点を共有したりすることで、内容面・言語面ともにさらに質の高いものにすることが可能となる。

第4章

特徴的な取組の紹介

児童生徒の学力を伸ばした学校の実践を紹介します。

各学校において、本章で掲載されている児童生徒の学力の伸びを引き出した効果的な取組を、今後の取組の参考としてお役立てください。

今年度は、以下の8校の取組を紹介します。

川口市立芝西小学校	東松山市立松山第一小学校
神川町立丹荘小学校	蓮田市立蓮田中央小学校
朝霞市立朝霞第五中学校	鶴ヶ島市立富士見中学校
寄居町立男衾中学校	宮代町立百間中学校



川口市立芝西小学校の取組

1 本校の概要

本校は、今年度で開校 63 周年を迎えた、児童数 646 名、学級数 21 学級、教職員数 32 名の中規模校である。学校教育目標「よく考える子 思いやりのある子 たくましい子」の下、『「元気」「笑顔」「やる気」』いっぱい芝西小学校～子どもと教師が生き生きと輝き、保護者・地域に信頼される安心・安全な学校～』を目指す学校像とし、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を実践している。



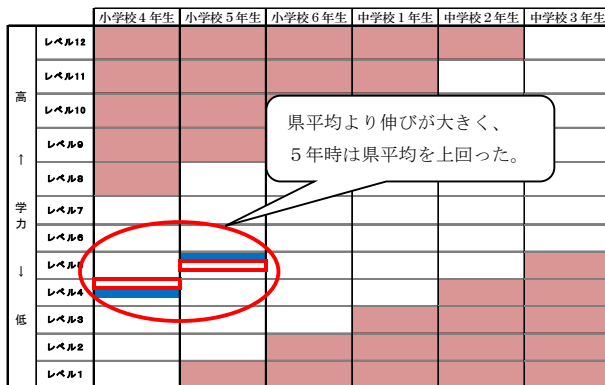
本校では、「主体的に運動し、『元気』『笑顔』『やる気』に満ちあふれる芝西っ子の育成～『できた！』『楽しい！』を味わわせる体育授業～」を研究主題とし、体力向上に取り組んでいる。その中で、グループ学習やペア・トリオ学習での伝え合いを通して思考力・判断力・表現力の育成も目指している。

2 令和 6・7 年度の結果

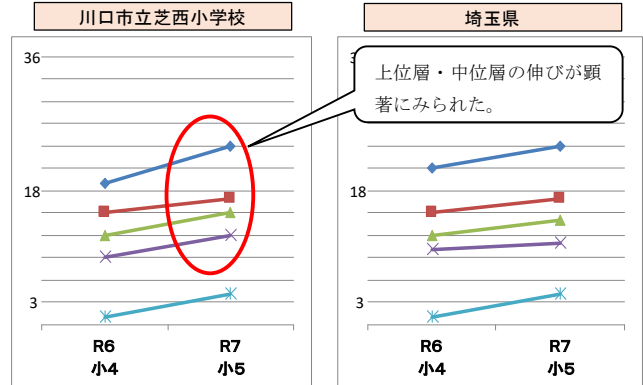
小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組【算数】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア ICTの積極的な活用

算数では、考えを共有したり図形領域で視覚的に支援したりと ICT を積極的に活用した授業を実践している。また、他教科（理科等）において、紙のノートを使用せず GIGA スクール端末をノートとして学習を進めたり、習熟を図る際は児童に適用問題を選択させて取り組んだりしている。高学年においては、GIGA スクール端末で単元テストを実施する等、児童教師共に ICT 技能を高めながら学力を伸ばす取組を行っている。



〈1 単元分のタブレットノート〉

イ GIGA スクール端末を活用した算数問題「川口 S ネクスト」への取組

川口市では、5・6 年を対象として「川口 S ネクスト」を実施している。算数の学力定着状況を実感・把握することを目的とした取組で、年に 2 回実施している。予想平均点が低めに設定され発展的な問題も含まれており、実施後、正答が即時判定されるため、児童がすぐに確認し、復習することができ、それにより学力の定着につながっている。



〈S ネクスト保護者通知〉

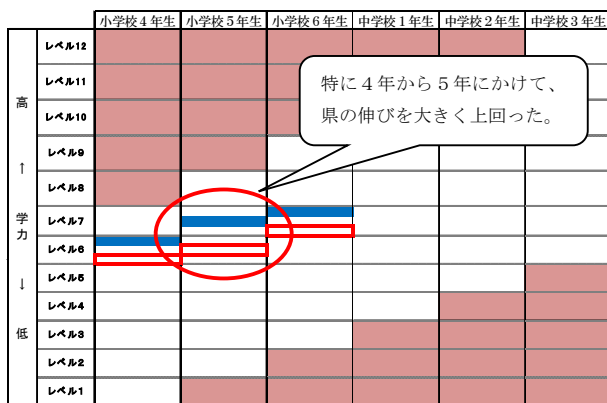
ウ 授業（学習形態）の工夫の取組

単元によって習熟度別少人数指導やチームティーチングを行ったり、適用問題時に早く解き終えた児童が「ミニ先生」として教え合いを行ったりすることで、効果的に学力を高めている。

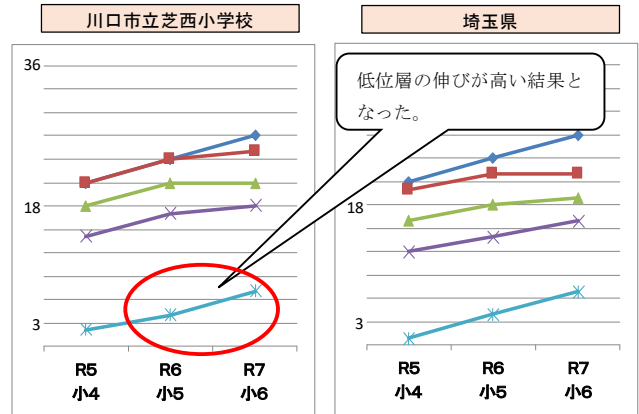
小学校5年生→小学校6年生の取組【国語】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 思考ツールを活用した国語授業

叙述から気持ち・行動を読み取った後に心情曲線を用いて登場人物の心情の変化や登場人物同士の関わりをより深く理解できるようにしたり、ICTを用いて言葉を色分けし整理してから文章を書いたりする等、様々な思考ツールを用いて授業を実施している。その際は、学年で単元前に教材研究を行い、昨年度との見直しを図りながら、教材を共有化して授業を進めている。

イ 他教科における「思考力、判断力、表現力等」の育成

体育の授業では、ゲーム中に記載させた技能分析表を基にチーム内で課題や作戦の話合いを活発化させたり、個人活動になりがちな跳び箱やマット運動においてもトリオ・ペアでアドバイスし合う活動を重視したりすることにより、自分の考えを伝える力を高めている。



〈体育の授業での伝え合い〉

ウ 朝学習の効果的な取組

本校では1校時前に、朝学習（15分）を実施しているが、週に1度は、全校で共通の取組内容を実施している。国語タイムでは、「コバトンのびのびシート」「硬筆」「読書」「タブレットを用いた発展問題」等、時期や学年に合わせて短時間で効果的な内容を考えて取り組んでいる。

エ 家庭学習の内容の充実

3年生以上は、国語、算数、音読を中心とした基本の宿題に加えて「自主学習のすすめ」を家庭に周知し、児童の自主性や意欲を高めた学習を行っている。



〈自主学習のすすめ〉

学校全体での取組

(1) 共通理解を図った教科指導・教員同士での授業参観

国語や算数に加え、体育や学級活動等、年度当初に職員全体で授業の進め方を確認し、共通理解の下、進めている。また、校内の研究授業に留まらず、示範授業や管理職参観授業等を自由に参観できる体制を作り、お互いに見合っけて授業力を高めている。

(2) 学力に関する職員研修と家庭への啓発

毎年の夏季研修では、全職員で県学力・学習状況調査の結果の伸びや課題を分析し、学校で力を入れて取り組んでいく内容や家庭で取り組むことのできる学習内容を話し合っている。また、整理した内容を家庭にも配信し、学校・家庭で協力して学力を高める環境を整えている。

(3) CBT化を見据えたタイピングソフトの導入

令和5年度より、校内でタイピングソフトを選定し、学校全体で級認定を掲示したり、毎年取り組むソフトを変更したりすることで、継続的にタイピング技能を高めている。



東松山市立松山第一小学校の取組

1 本校の概要

本校は、明治6年8月6日に開校し、本年度で152年目を迎えた。東松山市の中心部に位置し、周辺には上沼公園、下沼公園、岩鼻運動場などの自然豊かな公園、そして箭弓神社などの文化的財産、陣屋通り商店街も近くにあり、よい環境の中で教育活動を行っている。学校教育目標は「なかよく かしこく たくましく」とし、知・徳・体をバランスよく育むことを目指し、この実現に向け、教職員一同力を合わせ、日々の教育活動に取り組んでいる。



2 令和6・7年度の結果

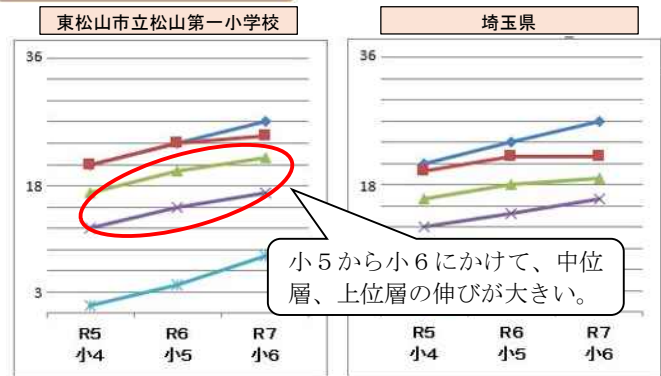
小学校5年生→小学校6年生の取組【国語】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 学校課題研究を通じた校内での共通実践

令和4年度から令和6年度の3年間で、「国語科の読解力を育成する指導の工夫」という研究主題を掲げ、国語科の授業改善の研究・実践に取り組んだ。課題解決型の授業、課題とまとめの正対、叙述に即した読み取り、文章を書く力を高めるための指導法など、年次ごとにテーマを決めて取り組んだ。また、中・高学年では、1単位時間の授業展開を統一して取り組み、授業担当者が変わっても、児童が同じ進め方で学べる環境を整えた。



イ 学習方略や非認知能力に関すること

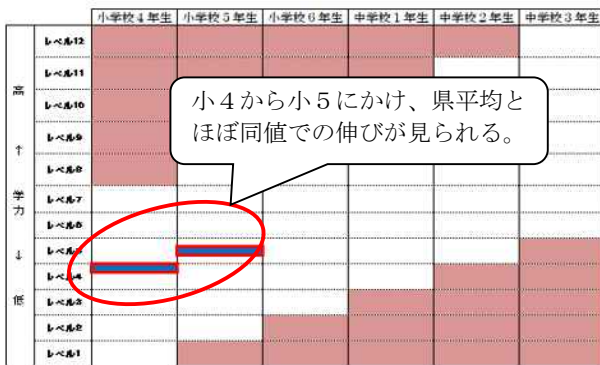
全校で「コツコツカード」を活用し、家庭学習の習慣化に取り組んでいる。カードの内容は国語の音読に関する項目として「大きな声ではっきりと」「句読点に気をつけて」の2つを設定している。その他に「体力」として、運動面の課題や「宿題」も項目に入れ、課題や宿題などを継続的に行う習慣化を図り、家庭と連携しながら児童に「粘り強く取り組む」力の育成を図っている。



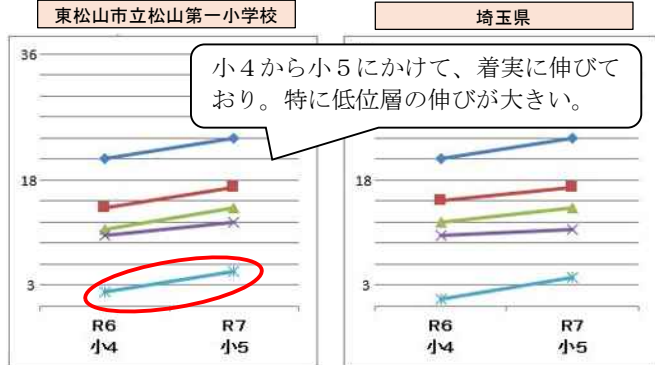
小学校4年生→小学校5年生の取組【算数】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 少人数の習熟度別指導の導入と全校で統一した授業展開
令和4年度より算数で少人数の習熟度別指導を導入した。3～6学年は教科担任(授業者A)と学級担任(授業者B)で時間割をそろえ、Aが中上位の児童を担当し、Bがその他の児童を担当した。Bのクラスは単元の初めに既習事項の復習を多めに設定し、Aのクラスは、単元の終わりに応用問題や発展問題に取り組んだ。また、授業展開を統一し、学年や指導者が変わっても、同じ授業の流れにすることで、児童が安心して、学習に取り組むことができるようになった。



イ 学習方略や非認知能力に関すること

児童が学習サイクルを身に付け、学習の見通しがもてるよう、単元の流れを(予習・授業・復習・テスト・復習)という形で統一し、全校で取り組んだ。
また、少人数の習熟度別指導では、授業展開を工夫し、できない問題を繰り返し行い、定着を図った。児童にも粘り強く問題を解くという習慣が身に付いた。



学校全体での取組

(1) 特別活動を通じた学級経営と人間関係の構築

年度当初に、オンラインによる「年度当初の学級経営」についての講義を聞き、また、本市で作成した「東松山の学級経営スタンダード ver.2.0」を活用し、児童が安心して学習できる学級づくりに全校で取り組んでいる。この取組が、児童の積極的な授業態度にもつながっている。



(2) 朝読書の活動の取組

業前の時間を活用し、全校で朝読書を行っている。各自が用意した本をじっくりと読むことで、読書の習慣化と落ち着いた教室の雰囲気づくりができており、各教科の授業にも落ち着いて取り組むことができる一つのきっかけとなっている。





神川町立丹荘小学校の取組

1 本校の概要

本校は、埼玉県北部に位置する、開校 152 周年を迎える学校である。全校児童は 296 人、学級数 17 の中規模校である。

学校教育目標『笑顔いっぱい・夢いっぱい』自ら学び、思いやりの心を持ち、たくましく生きる児童の育成」の下、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。今年度は、「学び合い、認め合い、主体的に高め合う教育活動の推進 ～探究的な学びと児童理解の視点に立った、国語科指導の研究～」を研究主題に、主に国語科を中心に、授業を通して学力の向上を推進している。

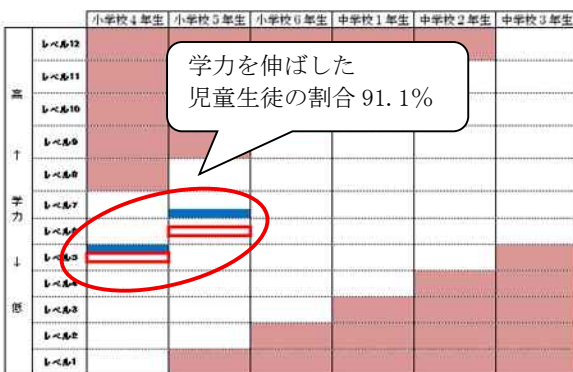


2 令和 6・7 年度の結果

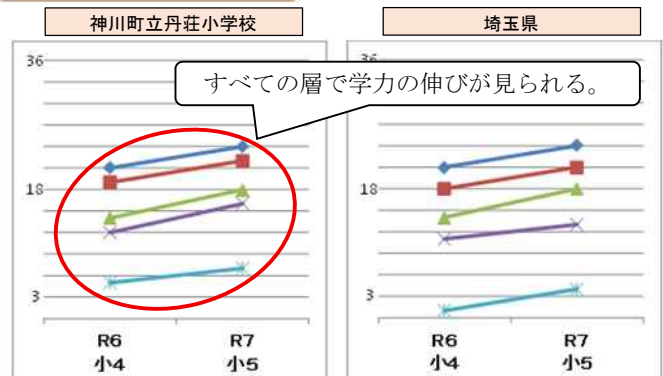
小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 毎時間の授業において子供と先生で学習課題を設定【神川町探究型授業の充実】

①子供が解決しようと思えるようなものであること②少し高めハードルであること③何を解決すればよいのかがわかりやすいものであること等を意識しながら学習課題を設定している。

イ 学年の実態に応じた業前学習の充実

毎週月曜日の業前学習で1・2・3年生は視写学習、4年生は新聞ワークシートを活用しての記述問題、5・6年生は朝日小学生新聞を活用してのコラム学習に取り組み、書く力の育成を図っている。毎週金曜日には、新出漢字、漢字テスト、言語学習等、その時期に応じて内容を弾力的に変更しながら国語の基礎・基本の習得を図っている。

ウ 学習の系統性を生かした掲示物の充実

1年間で約3回程度ある説明文の学習に利用できる掲示物を作成した。文章の構成を考えたり、学習用語を振り返ったりすることで、国語科の基礎・基本となる知識や学習の仕方の習得を図っている。



学習の系統性を生かした掲示

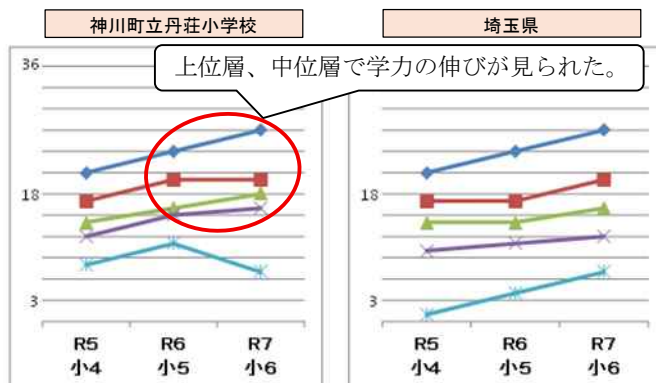
小学校5年生→小学校6年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 子供相互の対話(話し合い・討論)を生かしながらの課題解決【神川町探究型授業の充実】

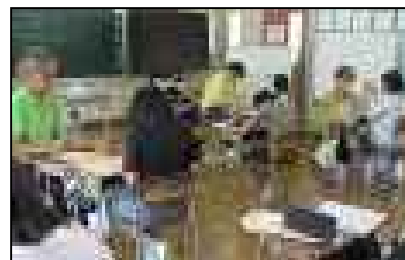
①自力解決②グループでの学び合い(ユニット)③学級全体での学び合いの流れの学習スタイルを確立している。教師は、自力解決の時間にうまく仮説をもてないでいる子供を丁寧に支援している。授業の前に、子供たちから出されるであろう意見(仮説・見方)を多様に予想しておき、どのように話し合い・討論をリードしていくかを計画している。

イ 県学調復習シート(算数)の活用・家庭学習との連携

毎週金曜日に県学調復習シートを配布し家庭学習で取り組む。月曜日に回収し、火曜日の業前学習で答え合わせ、復習を行い、学習の定着を図っている。

ウ ベーシックサマースクール・ビルドアップ教室

夏休み中に、2～6年生を対象とした算数の補習授業を行っている。また、2・3学期の放課後に4・5年生を対象とした算数の補習授業を行っている。どちらの取組も算数における低位児童の基礎・基本の定着を図っている。



ベーシックサマースクール

学校全体での取組

(1) 構造的な板書の作成

作品や文章から読みとった意味や概念、またそれらのつながり・関係を、子供の発言を生かしながら俯瞰できるように授業1時間を黒板1枚分で構造化している。

(2) 職員フリー参観

職員が自由に教室を出入りし、授業を見合い、良いところを共有する。若手、中堅、ベテランがそれぞれの授業を見合うことで、互いの良さを実感したり、指導に活かしたりすることができるようにする。

(3) 各種学力テスト分析

全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の結果を受け、職員研修で分析する時間を設けている。全国学力・学習状況調査については、職員全員で当年度の問題を解いた後、どんな傾向の問題が出ているのか、児童がつまづきそうな問題はどのような問題なのか等を、ICTを活用しながら同時編集、同時入力、即時フィードバックしながら進めている。埼玉県学力・学習状況調査では、昨年度からの伸びを参考に、前学年や前担任の取組を共有したり、非認知能力の高まりについて分析したりしている。

(4) 神川町教育委員会の方針で受けた学校研究の実施

神川町教育委員会の学力向上の方針を受け、教師による助言の仕方や児童理解に基づいた授業づくりを学校研究に位置づけ、実施している。同方針は神川町内の小中学校でも実施しており、小中連携の取組になっている。



蓮田市立蓮田中央小学校の取組

1 本校の概要

本校は全校児童 530 名、通常学級 18 クラス、特別支援学級 2 クラスの中規模校である。昭和 44 年に開校し、今年で 56 周年を迎えた。

本校は目指す学校像を「子供の笑顔輝く未来のために、教職員が創意工夫し、家庭地域と協働する元気な学校」とし、学校教育目標「心豊かにたくましく未来を拓く児童の育成～よく考える子・心豊かな子・じょうぶな子～」の実現に向け、子供の笑顔輝く未来のために教職員が創意工夫し、家庭・地域と協働する元気な学校づくりを進めている。

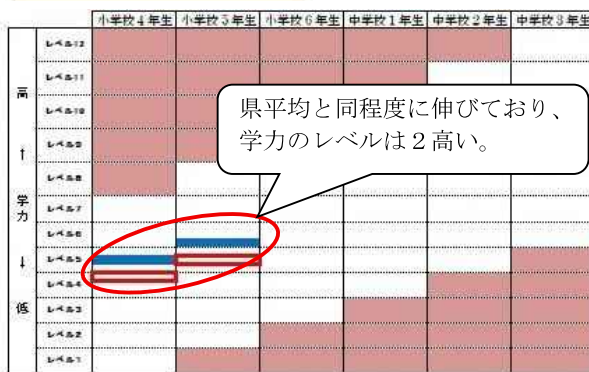


2 令和 6・7 年度の結果

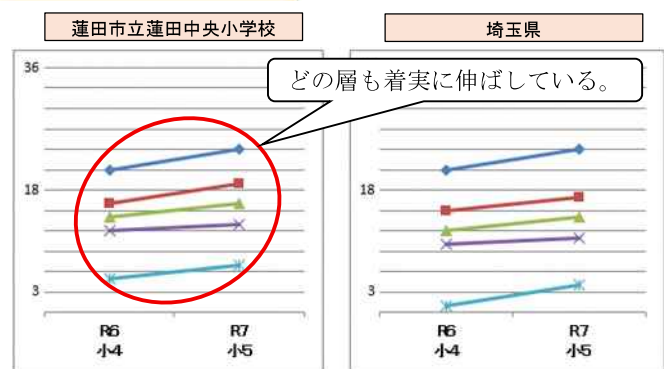
小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組【算数】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 算数タイムでの復習

朝の活動の一つである「算数タイム」では復習に力を入れた。系統を意識し、現在学習している内容に関連する前年度の内容などにプリントで取り組むようにした。例えば、4 年生の小数のわり算の学習では、3 年生で学習した小数やわり算の復習を行った。また、コバトン問題集やタブレット端末を使ってオンラインドリルに取り組んだ。習熟が不十分だった部分を解消した上で学習することにより、学力向上につながった。



イ 学習方略や非認知能力に関すること

学級活動の時間に「いいねマンダラート」を実施した。各班で話し合っカードにまとめた長所について、それぞれが読み、感想を書くことで、自分自身の長所に改めて気付くことができ、自己肯定感が高まった。また、インタビュー活動を通して友達の良さを見つけようという意識も高まった。クラス全体にお互いを尊重し認め合おうとする支持的風土が醸成された。



小学校5年生→小学校6年生の取組【算数】

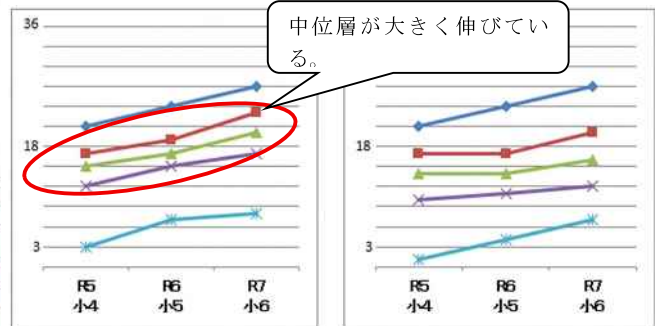
(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



毎年県の伸びを上回っており、特に今年度は大きく上回っている。

学力の伸びの状況



中位層が大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 既習事項の着実な定着

授業で学習した内容が確実に定着するよう、その日のうちにドリルやプリントで復習を行った。また、学び合いを重視し、友達に対して自分の考えを自分の言葉で説明する時間を確保した。これらの取組の結果、学習内容の理解が深まり、考え方も広がって、学力向上につながった。



イ 学習方略や非認知能力に関すること

感謝やお礼の気持ちを書き出し、教室内に掲示した「ありがとうの木」に貼り貯め、児童が休み時間などいつでも見られるようにした。また、道徳の時間で取り上げたり、帰りの会で日直がクラスの友達の良いところを発表する時間も設けたりした。その結果、クラス全体で互いに認め合おうという温かい雰囲気ができ、支持的風土が醸成された。



学校全体での取組

(1) ICTの活用場面における期待する効果と活用ポイントの明確化

ICTを活用するとどのような効果が期待できるかを考え、活用場面を7つに分類した。また、7つの場面それぞれにおいて活用のポイントを明確化し、意図的・計画的な授業を構成するようにした。また、教科書の二次元コードコンテンツ等も学年ごとに整理し、いつでも活用できるようにした。

具体的な方策 (ICTの活用場面)
・問題提示…問題を一瞬で配布できる。問題を拡大して見せることができる。
・自力解決時…ノート、ワークシートの代わりに使用できる。試行錯誤が可能である。
・学び合い時…一瞬で記述内容が転送できる。また、一覧表示が可能である。
・まとめ・振り返り…まとめ・振り返りの共有できる。振り返りの蓄積が可能である。
・学習内容の蓄積…タブレットに書いた内容が蓄積される。
・個人の状況の把握…個人の問題解決状況を把握できる。
・知識・技能の伝達…お手本の動きを確認したり、自分の動きを振り返ったりすることができる。

(2) 一人一人の理解を深めるための思考の場面における「対話」の重点化

児童の協働的な学びを推進するために対話が重要であると考え、対話とはどのようなものかや、どのような意図によって行うかを定義付けた。また、低・中・高のブロックごとに「学び合う姿」を設定した。さらに、学び合いが効果的に行われるように「中央小☆発表のルール」や「中央小対話の仕方」、「対話タイム」などの「対話的な学習の仕方」を作成し、活用した。



朝霞市立朝霞第五中学校の取組

1 本校の概要

本校は、緑と川に囲まれ自然環境に恵まれた学校である。本年度創立 47 年目をむかえた。生徒数は 319 名、学級数 11 学級（通常学級 9、特別支援学級 2）である。生徒は、本校の伝統である「あいさつする」「掃除をよくやる」「規律を守る」などを引き継ぎ、何事も一生懸命取り組む学級風土の下、学級・学年を問わず互いに認め合う雰囲気根づき、落ち着いた学校生活を送っている。

2 令和 6・7 年度の結果

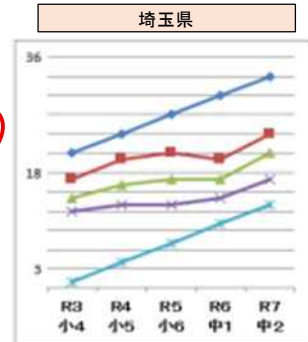
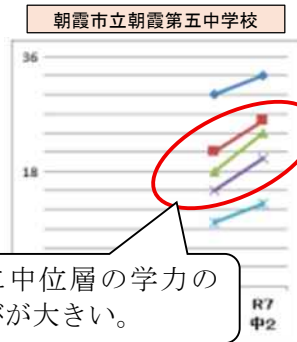
中学校 1 年生→中学校 2 年生の取組【数学】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 習熟度別指導による個に応じた学びの充実

昨年度、本校では中学 1 年数学において習熟度別指導を実施した。学級内の学力傾向を分析し、二つのグループに分けて授業を行うことで、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を可能とした。特に、学力下位層のグループについては 10 名の少人数とし、教員 2 名による協働指導体制を整えた。授業では基礎・基本の確実な定着を重視し、反復演習を通して理解の定着を図った。その結果、学力の底上げが見られるとともに、学習に対する自信や自己肯定感の向上にもつながった。

一方、中上位層のグループでは、20 名の生徒を対象に、基礎内容の確認に加え、発展的課題や応用的思考を要する問題にも積極的に取り組ませた。授業では、複数の解法の比較検討や、日常生活・他教科との関連を意識した課題設定など、思考の幅を広げる工夫を行った。また、生徒同士の意見交流や説明活動を取り入れることで、論理的に考えをまとめる力や表現力の育成にもつながった。



【数学教室の掲示物の工夫】

イ ICTを活用した自立的な学びの推進

授業支援ツール（ロイロノート）を用いて自分の考えを共有し、他者の意見との比較を通して多面的に思考する力を養った。また、AIドリル（すららドリル）により、個々の理解度に応じた課題に取り組むことで、学習習慣の定着と自己調整力の向上を促した。さらに、オンラインアンケートツール（Microsoft Forms）を活用して単元ごとに小テスト（単元別テスト）を実施し、学習状況の見える化と即時のフィードバックを行った。これにより、生徒自身が自らの課題を把握し、次の学習に生かす姿勢が定着した。これらの取組により、生徒は自ら課題を見つけ、粘り強く取り組む姿勢を身に付けた。学習意欲や自己肯定感の向上も見られ、学力の定着と主体的な学びの両面で成果が得られた。

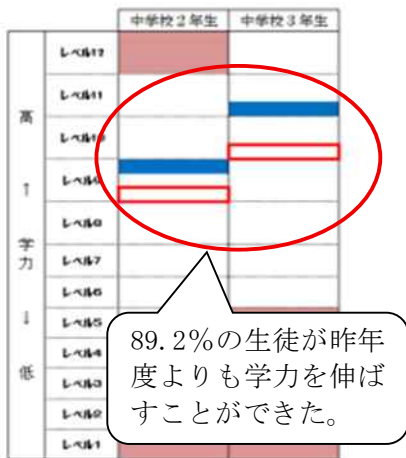


【授業支援ツールの活用】

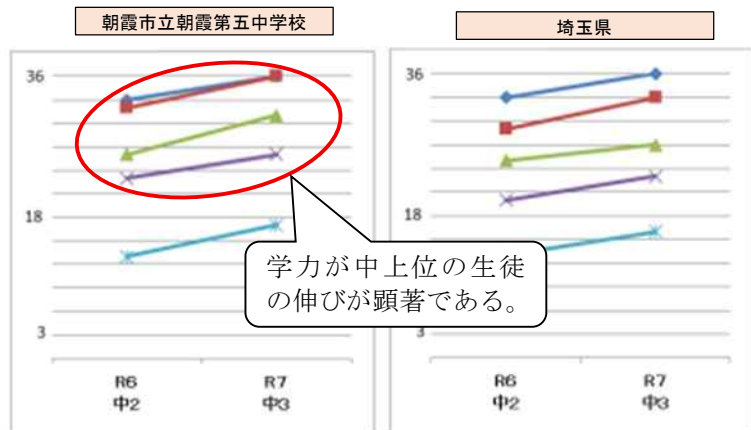
中学校2年生→中学校3年生の取組【英語】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



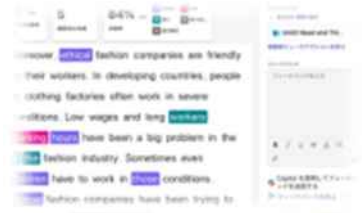
学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア コラボレーションツール (Microsoft Teams 課題機能を活用した音読練習の取組)

英語の「読む力」「聞く力」の向上を目的に、コラボレーションツールの課題機能を使った音読練習を実施した。生徒は自宅でタブレット端末 (iPad) を用いて音読し、録音データを提出。AI 機能により発音ミスや読解速度 (WPM) が可視化され、自分の上達を数値で確認できるようにした。これにより、苦手意識をもつ生徒も繰り返し練習に取り組むようになり、発音・読解・リスニング力の向上につながった。ICT を活用した個別最適な学びの実践として効果が見られた。



【コラボレーションツールの課題機能の活用】

イ 授業支援ツール (ロイロノート) や自己評価シートを活用した英作文の取組

英語の表現力を高めるために、授業支援ツールや自己評価シートを活用した英作文の取組を行っている。生徒は授業で新しく習った文法や表現を使い、2～3文程度の短い英作文を作成し、授業内または宿題として授業支援ツールに提出している。教師は提出された英作文を確認し、生徒が誤りやすい文法・語彙のポイントを把握したうえで、次の授業で全体にフィードバックを行う。特に、生徒の実際の英文を共有しながら解説することで、同じ表現を使った新しい例文に触れる機会が増え、表現の幅が着実に広がっている。

学校全体での取組

本校は、朝霞市より特認校の指定を受けており、特色ある教育活動の一環として、学習支援体制の充実を図っている。具体的には、土曜日の午前を中心に年30回程度「ステップアップ教室」を実施し、学校の教室を開放して希望する生徒に自主学習の場を提供している。教員も複数名体制で参加し、生徒からの質問対応や学習支援を行うことで、基礎学力の定着と学習習慣の確立に効果を上げている。また、月2回程度、水曜日の放課後には「チャレンジ学習」を実施し、学年ごとに設定したテーマに基づいて全生徒が課題に取り組んでいる。生徒一人一人が自ら学ぶ力を高めるとともに、主体的に課題に向き合い、粘り強く学びを継続する姿勢の育成を図っている。



鶴ヶ島市立富士見中学校の取組

1 本校の概要

本校は、特別支援学級2学級を含む9学級、生徒数235名の中規模の学校である。

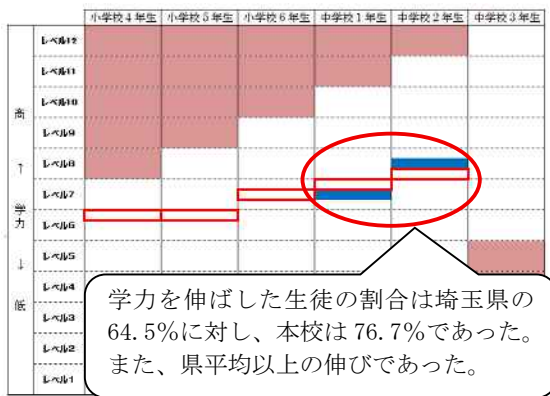
学校教育目標を「心を磨き」「本気で学び」「たくましく」とし、目指す生徒像を「豊かな未来を創り出す生徒」としている。これらを具現化するために、「一人残らず学ぶ教室」を合言葉にし、授業力向上に向けて研修を進めている。

2 令和6・7年度の結果

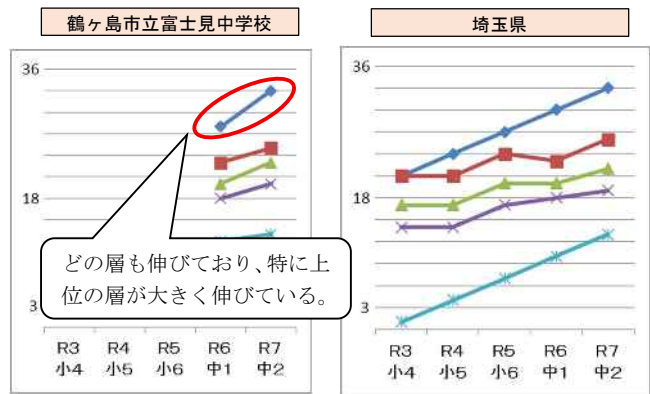
中学校1年生→中学校2年生の取組【国語】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 個別進度学習（自由進度学習）

令和6年度の2学期後半以降、生徒は教師から示された課題に対して、どの順番で課題に取り組むかを計画し、その計画に沿って学びを進めている。自分の学びを深めたい課題や苦手意識のある課題については時間をかけることができ、一方で得意な課題については短い時間で学びを進めることができる学習方法である。この学習方法で学ぶ中で生徒は、教科の学びだけでなく、どの教科にも通じる「学び方」も学ぶことができる。結果として、「個別進度学習」が「学びに向かう力」の育成に寄与していると考えている。

(左：個別進度学習用サイト)
(右：学習の様子)



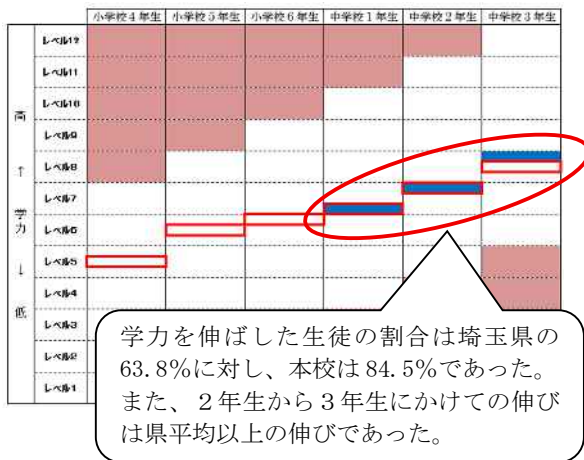
イ 学習方略や非認知能力に関すること

「個別進度学習」の取組の中で生徒自身が学習計画を立てながら学習をしていることもあり、「プランニング方略」は県平均以上の数値となっている。また、自らの計画を進めていくことが求められるため「作業方略」も県平均以上になっている。その他にも、進度は様々であっても学級内での学び合いを求める学習形式にしているため、他者とのかかわりの中で自分の考えを形成していく必要がある授業となっている。その結果、「柔軟的方略」「認知的方略」「向社会性」の数値も県平均以上の数値になっているのではないかと考えられる。

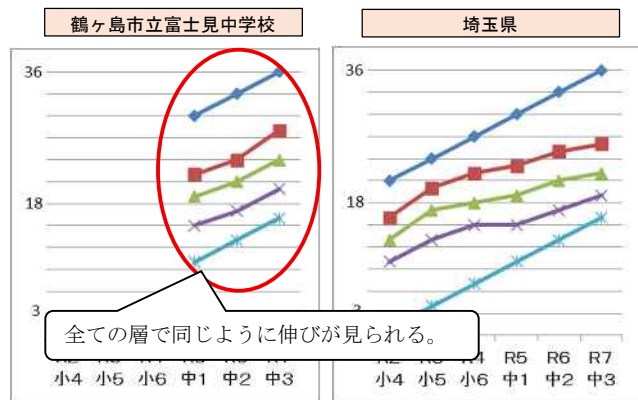
中学校2年生→中学校3年生の取組【数学】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 「対話」を中心にした授業

授業の中で教師が「指導する時間」よりも、生徒同士の「対話による学びの時間」を多く確保することによって、主体的・対話的で深い学びとなる「学び合い学習」を実施している。さらに、生徒の学習成果に対しては、「正解」という結果より「なぜそのように考えたのか」という過程を重視することで、学びを深めている。このように、生徒同士の対話と、生徒と教師の対話を中心とした授業を実践している。

イ 学習方略や非認知能力に関すること

他者との対話によって、自分の考えと異なる意見を踏まえながら学びを進める場面を多く設定している。いろいろな考え方を受け入れながら学ぶことで「柔軟的方略」の数値が高まり、また授業の中で自分の説明を相手に聞いてもらう機会を設けることで「自己効力感」の数値が高まり、いずれも県平均以上という結果につながっているのではないかと分析している。

学校全体での取組

(1) 「学び合い学習」を通じた「一人残らず学ぶ教室」

「学び合い学習」によって、すべての生徒が多くの考え方に触れながら自身の考えを形成していくことができる授業づくりを目指している。

(2) 生徒の活動時間の確保（授業の6割以上を生徒の活動時間に）

全教職員が共通理解の上、どの教科の授業においても生徒の活動時間を確保することで、生徒が自ら考え、学ぶことができる授業づくりに努めている。

(3) 鶴ヶ島市『主体的・対話的で深い学び』チェックリスト』の活用

鶴ヶ島市学力向上推進委員会が作成した、『主体的・対話的で深い学び』チェックリスト』を活用し、生徒も教師も同じ観点で授業を振り返る取組を行っている。教師が自身を振り返るだけでなく、生徒がどのように感じているのかを知り、生徒が主体的に学ぶことができる授業づくりに役立てている。

(4) 学習支援員の活用

鶴ヶ島市では、中学校に各1名の学習支援員の配置をしている。本校は、数学科に支援員の配置を行っており、教科担当に加え支援員の補助により、きめ細やかな指導ができています。



寄居町立男衾中学校の取組

1 本校の概要

本校は、昭和22年の開校以来、今年で79年目を迎える歴史と伝統のある学校である。全校生徒は197名で特別支援学級を含む計8クラスの小規模校である。卒業生の中には、東京オリンピックで金メダルを獲得した柔道の新井千鶴さんやリオデジャネイロオリンピックで活躍した陸上長距離・マラソン選手の設楽悠太さんがいる。



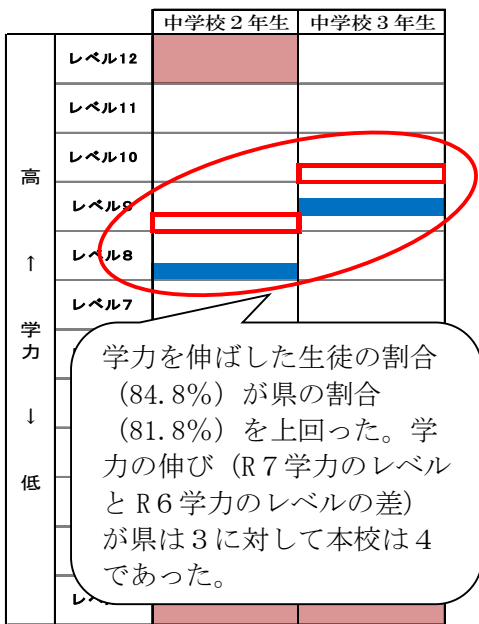
本校では、「誰一人取り残さない、個別最適な学びの構築～「探究と協働」による深い学びから、学力の向上を図る～」を学校研究課題とし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進し、主体的・対話的で深い学びの視点から学校をあげて、授業改善に取り組んでいる。また、隣接する男衾小学校との9年間を見通した小中一貫教育に力を注ぐとともに、令和4年度から令和6年度にかけて文部科学省の教育課程実践検証協力校として「探究と協働」をテーマに総合的な学習の時間の研究を行っている。

2 令和6・7年度の結果

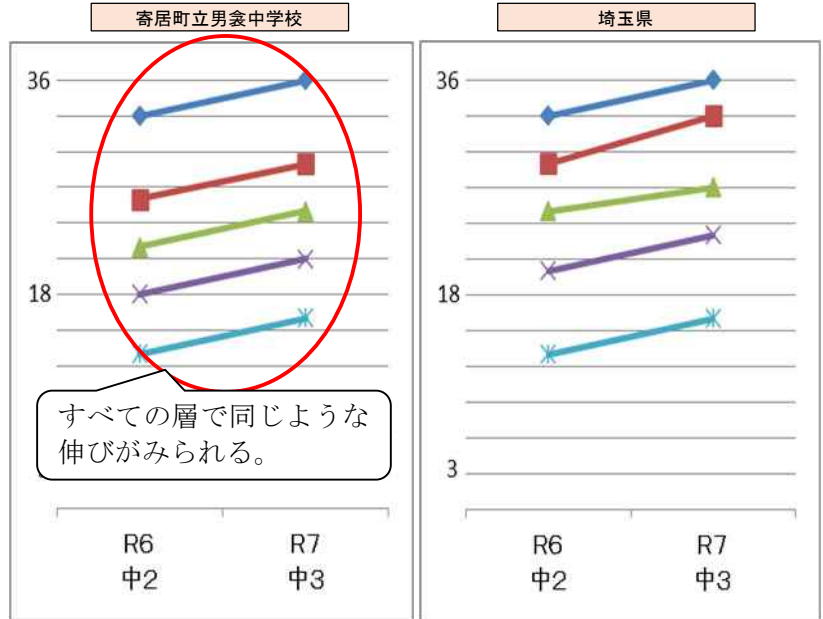
中学校2年生→中学校3年生の取組【英語】

(1) 学力の伸びから見られる特徴

今までの学力の変化



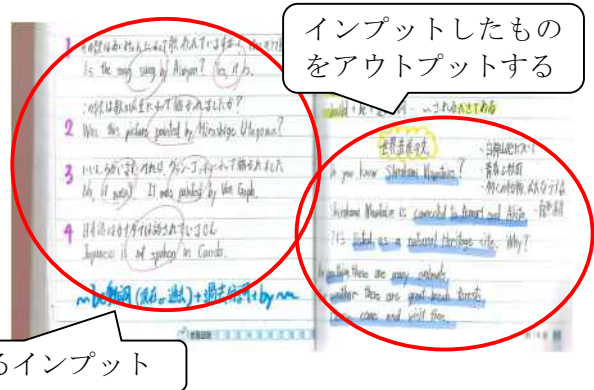
学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 毎時間の帯活動におけるインプットと単元末におけるアウトプットの徹底

英語科では、生きて働く知識・技能の獲得のために、毎時間の帯活動でインプットする活動を欠かすことなく実践している。加えて、単元の終わりにはアウトプットする活動を実施している。インプットするときには、ただ暗記させていくだけではなく、目的、場面、状況を明確にし、「生徒の思い」や「考え」を伝えることができるように、毎時間指導している。



イ 《個別》、《協働》、《一斉》、《ペア》指導が効果的に組み合わせられた単元計画

英語科では、《個別》、《協働》、《一斉》、《ペア》を効果的に組み合わせた単元計画を作成し、授業実践している。単元の目標を達成するために、一人一人異なる子供の学びの過程を見通して、全ての子供が単元の目標を達成できるよう、全体に指導する場面、協働が必要な場面、個別に学習を進める場面を効果的に組み合わせる単元を設計している。

《個別》



《協働》



《一斉》



《ペア》



ウ 学習方略や非認知能力に関すること

英語科では、タブレット等のICT機器を用いて、子供たち一人一人の特性や学習進度にあわせて、効果的な指導を行っている。《個別》で学ぶ学習時間を各単元中に設定し、学習アプリを用いて、一人一人に最適な学習課題に取り組みさせている。生徒は、難易度を自分に合わせて柔軟に変更していくので、苦手としているところ、さらに伸ばしていきたいところなど重点的に学習することができる。



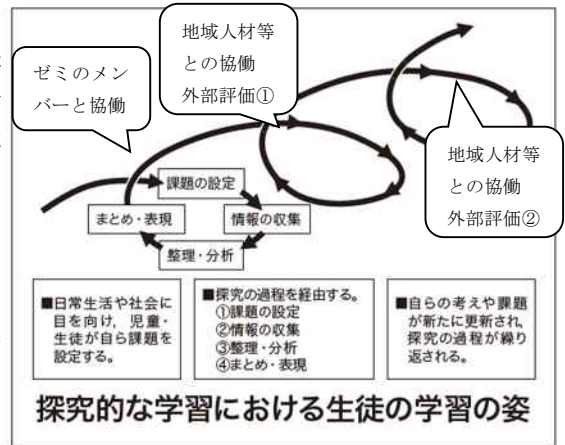
学校全体での取組

(1) 異学年集団、地域人材等との協働による総合的な学習の時間における探究的な学び

本校では、学校全体で、学年や学級の枠を取り払った集団の縦割りグループを編成してゼミ形式で総合的な学習の時間における探究学習を実施している。その際にすべてのゼミで次のようなプロセスで共通理解を図り、実践している。

- ①体験活動などを通して課題を設定し、課題意識をもつ
- ②必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

その際に、地域人材、行政職員、専門家等による外部評価をきっかけとして生徒が新たな視点で考えられるよう、指導を工夫している。課題を立て、よりよい解決にむけて主体的に取り組む態度を育成し、一人だけでは成し遂げられない課題を異学年の生徒、地域人材、関係機関と協働することで課題解決への糸口をつかみやすくなる。他者と協働し、異なる意見を生かして、新たな知を創造しようとする態度、課題解決に向けて必要な知識・技能及び、思考力・判断力・表現力を学校全体で育成している。



寄居町の子ども支援課様とお話しして、私たちが何ができるのかと深く考えることができました。また、異学年と班をくんだりして、大切な意見を伝えることができたのが良かったです。寄居町の地域人の意見も聞けたのが良かったです。 (生徒の振り返りより)

(2) 男倉中スタンダードの活用

男倉中学校では、全職員がすべての授業で男倉中スタンダードを活用し、授業実践を行っている。生徒と学習過程、課題、学習形態等を共有することにより、生徒が安心して学べる授業づくりを行っている。どの授業も大枠の流れから外れることがないので、全職員が実践することにより誰一人取り残さない、個別最適な学びの構築の核になっている。





宮代町立百間中学校の取組

1 本校の概要

本校は生徒数 439 名、特別支援学級を含む 14 学級の学校である。学区内に東武動物公園駅があり、利便性と自然が調和した環境にある。

本校は、目指す学校像として「逞しく優しい生徒が育つ『生き方』が身につく学校 ～人と人の間に入れる「人間力」のある生徒の育成～」を掲げ、生き方教育を基盤とした「深い学び」が体感できる授業による学力向上を目指し、教育活動に取り組んでいる。

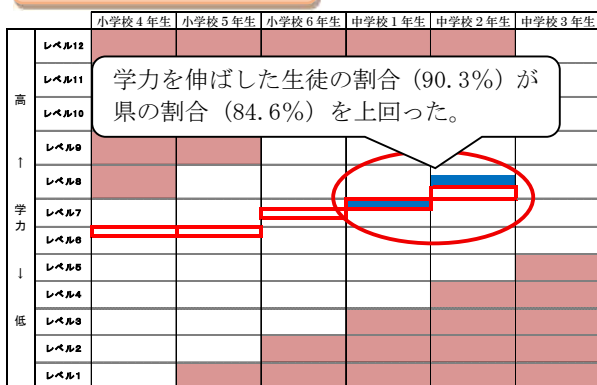


2 令和6・7年度の結果

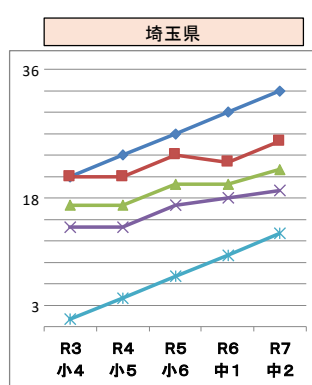
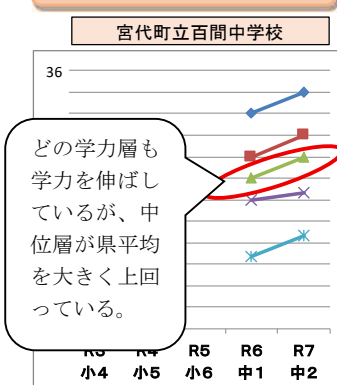
中学校1年生→中学校2年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 「知識・技能」「思考・判断・表現」の領域に関する指導について

- 前年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果を受け、正答率が低かった情報の扱い方や歴史的仮名遣いについて、積極的なICT活用や、帯単元での小テストやクイズ形式による出題の繰り返しにより、知識の定着を図った。
- 読解力と表現力を向上させるため、「文章構成や文章表現の特徴について学習した事項を生かして説明文を書く」等の活動を意図的に取り入れた。
- 表現活動を充実させるため、班での話し合い活動やペアワークにおいて、テーマや話し合いの手順及びポイントを明確にした。鑑賞や相互評価の場面では、既習事項を評価の観点として取り取り組み合わせることで、学習の深化を図った。結果、生徒質問調査で「話し合いで課題を解決した(52)」「自分の考えをしっかりとるようになった(53)」「自分の考え方が変わったり、深まったりした(54)」等の項目において、「よくあった」が県の回答率を上回った一因と考察する。



イ 学習方略や非認知能力に関すること

授業の振り返りの場面で「できた」ことだけではなく、学習過程で気付いたことや疑問に思ったことについて積極的に書くことを指導した。結果、生徒質問調査で「授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながった(56)」「自分がわからなかったことやわからなかったことを自覚した(58)」の項目において、「よくあった」が県の回答率を上回った一因と考察する。

第5章

その他

経年変化（学力の伸び）を測る埼玉県学力・学習状況調査の設計やよくあるQ & Aを掲載します。

また、授業改善に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査の活用を図る校内研修資料も紹介します。

1 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計

(ア) 本調査における学力の捉え方

「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉えます。

【イメージ】令和7年度に、ある児童（生徒）が受けた調査問題全体の解答状況（全30問の場合）（○は正答、×は誤答）

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ × ○ ○ × × × × ○ × × × × ×

易しい問題

難しい問題

正答や誤答の状況、個々の問題の難しさをもとに、学力を捉える。

① 学力の捉えについて

上の図のように、調査問題全体の中で難しい問題に正答し、易しい問題に誤答することもあるなど、児童生徒によって正答、誤答のパターンは様々です。そこで、どのような学力であれば、どのような解答パターンとなりやすいかということ、統計的手法を用いて推定し、その結果を学力として捉えています。

② 「問題の難しさ」で学力を捉える理由

一般的な学力調査に多く見られる、正答数（正答率）を学力の指標として使う方式は「いくつの問題に正答したか」で学力を捉えています。この場合、単一の調査の中で学力を比べることはできますが、小学校4年生と5年生など出題内容が異なる調査の結果から学力を比較することは難しくなります。

「問題の難しさ」をもとに学力を捉える方式は、次の(イ)に述べる工夫をし、異なる調査の問題の難しさと比較可能にした上で学力を捉えます。

(イ) 年度や学年で、異なる内容の調査結果を比較するための工夫

それぞれの調査に「全く同じ問題」を一部出題し、その問題への正答や誤答の状況を手掛かりとして、すべての問題について「難しさ」を比較します。

【イメージ】

※ 調査A、B、Cのそれぞれの調査問題を、難易度順に整列

調査A【令和6年度小4】

問1 問2・・・問10 問11・・・問29 問30

調査B【令和6年度小5】

問1 問2・・・問10 問11・・・問29 問30

調査C【令和7年度小5】

問1 問2・・・問10 問11・・・問31 問32

易しい問題

難しい問題

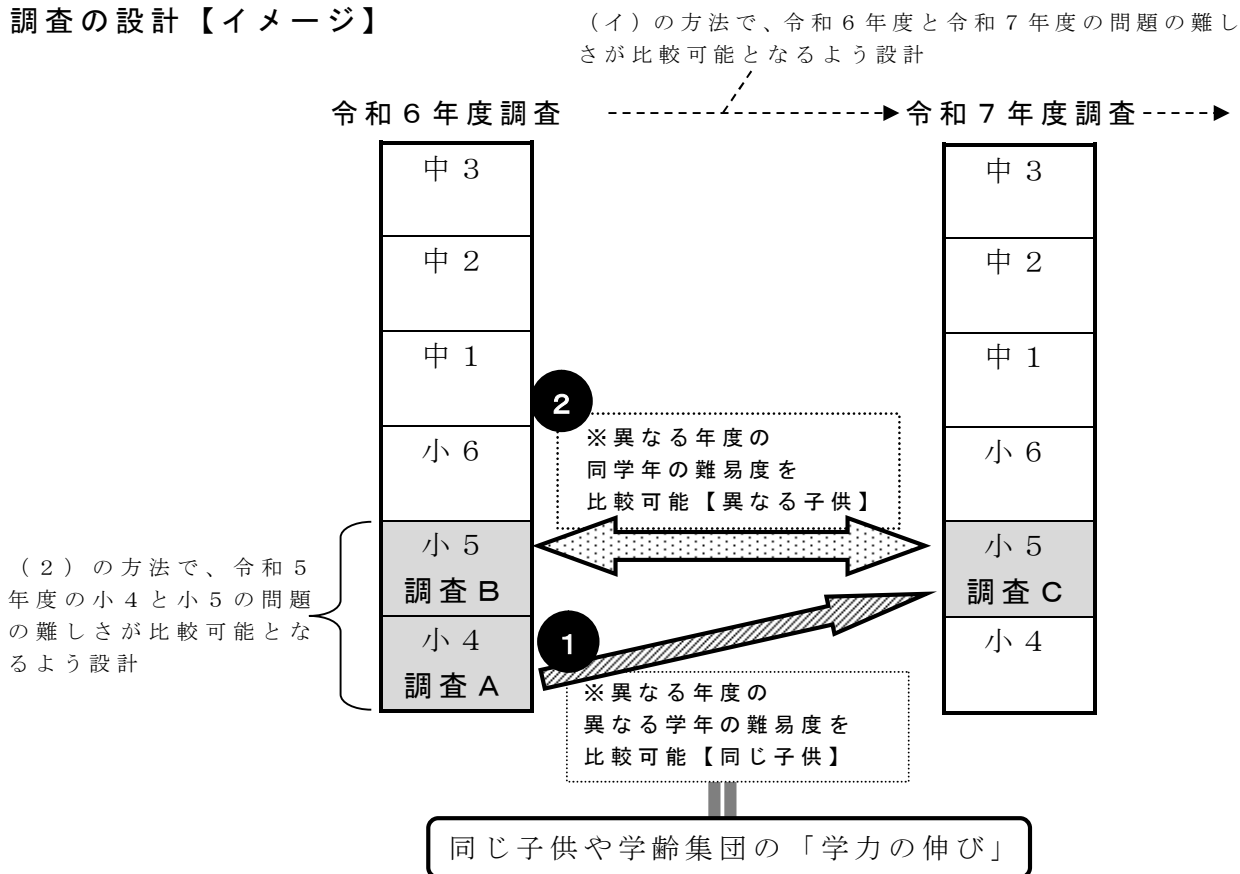
調査Aの問11と調査Bの問10は全く同じ問題を出題

調査Bの問29と調査Cの問31は全く同じ問題を出題

(ウ) 埼玉県学力・学習状況調査の設計

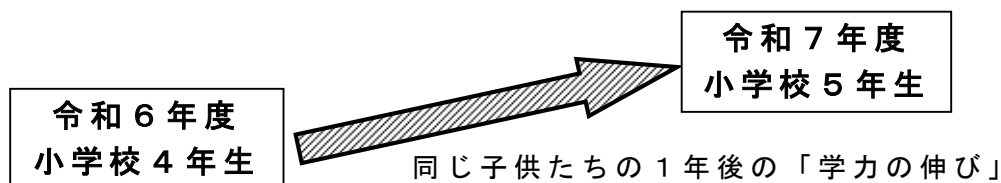
(ア)、(イ)に基づき、本調査では、以下のような調査設計により問題の難しさを比較可能にして、それに応じて学力の経年変化(伸び)を見ることとしています。

調査の設計【イメージ】



1 【同じ子供たちの「学力の伸び」】

(例) 令和6年度の小4と令和7年度の小5



2 【異なる年度の同じ学年の子供たちの結果】

(例) 令和6年度の小5と令和7年度の小5



(エ) 本調査における「学力の伸び」の捉え方

① 「難易度」について

本調査では、学力を「どのくらい難しい問題に正答できるか」で捉えるために、調査結果を分析し、全ての問題に難易度を設定しています。

< 難易度の例 >

○ 例 1 計算問題 (割り算)

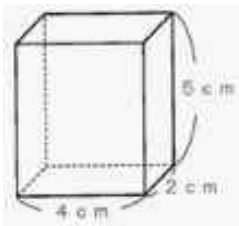
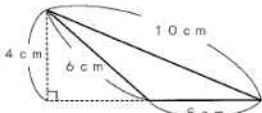
問題例	問題の難易度
$52 \div 4$	3
$5.6 \div 1.4$	4
$0.7 \div \frac{2}{3}$	6

整数同士の割り算である。
結果を分析し、問題の難易度は「3」となる。

小数同士の割り算である。
結果を分析し、問題の難易度は「4」となる。

小数と分数の割り算である。
結果を分析し、問題の難易度は「6」となる。

○ 例 2 求積の問題

問題例	問題の難易度
<p>次の図のような、たて、横、高さがそれぞれ 2 cm、4 cm、5 cm の直方体の体積を求めましょう。</p> 	4
<p>次の図は、三角形の面積を求めるために、直線の長さを測って書き入れたものです。この三角形の面積を求めましょう。</p> 	6

与えられた数値全てを使って体積を求める問題である。
結果を分析し、問題の難易度は「4」となる。

与えられた数値から必要な数値を取捨選択する問題である。
結果を分析し、問題の難易度は「6」となる。

② 「学力のレベル」について

様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力を判断しています。

学力は、「学力のレベル」で表される。学力のレベルはレベル 1 からレベル 12 までありますが、各学年の測定は以下の表のように 7 レベルの間で行っています。

学年	学力のレベル	学年	学力のレベル
小学校 4 年生	レベル 1 ~ 7	中学校 1 年生	レベル 4 ~ 10
小学校 5 年生	レベル 2 ~ 8	中学校 2 年生	レベル 5 ~ 11
小学校 6 年生	レベル 3 ~ 9	中学校 3 年生	レベル 6 ~ 12

2 調査に関するQ & A

(ア) 調査について

【Q1】

従来の調査と県学力・学習状況調査とは何が違うのですか。

【A1】

従来の調査は、学力を正答率で表すことが多く、調査年度の児童生徒の学力の現状を把握することには適していますが、実施年度が異なる調査の結果を比較しにくい課題があります。

そこで、県学力・学習状況調査では、異なる学年や年度間の問題の難易度を調整して学力を測定することにより、小学校4年生から、中学校3年生まで、児童生徒たちの学力が伸びていく様子をより明確に示すことができるようになっていきます。

【Q2】

県学力・学習状況調査の調査問題は、原則として非公開とされていますが、なぜですか。

【A2】

経年での伸びを測るために、同一の問題を年度を越えて出題する必要があることから、問題を原則非公開としています。

県学力・学習状況調査は、OECDの生徒の学習到達度調査(PISA)や、TOEIC、TOEFLなどと同様の分析手法を使っており、こうしたテストでも問題は原則非公開となっています。

なお、県学力・学習状況調査の類似問題等を基に作成した「復習シート」を県教育委員会ホームページに掲載しています。このシートは、家庭や学校で「学習した内容がしっかり身に付いているのか」の確認や、「一人一人の学力をさらに伸ばす」ことに活用できます。

(参考・県教育委員会ホームページ)

県学力・学習状況調査の「復習シート」について

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyoushi/images/fukusyuusi-to2.html>

(イ) 個人結果票の見方について

【Q3】

例えば、学力のレベル7で考えた場合、小学校4年生の学力のレベル7の児童と、中学1年生の学力のレベル7の生徒の学力は、同じと考えてよいのでしょうか。

【A3】

県学力・学習状況調査の「学力のレベル」については、学力のレベルが上がるほど難しい問題を解く力があると考えています。小学校4年生のレベル7と中学校1年生のレベル7では、正答できる問題の難易度は同じです。

ただし、小学校4年生の学力のレベル7の児童が中1のレベル7の問題を解けるかという、解けない問題もあります。これは、学習指導要領により学習内容が定められているため、中学校1年生のレベル7の問題を小4の児童はまだ習っていないためです。

【Q4】

前年度からレベルの数値が1上がると、該当学年内でのレベルの数値は低くても「大きな伸びが見られた」とコメントされていますが、なぜですか。

【A4】

本調査では、どの学力のレベルの中でも、数値が伸びているのであれば、児童生徒一人一人に伸びを実感させ、自信をもたせることが重要と考えています。

そのため、昨年度の自分と比較して、難易度が1レベルでも高い問題を解けるようになったことを「大きな伸び」と捉えてコメントしています。

【Q5】

例えば、中学校2年生での学力のレベルが5（中学校2年生の中では一番低い学力のレベル）の場合、学力のレベルが5より下のレベルがつけられない状態になっています。学力のレベルが5より下の場合は、どのように記載されますか。

【A5】

中学校2年生の調査において学力を測定できる問題の範囲は、レベル5からレベル11と設定しています。たとえ、問題に1問しか正解しなかったとしても、中学校2年生ではレベル5の学力がある可能性があるため、レベル5に位置付けられるようになっています。この場合、レベル5を明らかに下回るのは、正答数が0問の場合であり、その場合は、レベル自体が記載されないこととしています。

(ウ) 個人結果票の返却について

【Q6】

個人結果票を児童生徒に返却する際、どんなことを伝えればよいですか。

【A6】

本調査は、過去の自分の学力と現在の学力を比較できる設計となっています。一人一人の児童生徒に対して、学力の変化の状況についての適切な働きかけを行うことにより、今後の学力向上につなげていただきたいと思います。

①「今までの学力の変化」を確認し、学力が伸びた児童生徒に対しては、④「学習に関するアドバイス」を参考にしながら、1年間の頑張りを認めたり、ほめたりすることで、自信をもたせてください。また、学力が伸びていない児童生徒に対しては、教育相談などを行うことで、つまずきや悩み等を共有し、取組について丁寧な見取りなどを行うことで、今後の学力向上につなげてください。

児童生徒の解答状況については、②「教科の領域別正答率」の数値や、③「県平均と比べて時間をかけた問題」を参考にしてください。これにより、児童生徒が解答に困った、迷ったと考えられる問題を抽出し、その類似問題の復習を促すことができます。また、「領域別のかけた時間」では児童生徒が時間をかけた領域を把握することができるため、個々の課題を可視化することができます。調査問題については、本調査の設計上非公表となっていますが、県ホームページ上に「問題概要」や「復習シート」(類似問題)を掲載しているので、それらも活用してください。

返却する際、保護者も同席している場合には、可能な限り時間をかけていただき、児童生徒の「学力の伸び」やよさや課題を丁寧に伝えてください。そのうえで、伸びたところをほめたり、認めたりするとともに、苦手領域を中心に家庭学習が充実するよう伝えるようにしてください。

The image displays three sample result sheets for Japanese, Math, and English. Each sheet includes a table for '今までの学力の変化' (Change in current academic ability) comparing scores from the previous year to the current year. Below this are charts for '教科の領域別正答率' (Subject-specific correct answer rates) and '県平均と比べて時間をかけた問題' (Problems that took more time than the prefecture average). A section at the bottom provides '学習に関するアドバイス' (Advice on learning). Red boxes and callouts highlight these key sections for discussion with students and parents.

(エ) 結果帳票について

【Q7】

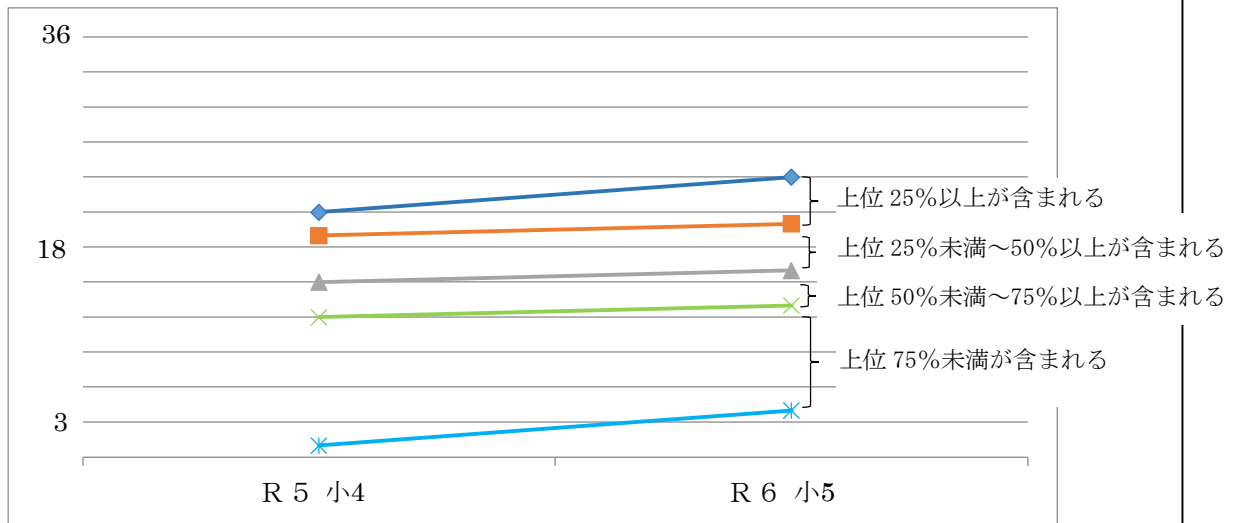
帳票の「28_各実施主体の調査結果票」の見方についてです。
線の傾きは何を表していますか。

【A7】

この帳票では、同学年の集団の中で、特定の位置にいる児童生徒（75%値に位置する児童生徒、中央値に位置する児童生徒、25%値に位置する児童生徒）の前年度と今年度の学力を示しています。5つの点は個人を表すので、集団の変化として捉えるためには、点どうしの幅に着目することが大切です。

前年度のそれぞれの位置を、今年度と比べることによって、この集団の学力分布の変化が分かります。

【グラフの見方】



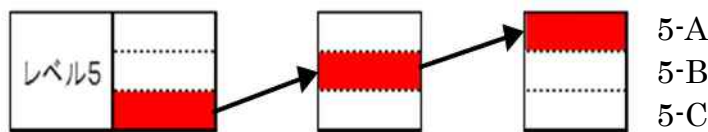
- ◆⇒ 最大値（最も学力が高い児童生徒が属する学力のレベル）
- ⇒ 75%値（学力を高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童生徒が属する学力のレベル）
- ▲⇒ 中央値（学力を高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童生徒が属する学力のレベル）
- ×⇒ 25%値（学力を高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童生徒が属する学力のレベル）
- ✱⇒ 最小値（最も学力が低い児童生徒が属する学力のレベル）

グラフの縦軸は、学力のレベルを表しています。

目盛りは、個人結果票の学力のレベル（12段階）を表しています。

各レベルの間は、A、B、Cの3段階に分かれています。

よって、全体では36段階（12×3）になります。



3 「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

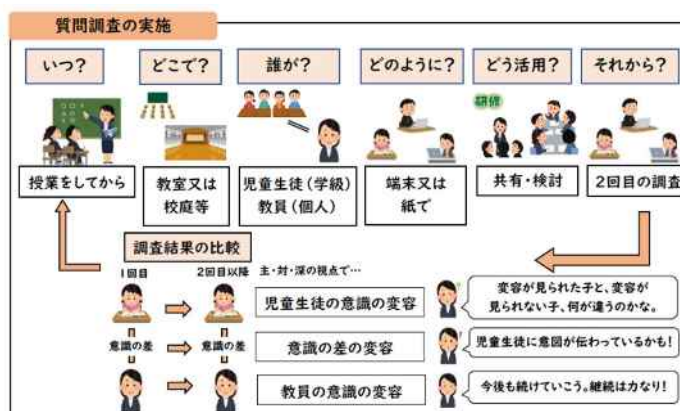
(1) 概要

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査は、教員と児童生徒が授業の振り返りを行うための質問調査です。概要についてお伝えします。

まずは1か月程度の授業実践をした後に、教員と児童生徒がそれぞれ質問調査を行います。

そして、質問調査の結果をもと

に、「主体的・対話的で深い学び」の視点から見つけた授業の良さを共有し、改善する点やその改善方法を検討します。その後、共有・検討したことをもとに授業改善に取り組み、一定期間の授業実践の後に再度質問調査を行うことで授業改善の進捗を可視化することができます。



(2) 質問調査項目

質問項目は、「主体的・対話的で深い学び」の視点によるもので、資料左側の教員用の質問と資料右側の児童生徒用の質問が対応しています。

教員用質問調査	児童生徒用質問調査	
1 子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと	1 授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと	主に主体的な学び
2 授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと	2 授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと	
3 わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと	3 わからないことなど質問しやすい雰囲気で行われたこと	
4 グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと	4 グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと	主に対話的な学び
5 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと	5 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと	
6 対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと	6 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと	主に深い学び
7 授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと	7 授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと	
8 学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと	8 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと	
9 授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと	9 授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと	
10 子供が教師の指示に従って受動的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること		

(3) 調査資料（研修用資料サイト掲載）

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査に活用するデータは、使用方法の説明 PDF 資料とともに県立総合教育センターの HP 内にある、義務教育指導課研修用資料サイトにアップロードされています。（ID やパスワード不要）

義務教育指導課 研修用資料サイト
<https://ecsweb.center.spec.ed.jp/gimushi/>



(4) 参考資料

活用事例① 教員も児童生徒も高い数値の項目

→ 校内等で共有を!

教員用質問紙	児童生徒用質問紙
5 2 授業の終わりに、子供たちが振り返る機会を決定したこと	4.4 2 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを書き出したこと

こんな工夫をしています。

わからなかったことも振り返る
次の授業へ反映する

視点を明確に
活動の後に一人で考える時間を確保

活用事例② 教員と児童生徒の振り返りに差がある項目

→ ねらいがうまく伝わっていないかも…

教員用質問紙	児童生徒用質問紙
5 3 わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと	2.5 3 わからないことなどを質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと

いつでも質問していいんだよ。
質問してみようかな、でも…

質問項目 2

主体的な学びに関する質問調査項目です。こちらは教員 5、児童生徒 4.4 と高い数値となっています。
先生が振り返りの場面を工夫し、継続的に設定したことが児童生徒にとって効果的だったということが分かります。

質問項目 3

主体的な学びに関する質問調査項目です。教員は 5、児童生徒の集計結果は 2.5 と回答に幅があります。
回答に差がある場合は、先生方お気づきのとおり、残念ながら先生のねらいが児童生徒に届いていないということがわかり、指導方法や教材などの工夫改善が必要となります。

活用事例③ 教員も児童生徒も低い数値の項目

→ 授業改善のチャンス!

教員用質問紙	児童生徒用質問紙
1 6 対話を進めて、多様な視点や考えを収集させたり、自分と異なる考えや考え方を共有できるようにしたこと	1.3 6 話し合いや集めた資料から、自分の考えが変わったり、深まったりしたこと

そういえば、やってないかも…

活用事例④ 児童生徒間での差がある項目

→ 個々の状況に着目

児童生徒用質問紙	児童生徒用質問紙
4 5 議論の解決に貢献して、話し合いや意見をまとめることについて、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるよう工夫したこと	3.8 3 課題の解決に向けて、話し合いや意見をまとめることについて、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと

児童生徒A: 5
児童生徒B: 3
児童生徒C: 3
児童生徒D: 1
児童生徒E: 4
児童生徒F: 3

一人一人に着目すると…

Aさんは、確かに話し合い活動をしたあとの表情がよいかも。
Dさんは、話し合い活動がうまく機能しなかったのかな…。ペアを工夫してみようかな。

質問項目 6

対話的な学びに関する質問調査項目です。教員の回答が 1、児童の回答が平均 1.3 でした。
この場合は、まずは、教員が授業の展開の中で「対話的な学び」を意識する必要があります。
各教科の資質能力を育成するために適切な場面で、対話的な学びを取り入れるようにしましょう。

質問項目 5

対話的な学びに関する調査です。児童生徒の集計結果は 3.8 と高い数値に見えますが、A の児童生徒のように 5 と回答した子もいれば、D の児童生徒のように 1 と回答した子もいるという事が同じ教室の中でも起こります。
児童生徒の個々の回答結果を確認することによって、児童生徒一人一人の学習における困り感や目に見えない声を聴くことができます。

研修用資料サイトに掲載されている資料

児童生徒用・教師用質問紙 (word 形式)

学校 対話的学習質問紙	学校 対話的学習質問紙
児童生徒用	教師用
1. 対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	1. 対話的学習とは、どのような学習活動のことか。
2. 対話的学習の目的は、どのようなことか。	2. 対話的学習の目的は、どのようなことか。
3. 対話的学習の場面は、どのような場面か。	3. 対話的学習の場面は、どのような場面か。
4. 対話的学習のやり方は、どのようなやり方か。	4. 対話的学習のやり方は、どのようなやり方か。
5. 対話的学習の効果を、どのように感じているか。	5. 対話的学習の効果を、どのように感じているか。
6. 対話的学習の課題は、どのような課題か。	6. 対話的学習の課題は、どのような課題か。
7. 対話的学習の工夫は、どのような工夫か。	7. 対話的学習の工夫は、どのような工夫か。
8. 対話的学習の感想は、どのような感想か。	8. 対話的学習の感想は、どのような感想か。

質問紙集計表 (excel 形式)

学校	学年	性別	年齢	質問項目	回答	集計結果
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	4
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	2
1	1	男	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	5
1	1	女	10	1	対話的学習とは、どのような学習活動のことか。	3
1	1	男	1			

4 学級経営リーフレット～よりよい学級経営を目指して～

(1) 概要

学級経営リーフレットでは、よりよい学級経営につながる4つの視点、16のポイントを示しています。よりよい学級経営を目指した取組は、決して学級担任だけのものではなく、授業を行う全ての教員に必要なものです。校内研修において全教職員で活用し、具体的な場面を想定しながら話し合うことで、学校全体で共通理解・共通行動で学級経営を進めていくことができます。

4つの視点、16のポイントには、具体的な学習や生活の場面で、教員がいつでも振り返りができるようにチェック欄を設けています。

さらに、日々の児童生徒の笑顔や頑張りを、担任（授業者）としての手ごたえから、学級がよりよい状態に近づいているのかを客観的に学級の状況を把握し、改善につなげることができます。

(2) よりよい学級経営4つの視点と16のポイント

よりよい学級経営4つの視点と16のポイント ～埼玉県学力・学習状況調査における質問調査項目も参考に～	
視点1 確かな児童生徒理解	5つのポイント
視点2 児童生徒との信頼関係	4つのポイント
視点3 児童生徒の規範意識	3つのポイント
視点4 児童生徒の望ましい人間関係	4つのポイント



視点1	よりよい学級経営につながる『確かな児童生徒理解』
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> □ 日頃から児童生徒と会話（必要に応じて面談）をしたり、一緒に遊んだりして実施把握に努めている。 □ 児童生徒一人一人のよさを認め、学級で活躍できる機会を意図的につくり出している。 □ 児童生徒の様子について、管理職、学年の教員、教科担任、部活動の顧問、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどと話し合っている。 □ アンケートや調査データなどからも情報収集している。 □ 保護者会などにより、家庭と交流・連携している。
県学調 質問調査項目	Q. 学級での生活は楽しかったですか Q. 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか Q. 学校の先生たちは自分の悩みの相談にのってくれましたか

視点2	よりよい学級経営につながる『児童生徒との信頼関係』
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒の言葉を受け止めて傾聴したり、児童生徒のとった行動の背景や気持ちを理解しようとしていたりしている。 □ 児童生徒ができなかったことを、できるようになるまで粘り強く指導しようとしている。（場面に応じて、児童生徒の変容を待つことも大切） □ 認める、ほめる、励ますなど、児童生徒に肯定的な言葉掛けをしている。 □ 個の状況を把握したうえで、公正・公平な態度・指導を行っている。
県学調 質問調査項目	Q. 学校の先生たちは自分の良いところを認めてくれましたか Q. 学校の先生たちは自分の悩みの相談にのってくれましたか Q. 学校の先生たちは授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてくれましたか

視点3	よりよい学級経営につながる『児童生徒の規範意識』
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> □ 学級のルールについて任せられる範囲で児童生徒が話し合ったり、意味を考えたりする機会を設けている。（学級の全てのルールを担当が一人で決めない） □ いじめや暴力を許さず、指導方針に「ふれ」がなく、叱るべき時には毅然と叱ることができている。 □ 当番活動等への取組に対し、声掛けや見守りをおとして、責任をもって自ら行動できる能力を養っている。
県学調 質問調査項目	Q. 昨年度の学級は落ち着いた様子で学習する様子でしたか

視点4	よりよい学級経営につながる『児童生徒の望ましい人間関係』
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒のよさを引き出す活動の工夫やよさを学級に広げる声掛けなどをしている。 □ 集団活動による心のふれあいや分かち合い、協働的な取組を意図的に行っている。 □ 学級活動を充実させ、多様な考えに折り合いをつけながら、自分もよく、みんなもよい解決方法を考えられるようにしている。 □ 互いを認め合い、支え合うことの大切さを体験的に学ぶ機会を意図的に設け、他者の失敗や短所に寛容で共感的な学級の雰囲気（支持的風土）を醸成している。
県学調 質問調査項目	Q. 学校の友達とは自分の良いところを認めてくれましたか Q. あなたの学級は色々な活動にまともって取り組んでいたと思いますか（運動会や遠足などの学校行事も入ります）

(3) 調査資料（研修用資料サイト掲載）

「学級経営リーフレット」に関するデータは、使用方法の説明資料とともに県立総合教育センターのHP内にある、義務教育指導課研修用資料サイトにアップロードされています。（IDやパスワード不要）

義務教育指導課 研修用資料サイト
<https://ecswb.center.spec.ed.jp/gimushi/>





埼玉県学力・学習状況調査キャッチフレーズ

タツプで実感 アツプでスマイル

埼玉県学力・学習状況調査報告書

検索



<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>